

---

所 沢 市

---

# 駿河台遺跡

---

地方特定道路（改築）整備工事（一般県道所沢堀兼狭山線）関係  
埋蔵文化財発掘調査報告

2 0 0 8

埼 玉 県

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



1 土層断面



2 石器集中8 石器出土状況

## 駿河台遺跡の紹介

駿河台遺跡は、埼玉県南西部に位置する所沢市ところざわしにあり、市内を流れる砂川堀すながわぼりの中流域左岸に立地しています。この付近は江戸時代に川越城主柳沢吉保やなぎさわよしやすによって開発された三富新田さんとめしんでんと呼ばれており、遺跡から南西約2.8kmに西武新宿線新所沢駅があります。

駿河台遺跡の調査は、一般県道所沢堀兼狭山線の建設に伴うもので、旧石器時代（約15,000年前）の石器集中せつしゅうちゆうや礫群れきぐんが発見され、ナイフ形石器やスクレイパーなどの石器が出土しました。また、縄文時代早期（約9,000年前）の土器も出土しました。砂川堀の上流域には旧石器時代の遺跡として著名な砂川遺跡すながわや中砂遺跡なかすながあり、下流域では貝塚山遺跡かいづかやまや東台遺跡ひがしだいが調査されています。今回の駿河台遺跡の調査によって、今まで不明な点が多かった砂川堀中流域の状況が明らかになってきました。

# 序

埼玉県では、「人と自然にやさしい道づくり」を基本理念とし、「時間が読める道づくり」と「安心と活力の道づくり」を目標に道路整備を進めてまいりました。また、その具体的整備方針の一つである「体系的な道路網の整備」として、高速道路の整備効果を最大限に活用するため、インターチェンジに短時間でアクセスする道路の整備を推進しております。

一般県道所沢堀兼狭山線は、所沢市と狭山市を縦断し、両市街地の交通渋滞の緩和を図るとともに、狭山環状有料道路を経て圏央道狭山インターチェンジへアクセスする重要な幹線道路であります。事業は昭和63年度に着手され、一部の区間を除いて既に開通しています。その事業地内に所在する駿河台遺跡の取り扱いについては、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課（当時）が関係諸機関と慎重に協議を重ねてまいりましたが、やむを得ず発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることとなりました。発掘調査は、埼玉県土木部道路整備課（当時）の委託を受けて当事業団が実施いたしました。

発掘調査の結果、旧石器時代の石器集中や礫群が検出されたとともに、縄文時代早期の土器片が発見されるなど、限られた範囲の中で大きな成果を上げることができました。

本書は、これら発掘調査の成果をまとめたものであります。埋蔵文化財の保護、普及・啓発の資料として、また学術研究の基礎資料として広くご活用いただければ幸いです。

本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整にご尽力いただきました埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課をはじめ、埼玉県県土整備部道路街路課、川越県土整備事務所、所沢市教育委員会並びに地元関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成20年2月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
理 事 長 刈 部 博

# 例言

1. 本書は、所沢市に所在する駿河台遺跡第2次調査の発掘調査報告書である。
2. 遺跡の略号と代表地番、発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。  
駿河台遺跡第2次（SRGDI）  
埼玉県所沢市下富484-1番地他  
平成12年6月14日付け 教文第2-26号
3. 発掘調査は、県道所沢堀兼狭山線（所沢市地内）事業に伴う埋蔵文化財記録保存のための事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課（当時）が調整し、埼玉県土木部道路整備課（当時）の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 各事業の委託業務名は、下記のとおりである。  
発掘調査事業  
「県道所沢堀兼狭山線（所沢市地内）埋蔵文化財発掘調査」  
整理報告書作成事業  
「地方特定道路（改築）整備工事（埋蔵文化財発掘調査（整理）委託）」
5. 発掘調査・整理報告書作成事業は、I-3の組織により実施した。第2次調査は、平成12年4月10日から平成12年5月31日まで、西井幸雄・新屋雅明が担当して実施した。  
整理・報告書作成事業は、平成19年10月1日から平成19年12月28日まで岩瀬讓が担当して実施し、平成20年2月29日に事業団報告書第350集として印刷・刊行した。
6. 発掘調査における基準点測量は、株式会社東京航業研究所に委託した。
7. 黒曜石の蛍光X線分析は、大屋道則が行った。
8. 発掘調査時の写真撮影は、西井・新屋が行い、出土遺物の写真撮影は岩瀬が行った。
9. 出土品の整理・図版作成は、岩瀬が行い、西井・黒坂禎二の協力、矢田美知子の補助を受けた。
10. 本書の執筆は、I-1は埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課が、IIは西井・矢田、IVは矢田、Vは黒坂・矢田、他は岩瀬が行った。
11. 本書の編集は岩瀬が行った。
12. 本書に掲載した資料は、平成20年3月以降埼玉県教育委員会が管理・保管する。
13. 発掘調査・本書の作成にあたり下記の機関・方々から御教示・御協力を賜った。記して感謝いたします。（敬称略）  
所沢市教育委員会  
所沢市立埋蔵文化財調査センター  
加藤定男 久保純子 中島岐祝生  
羽鳥謙三 早坂廣人 古谷芳貴  
森野 讓



# 目次

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要 …………… 1	IV 旧石器時代の遺構と遺物 ……………19
1. 発掘調査に至る経過 …………… 1	1. 石器集中 ……………19
2. 発掘調査・報告書作成の経過 …………… 2	2. 礫群 ……………43
3. 発掘調査・報告書作成の組織 …………… 2	V 縄文時代の遺物 ……………49
II 遺跡の立地と環境 …………… 3	VI 黒曜石の蛍光 X 線分析 ……………52
1. 地理的環境 …………… 3	VII 調査のまとめ ……………53
2. 歴史的環境 …………… 6	
III 遺跡の概要 …………… 9	写真図版

# 挿 図 目 次

第1図	埼玉県の地形	3	第22図	石器集中7(1)	26
第2図	周辺の遺跡	4	第23図	石器集中7(2)	26
第3図	武蔵野台地北部の旧石器時代遺跡	7	第24図	石器集中8(1)	27
第4図	遺跡位置図	10	第25図	石器集中8(2)	28
第5図	遺跡調査範囲	11	第26図	石器集中9(1)	29
第6図	土層断面配置図	12	第27図	石器集中9(2)	30
第7図	土層断面図(1)	13	第28図	石器集中10	31
第8図	土層断面図(2)	14	第29図	石器集中11	31
第9図	土層断面図(3)	15	第30図	出土石器(1)	32
第10図	駿河台遺跡全体図(1)	16	第31図	出土石器(2)	33
第11図	駿河台遺跡全体図(2)	17	第32図	出土石器(3)	34
第12図	石器集中分布図	18	第33図	出土石器(4)	35
第13図	石器集中1	20	第34図	接合資料(1)	36
第14図	石器集中2(1)	21	第35図	接合資料(2)	37
第15図	石器集中2(2)	21	第36図	礫群1(1)	44
第16図	石器集中3	22	第37図	礫群1(2)	45
第17図	石器集中4	22	第38図	礫群2	45
第18図	石器集中5(1)	23	第39図	縄文土器拓影図	50
第19図	石器集中5(2)	23	第40図	縄文時代石器	51
第20図	石器集中6(1)	24	第41図	駿河台遺跡発掘調査位置図	55
第21図	石器集中6(2)	25			



## 表 目 次

第1表	石器組成表(1)	19	第8表	礫観察表(1)	46
第2表	石器組成表(2)	20	第9表	礫観察表(2)	47
第3表	石器観察表(1)	39	第10表	礫観察表(3)	48
第4表	石器観察表(2)	40	第11表	縄文時代石器観察表	51
第5表	石器観察表(3)	41	第12表	黒曜石産地推定表	52
第6表	石器観察表(4)	42	第13表	駿河台遺跡黒曜石産地推定集計表	54
第7表	礫属性表	43			

## 写 真 図 版 目 次

卷頭図版1	1	土層断面	図版7	1	石器集中11
	2	石器集中8		2	土層断面
図版1	1	遺跡全景(南東から)	図版8	1	出土石器
	2	遺跡全景(南西から)		2	出土石器
図版2	1	石器集中5(1)	図版9	1	出土石器
	2	石器集中5(2)		2	出土石器
図版3	1	石器集中6	図版10	1	出土石器
	2	石器集中8		2	接合資料
図版4	1	石器集中9・礫群1(1)	図版11	1	接合資料
	2	石器集中9・礫群1(2)		2	縄文土器
図版5	1	石器集中9・礫群1(3)	図版12	1	縄文土器
	2	石器集中9・礫群1(4)		2	縄文土器
図版6	1	石器集中9・礫群1(5)	図版13	1	縄文時代石器
	2	石器集中9・礫群1(6)		2	縄文時代石器

# I 発掘調査の概要

## 1. 発掘調査に至る経過

埼玉県では、快適な県民生活と活力ある社会経済活動を支えるための円滑な道路交通を実現するため、体系的な道路網の形成を目指している。県教育局生涯学習部文化財保護課（当時）ではこうした各種開発事業に対応するため、開発部局との事前協議を行い、文化財保護と開発事業の調整を進めてきた。

県道所沢堀兼狭山線にかかる埋蔵文化財の取扱いについては、土木部道路建設課長（当時）より平成10年11月9日付け道建第453号で文化財保護課長あてに照会があった。これに対し、文化財保護課では工事予定地には駿河台遺跡（No.20-160）が所在すること、事前に文化財保護法57条の3の規定による発掘通知を提出すること、やむを得ず現状を変更する場合には、事前に記録保存のための発掘調査を実施すること、発掘調査の実施につ

いては、当課と協議が必要なことを回答した。（平成12年2月25日付け教文第1121号）

文化財保護法57条の3第1項の規定による発掘の通知は平成12年5月10日付け道整第104号で提出され、それに対する県教育委員会教育長からの通知は平成12年6月14日付け教文第3-123号で行った。発掘調査期間は、平成12年4月10日から平成12年5月31日までである。

また、文化財保護法第57条第1項の規定による発掘調査届が財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出された。

発掘調査の届出に対する指示通知番号は次のとおりである。

平成12年6月14日付け 教文第2-26号

（埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課）

## 2. 発掘調査・報告書作成の経過

### (1) 発掘調査

駿河台遺跡第2次調査は、平成12年4月10日から平成12年5月31日まで実施した。調査面積は1,480㎡である。

4月当初より事務手続きを行い、調査事務所等の設営を行った。4月上旬に重機による表土除去作業を開始した。続いて補助員による作業に着手し、遺構確認作業を実施した。その後、グリッドの北東隅に2m×2mの深掘り区を13箇所設定し、旧石器時代の遺構・遺物の確認を行った。そして石器や礫が確認された区画の周辺を掘り下げ、遺構・遺物の検出を行った。その結果、石器集中11箇所、礫群2基が検出された。

深掘り区及び旧石器掘り下げ区の土層断面図、石器集中や礫群の出土状況図等の作成、出土状況の写真撮影の後、遺物取り上げを行った。

5月下旬、調査区埋め戻し・事務所撤去・事務手続きを行い調査は終了した。

### (2) 整理報告書作成

整理報告書の作成事業は、平成19年10月1日から平成19年12月28日まで実施した。

10月当初から出土遺物の水洗・註記を行い、続いて遺物の接合作業を行った。並行して、遺物台帳の整理、遺物台帳と遺物との照合、遺物の計測を進めた。全体図・遺構図面は図面修正を経て第二原図を作成し、スキャナーで取り込んだものをコンピューターでデジタルトレースを行った。遺物は接合が終了したものから実測作業に入り、順次トレース・採拓を開始した。

11月中旬から遺物の写真撮影、図面・写真の割付、原稿執筆を進め報告書の編集を開始した。12月下旬に印刷会社を決定し入稿、3回の校正を経て、平成20年2月末に報告書を刊行した。

入稿後に本報告書で扱った図面類・写真類・遺物等を整理・分類し、収納作業を行った。

## 3. 発掘調査・報告書作成の組織

### 平成12年度（発掘調査）

理 事 長	中 野 健 一	調 査 部	
常務理事兼管理部長	広 木 卓	調 査 部 長	高 橋 一 夫
管 理 部		調 査 部 調 査 副 部 長	石 岡 憲 雄
管 理 部 副 部 長	関 野 栄 一	専 門 調 査 員 (調 査 第 二 担 当)	大 和 修
主 席 (庶 務 担 当)	阿 部 正 浩	統 括 調 査 員	西 井 幸 雄
主 席 (施 設 担 当)	野 中 廣 幸	主 任 調 査 員	新 屋 雅 明
主 席 (経 理 担 当)	江 田 和 美		

### 平成19年度（報告書作成）

理 事 長	刈 部 博	調 査 部	
常務理事兼総務部長	岸 本 洋 一	調 査 部 長	村 田 健 二
総 務 部		調 査 部 副 部 長	磯 崎 一
総 務 部 副 部 長	昼 間 孝 志	整 理 第 一 課 長	宮 井 英 一
総 務 課 長	松 盛 孝	主 査	岩 瀬 讓

## II 遺跡の立地と環境

### 1. 地理的環境

駿河台遺跡は、埼玉県所沢市下富484-1番地他に所在する。遺跡は西武新宿線の新所沢駅から北東約2.8kmに位置し、所沢市の北東部で狭山市、川越市、三芳町、ふじみ野市との境界部にあたる。

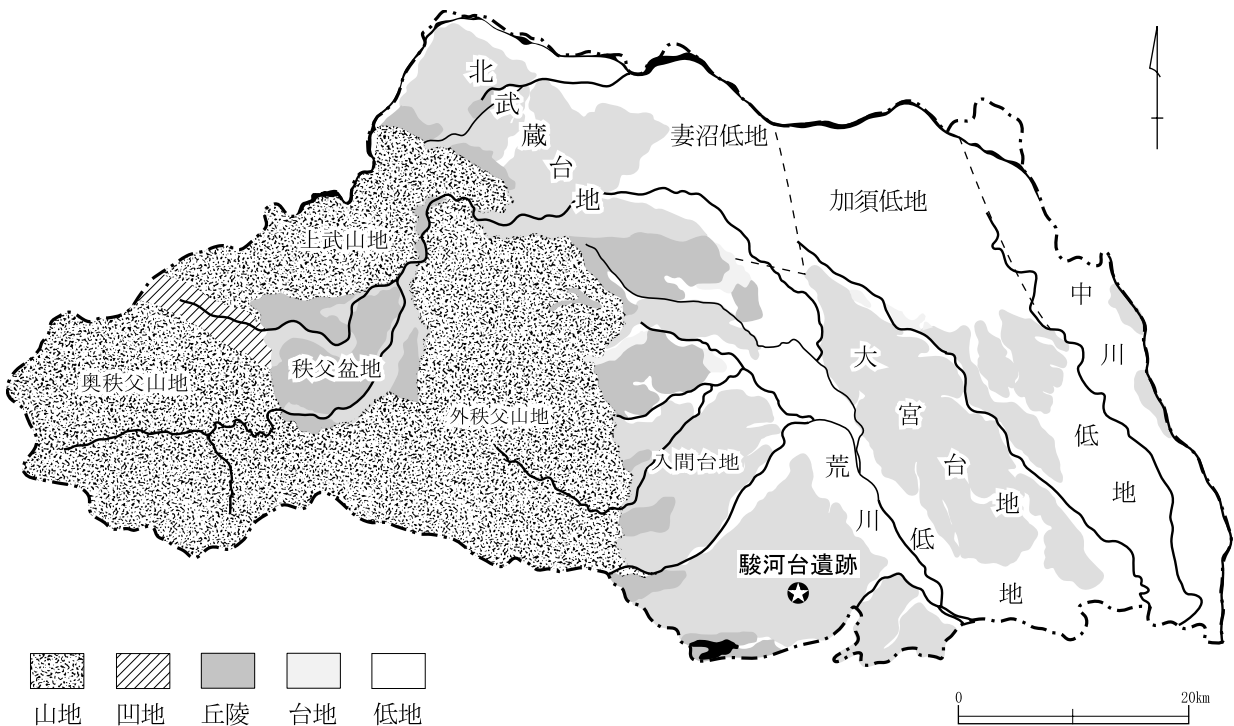
遺跡の所在する武蔵野台地北部は、青梅市を扇頂とし荒川低地に向かう扇状地地形をよく残している。扇頂部の標高は約180m、扇端部富士見市付近では約10mで、1kmあたりの傾斜を表す平均勾配は6.2%である。

武蔵野台地の形成史を見ると、多摩川は、多摩期には狭山丘陵の北側を北東に流れる時期が多く、不老川はその名残川と考えられている。その後、多摩川の流路は順次南側に変更し、現在の多摩川低地を流れるようになるのは立川期になってからである。その意味では武蔵野台地北部は古い地形を残す地域といえる。

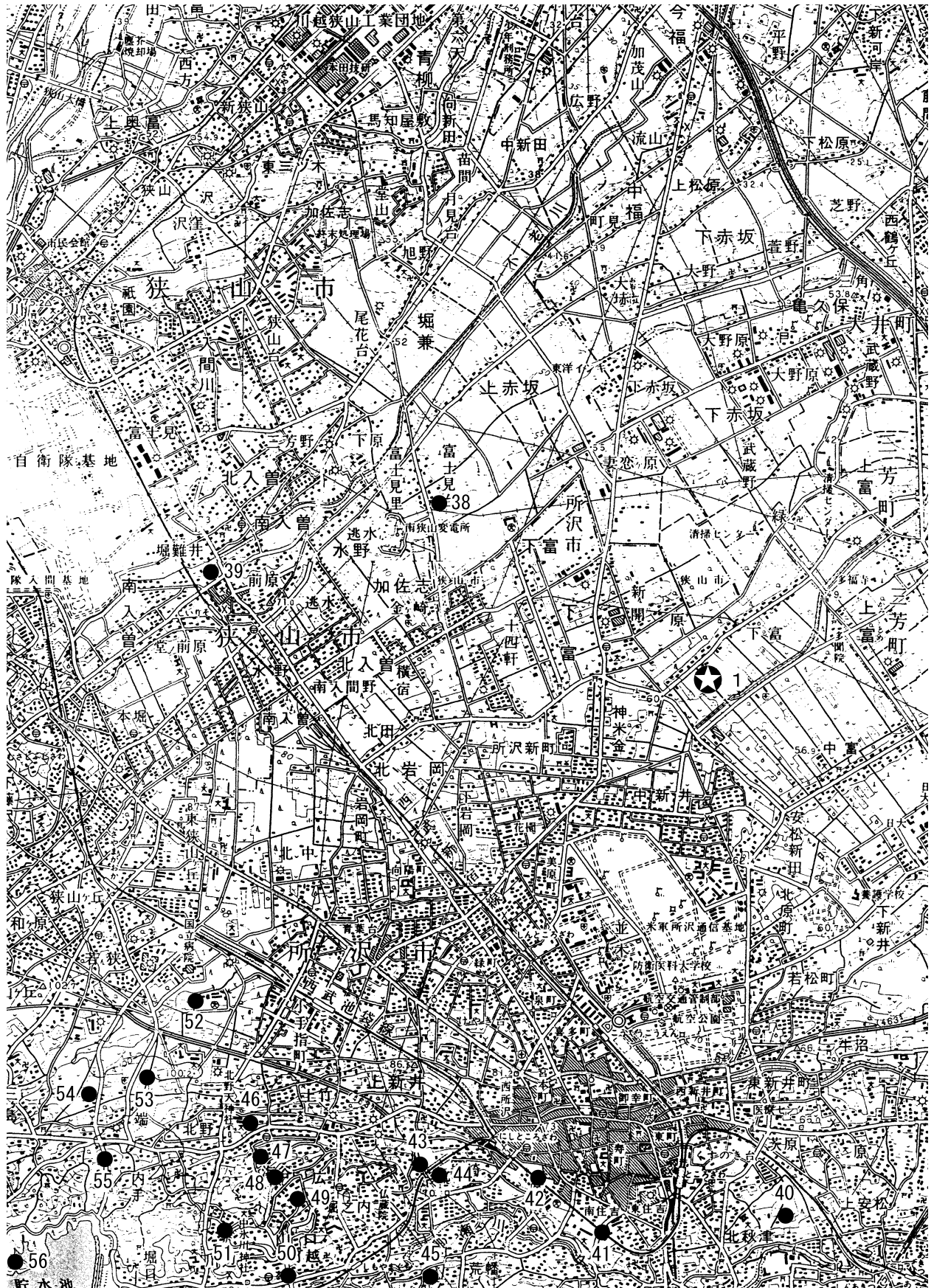
次に当該地域の地形面をみると、狭山丘陵から

のびる所沢台と加治丘陵からのびる金子台（いずれも下末吉面）に挟まれた大井台（武蔵野面）は、扇中部から扇端部にあたり、立川面に対比される不老面は、金子台に沿って一段低い面を形成している。

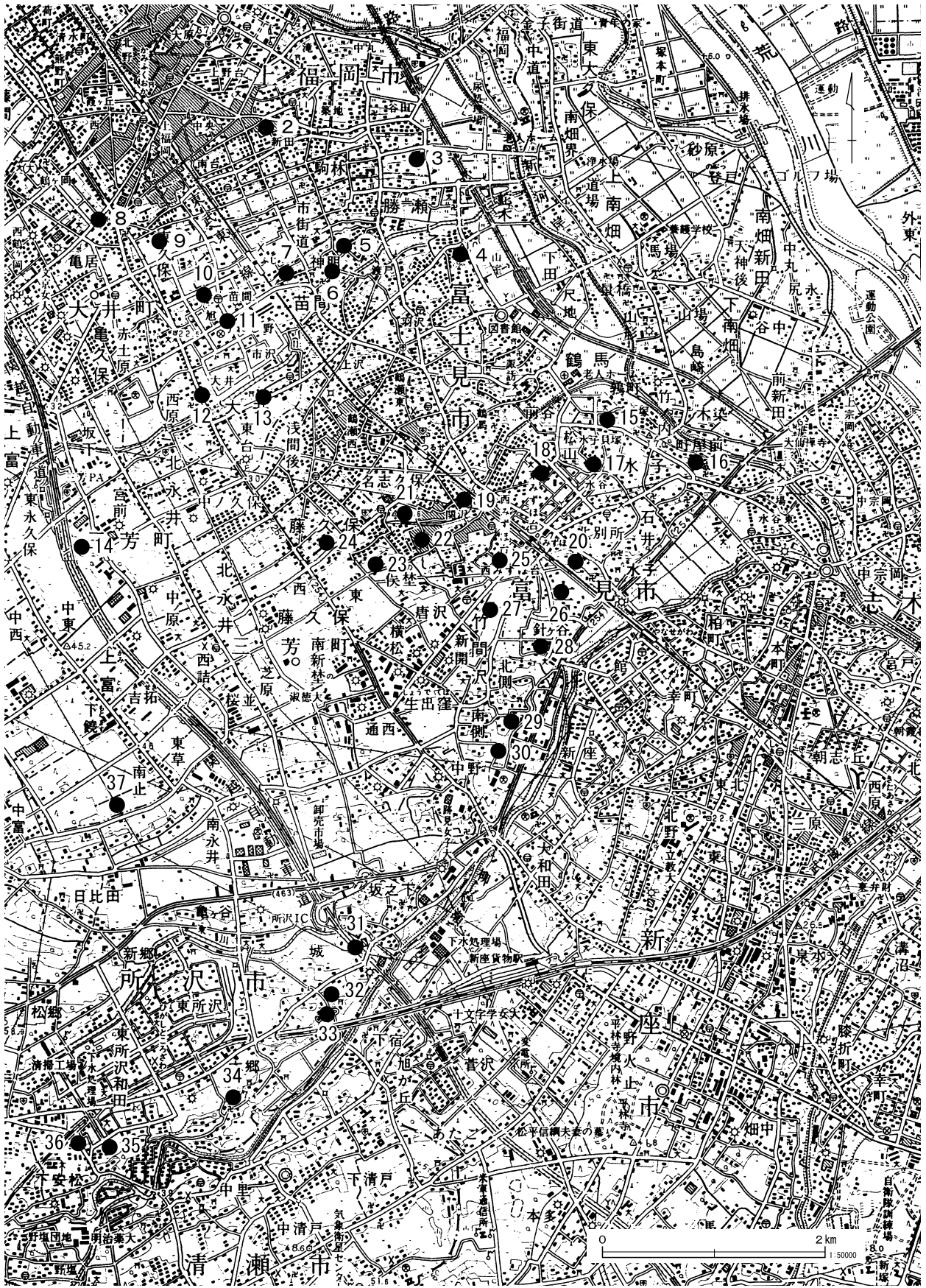
狭山丘陵を水源とする砂川堀は、平時は扇中部で伏流し扇端部で再び地表に現れる。また扇端部では、伏流水が富士見江川・砂川堀等の流路の短い小河川となり新河岸川に注いでいる。このため、扇中部は水の無い地域と考えられ開発は困難とされ、江戸時代の三富新田の開発まで人が住まなかったと思われていた。しかし、台風等の大雨の後には、扇中部でも野水として地表に現れる湧水地点が知られてきている。遺跡はこうした凹地に面する南側斜面に立地している。本調査区内での標高は57～59mである。



第1図 埼玉県の地形



第2図 周辺の遺跡



## 2. 歴史的環境

旧石器時代の遺跡は、学史上有名な砂川遺跡 (54) と中砂遺跡 (52)、白幡塚遺跡 (53)、和田遺跡 (35) などがある。砂川上流域と柳瀬川支流の東川上流域の間に狭山丘陵からのびる所沢台 (下末吉面) 上に立地する。この地域は「小手指ヶ原湧水群」と呼ばれることもあり、周辺に多くの遺跡が分布している。砂川期からナイフ形石器終末期にかけての遺跡が多く、湧水を利用して遺跡が形成されたと考えられる。

砂川中流域は大井台 (武蔵野面) で、扇央部に当たり河川が伏流するため、水の便が悪く、近世の新田開発以前にはほとんど人が住んだ痕跡がない「遺跡の空白地帯」と考えられていた。しかし、森野譲氏の長年の分布調査によって駿河台遺跡 (1) 等が発見され (森野1993)、さらに所沢市教育委員会と砂川遺跡調査団によって、駿河台遺跡、三芳町中東遺跡 (14)、南止遺跡 (37) 等の旧石器時代の遺跡が分布することが明らかとなった (砂川遺跡調査団・所沢市教育委員会1997、石器文化研究会交流会2006)。遺跡は、標高50m 付近の凹地状の南側斜面に立地し、周囲には増水時に野水として地表に現れる湧水地点がある。この野水を利用して単発的な遺跡が形成されたと考えられ、これらの遺跡を「野水遺跡群」と呼称している (森野2006、加藤2007)。時期的な偏りはなく、多時期にわたって小規模な遺跡が形成されたと考えられる。

さらに標高30m 付近から扇端部にかけては、伏流水が地表に出て、小河川を形成する。砂川下流域のふじみ野市では、表出した河川に沿って東台遺跡 (13) や本村遺跡 (12) 等の遺跡がある。三芳町藤久保東遺跡 (24)、藤久保東第二遺跡 (23)、俣埜遺跡 (22) では、富士見江川の水源地を囲むように大量の石器群が出土しており、拠点的な遺跡と考えられている。富士見市貝塚山遺跡 (4) や打越遺跡 (18) では河川の合流地点に遺跡が形成されている。Ⅹ層段階からⅥ層段階まで古い時期の石器群が多く、恒常的な水資源を利用して、拠点的な遺跡が形成されたと考えられる。

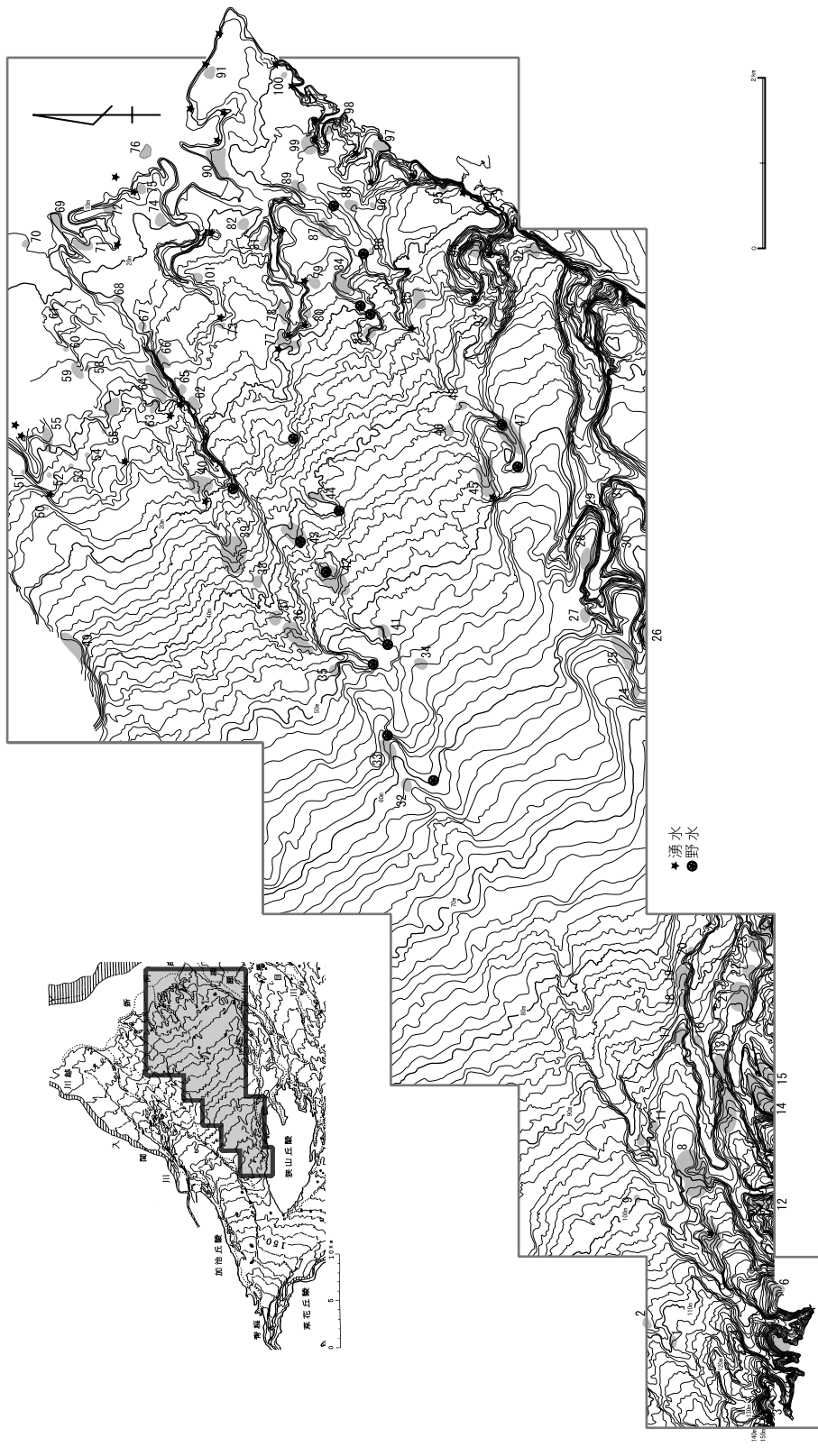
縄文時代の遺跡は、早期から確認されている。柳瀬川支流の山下後遺跡 (42) や海谷遺跡 (48) で燃糸文式期の住居跡が、条痕文式期の住居跡が宮前遺跡 (47) で検出されている。また、早期の炉穴が和田遺跡や白幡塚遺跡をはじめ多くの遺跡で検出されている。

前期は、海谷遺跡で82軒の関山式期の住居跡が確認され、城遺跡 (31) や西上遺跡 (34) でも黒浜式期の長方形大型住居跡が検出されている。

中期になると遺跡数が増加し、海谷遺跡では100軒を超える住居跡が検出されている。山下後遺跡や和田遺跡、狭山丘陵の畦の前遺跡 (45) でも集落が検出されている。

後期以降は遺跡数が激減する。畦の前遺跡で堀之内式期の住居跡が、宮前遺跡でも称名寺式期の

1 駿河台遺跡	2 富士見台横穴墓群	3 鷺森	4 貝塚山	5 苗間東久保	6 浄禅寺跡	7 神明後
8 亀居	9 東中学校西	10 東久保南	11 西ノ原	12 本村	13 東台	14 中東
15 氷川前	16 観音前	17 水子貝塚	18 打越	19 八ヶ上	20 栗谷ツ	21 藤久保東第三
22 俣埜	23 藤久保東第二	24 藤久保東	25 松ノ木	26 北通	27 新開	28 南通
29 古井戸山	30 本村南	31 城	32 滝之城跡	33 滝之城横穴墓群	34 西上	35 和田
36 東京道南	37 南止	38 堀兼之井	39 七曲井	40 北秋津横穴墓群	41 東の上	42 山下後
43 膳棚東	44 村中	45 畦の前	46 吉野 (場北)	47 宮前	48 海谷	49 野竹
50 山口城跡	51 高峰	52 中砂	53 白幡塚	54 砂川	55 後内手	56 根古屋城跡



1	上樽井戸	2	富士塚	3	比良	4	宮林	5	お伊勢山	6	日向	7	砂川	8	白幡塚	9	清橋	10	中砂	11	野中	12	後内手
13	吉野	14	宮前	15	海谷	16	宇治	17	所沢No.72	18	上新井台	19	ハケ	20	上ノ台	21	膳棚	22	膳棚東	23	村中	24	北原
25	程久保	26	茨山	27	武蔵野	28	所沢No.81	29	日比田向山	30	所沢No.153	31	屋敷前	32	縮荷前	33	膝河台	34	月野原西	35	霞台	36	上水久保
37	多福寺北	38	木の宮	39	東永久保	40	境松	41	月野原	42	中西	43	中東第二	44	中東	45	南止	46	東草	47	南平	48	窪野
49	鶴ヶ丘外	50	亀居	51	鶴ヶ舞	52	江川南	53	東久保西	54	東中学校西	55	東久保	56	東久保南	57	西ノ原	58	中沢前	59	中沢	60	外記塚
61	苗間東久保	62	西台	63	大井氏館跡	64	本村	65	大井戸上	66	東台	67	上沢	68	西渡戸	69	貝塚山	70	宮廻	71	羽沢	72	山室
73	浅間後	74	谷津	75	黒貝戸	76	宿	77	藤久保東	78	藤久保東第三	79	俣塙	80	藤久保東第二	81	本目	82	ハケ上	83	南新塙	84	藤久保南
85	通西	86	新開第二	87	三芳唐沢	88	新開	89	松ノ木	90	打越	91	氷川前	92	甲館出	93	南一本木	94	新田	95	古井戸山	96	北原
97	南通	98	北通	99	粟谷ソ	100	東台	101	権平沢														

第3図 武蔵野台地北部の旧石器時代遺跡（註1）



住居跡がそれぞれ1軒確認されたにすぎない。

弥生時代は、後期になってようやく遺跡が確認される。柳瀬川流域にある東の上遺跡(41)からは50軒を超える住居跡と共に方形周溝墓が検出され、住居域と墓域が明瞭に区別されていた。また、東の上遺跡や後内手遺跡(55)、宮前遺跡では小規模ながら水田が検出されている。

古墳時代の遺跡の特徴の一つとして、古墳跡の検出例が少ないことが上げられる。所沢市内では海谷遺跡、膳棚東遺跡(43)、山下後遺跡でそれぞれ2基、村中遺跡(44)で1基の合計7基の古墳跡が調査されているにすぎない。古墳跡は何れも直径20~30mの円墳で、6世紀後半から7世紀中頃の築造と考えられているが、埋葬施設に違いが見られる。横穴墓は柳瀬川左岸の滝之城横穴墓群(33)で9基、北秋津横穴墓群(40)で8基が確認されている。

集落跡は、狭山丘陵と柳瀬川流域に集中する傾向が見られる。柳瀬川上流で小谷を挟んである海谷遺跡と宮前遺跡では、弥生時代後期から古墳時代後期にかけての住居跡が200軒以上検出されている。また、高峰遺跡(51)、野竹遺跡(49)、宮前遺跡、東の上遺跡で、中期から後期にかけての住居跡が確認されている。

奈良・平安時代の遺跡は、東の上遺跡が代表的な遺跡である。300軒を超える住居跡や倉庫群と思われる80棟余りの掘立柱建物跡、そのほか道路跡や溝跡が検出され、鉄製品、漆紙文書などが出土した。道路跡は上野国と武蔵国府を結ぶ東山道武蔵路と想定され、これに関連した拠点的な大規模集落であったと考えられている。東京道南遺跡

(36)では溝跡に区画された中に奈良時代の住居跡と四面庇の掘立柱建物跡が検出され、寺院跡と想定されている。このほか畦の前遺跡、宮前遺跡、野竹遺跡、砂川遺跡等から数軒程度の住居跡が確認されている。

中世になると狭山丘陵内の根古屋城跡(56)、

柳瀬川上流域の山口城跡(50)、滝之城跡(32)などが見られる。山口城跡では土罌や堀跡が検出され、板碑や陶器、かわらけが出土した。滝之城跡では障子堀、四脚門跡が検出されている。海谷遺跡、野竹遺跡、東の上遺跡等からも地下式坑や火葬墓が検出されている。

また、この地域には水に係る遺跡が残されている。近接する狭山市内の七曲井(39)では昭和45年発掘調査が行われている。井戸跡は、すり鉢形の上部構造と井筒にあたる下部構造に分けられ、全体としては漏斗状となっている。深さはすり鉢部の底面までが7m、井筒部の底面は完掘されていないために不明であるが、地表から11m以上と推定されている。出土遺物は須恵器、板碑、石臼、砥石等が見られたが90%は陶磁器であった。堀兼之井(38)は七曲井同様の井戸跡と考えられているが、発掘調査が行われていないため詳細は不明である。井戸跡は、地下水位が低いいため、かなり深く掘られたようである。また、これらの井戸跡は、平安時代以降に『伊勢集』や『枕草子』等にあらわれる「ほりかねの井」の一つと捉えられ、鑿井が平安時代まで遡るとも考えられている。そして付近に奈良・平安時代の集落がないことや、鎌倉街道に隣接する位置にあることから、街道を通行する人のために掘られたものと推察されている。

近世になると、それまであまり人の手が入っていなかった駿河台遺跡周辺にも新田開発が行われた。川越藩主柳沢保明(吉保)によってすすめられた三富新田の開発である。元禄7~9年(1694~96)にかけて行われ、現在でも短冊形の区割りが認められる。村民の信仰のよりどころとして建立された多福寺には、深さが12m程の井戸が残されており、地下水位の低さを物語っている。また、付近では「所沢の火事は泥で消す」といった水にまつわる格言も残されている。

#### 註

1 第3図は(加藤2008)から引用した。

### Ⅲ 遺跡の概要

駿河台遺跡は所沢市下富の砂川堀中流域に所在する。武蔵野台地北部扇状地の扇中部に立地する。所沢市在住の森野譲氏によって発見され、平成5年に『明日への文化財33号』で紹介されている。この中で森野氏は、160点を超える石器を採集したとされ、実測図を示し、立地や周辺の状況、石器群の分析等詳細な報告をされている。

遺跡はその後、所沢市道の建設に伴い平成9年度に市教育委員会による発掘調査が行われた。遺跡範囲の西端から中央部に向かって約200m、3,780㎡が調査された。旧石器時代の石器集中が6箇所検出され、槍先形尖頭器、ナイフ形石器、スクレイパー、剥片等が出土した。また、縄文時代早期後半の炉跡2箇所、縄文時代中期の集石土坑2基が検出され、集石土坑からは打製石斧や加曽利E式期の土器片が出土した（所沢市埋蔵文化財調査センター年報No.4 1999）。

今回の調査は、一般県道所沢堀兼狭山線建設に伴うものである。所沢市教育委員会調査区の東側に隣接する地点で、調査面積は1,480㎡である。遺構確認面の標高は57.1～58.2mで、調査区の南東方向に向かって低くなっている。調査区内は畑の耕作やゴボウのためのトレンチャーによる攪乱が深くまで及んでおり、遺構・遺物の遺存状態は極めて悪かった。このためグリッド一括で取り上げた遺物が多くある。

検出された遺構は、旧石器時代の石器集中が11箇所、礫群2基である。石器集中、礫群共に調査区南東側の斜面部に偏る傾向が見られ、北西側の平坦部には石器集中が1箇所検出されたのみである。なお、石器集中、礫群の範囲は再検討を行ったため、発掘調査時とは遺構数に変更が生じた。

出土石器総数はグリッド一括も含め253点で、このうち111点が石器集中として捉えられる。礫は総数138点で、礫群として捉えられるのは91点

である。全体的には遺物の分布状況は散漫で、最も多く石器が出土した石器集中9で26点、最少では石器集中1と石器集中4の2点であり、石器集中ごとの分布の差が大きい。礫群では、礫群1が87点とややまとまりが見られるが、礫群2では4点とごく僅かである。

出土した石器は、ナイフ形石器、スクレイパー、二次加工のある剥片、剥片、石核等である。

また、遺構は検出されていないが、縄文時代の土器128点と石鏃、磨石、スタンプ形石器等の石器が出土した。土器は中期から後期かと思われる破片が2点見られるが、あとの126点は早期撚糸文系東山式期と考えられる。何れも小片である。

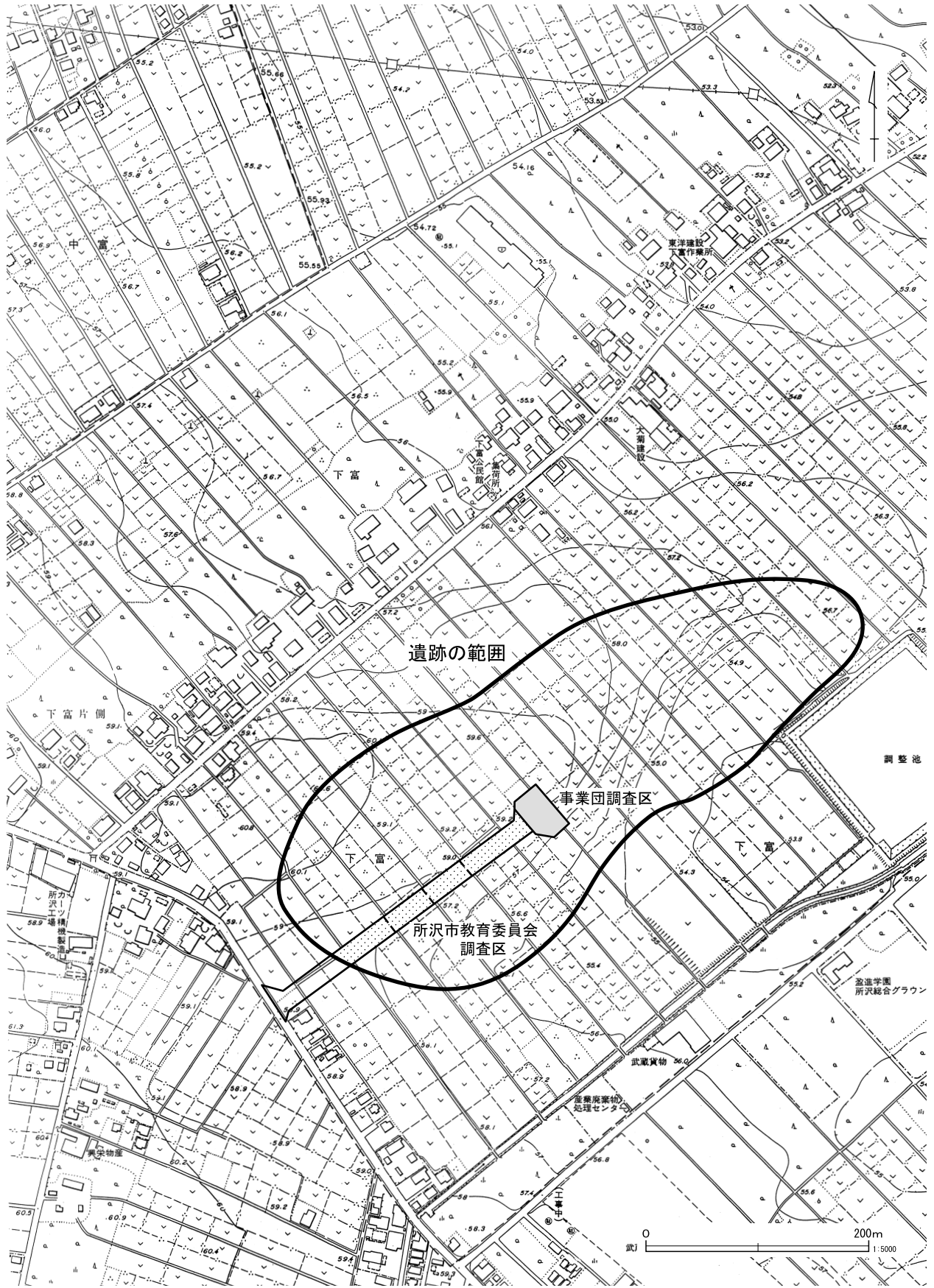
このほか近世または近代以降と思われる陶磁器小片が55点出土した。なお、発掘時にムロ状遺構としたものは、現代のものと判明したため整理対象から除外した。

#### 層位

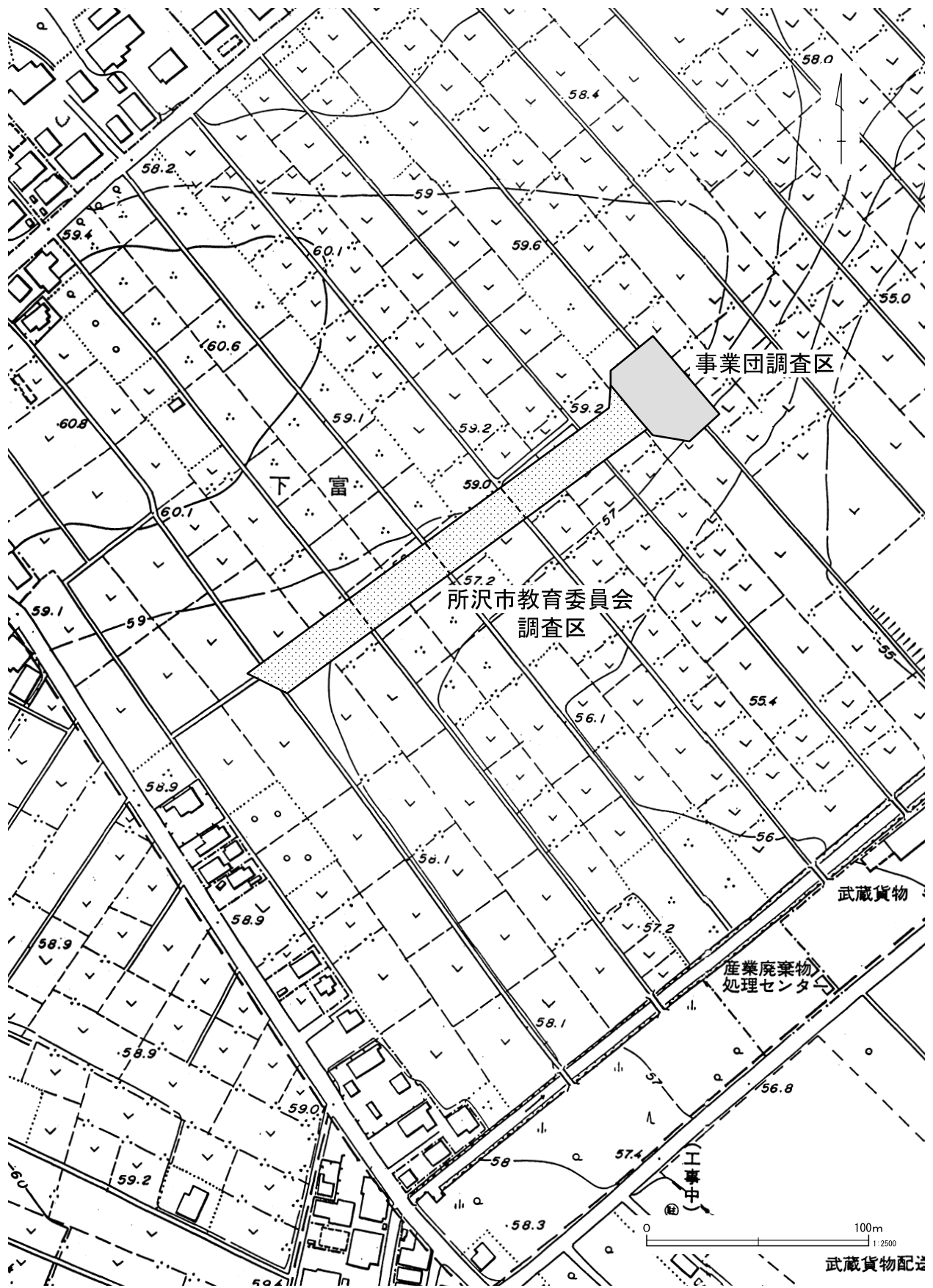
遺跡は武蔵野台地北西部の武蔵野面に位置している。調査区は、北西側が平坦で標高が高く、南東に向かって緩やかな斜面となり、全体的に耕作による攪乱が激しく見られた。標高が高い部分では、立川ローム第Ⅲ・Ⅳ層が観察されたが、低い地点では上層が観察されない地点が多かった。

基本的な土層の説明は以下の通りである（第6～9図）。

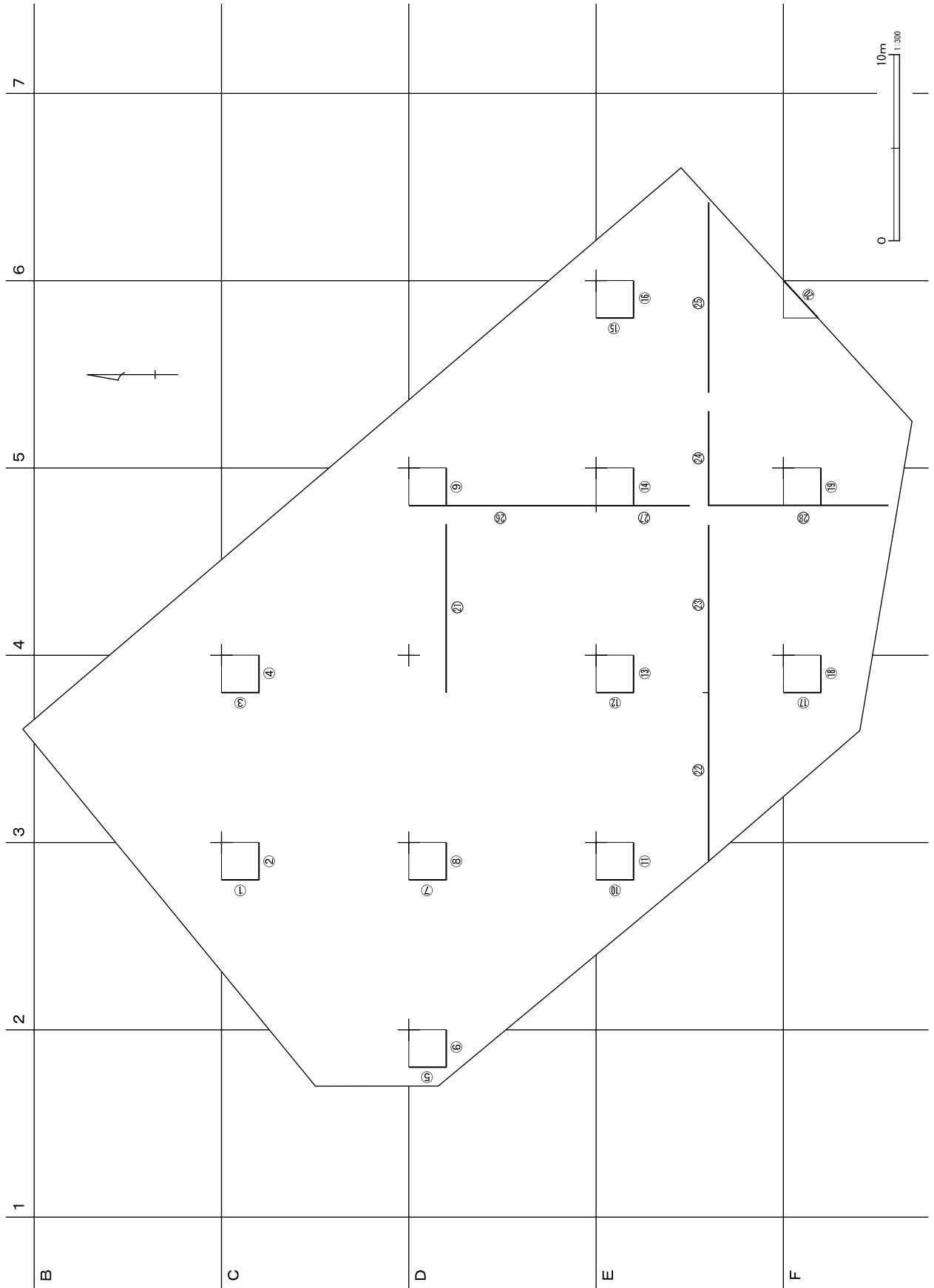
- I層 表土及び耕作土。
- Ⅲ層 黄褐色ローム層。いわゆるソフトローム層。Ⅲ層下部が遺物包含層と考えられる。ソフト化は第2黒色帯下部まで進行している。
- Ⅳ層 黄褐色ローム層。いわゆるハードローム層。ソフトロームの間にブロック状に確認できる。
- V層 暗褐色ローム層。第1黒色帯。白色スコ



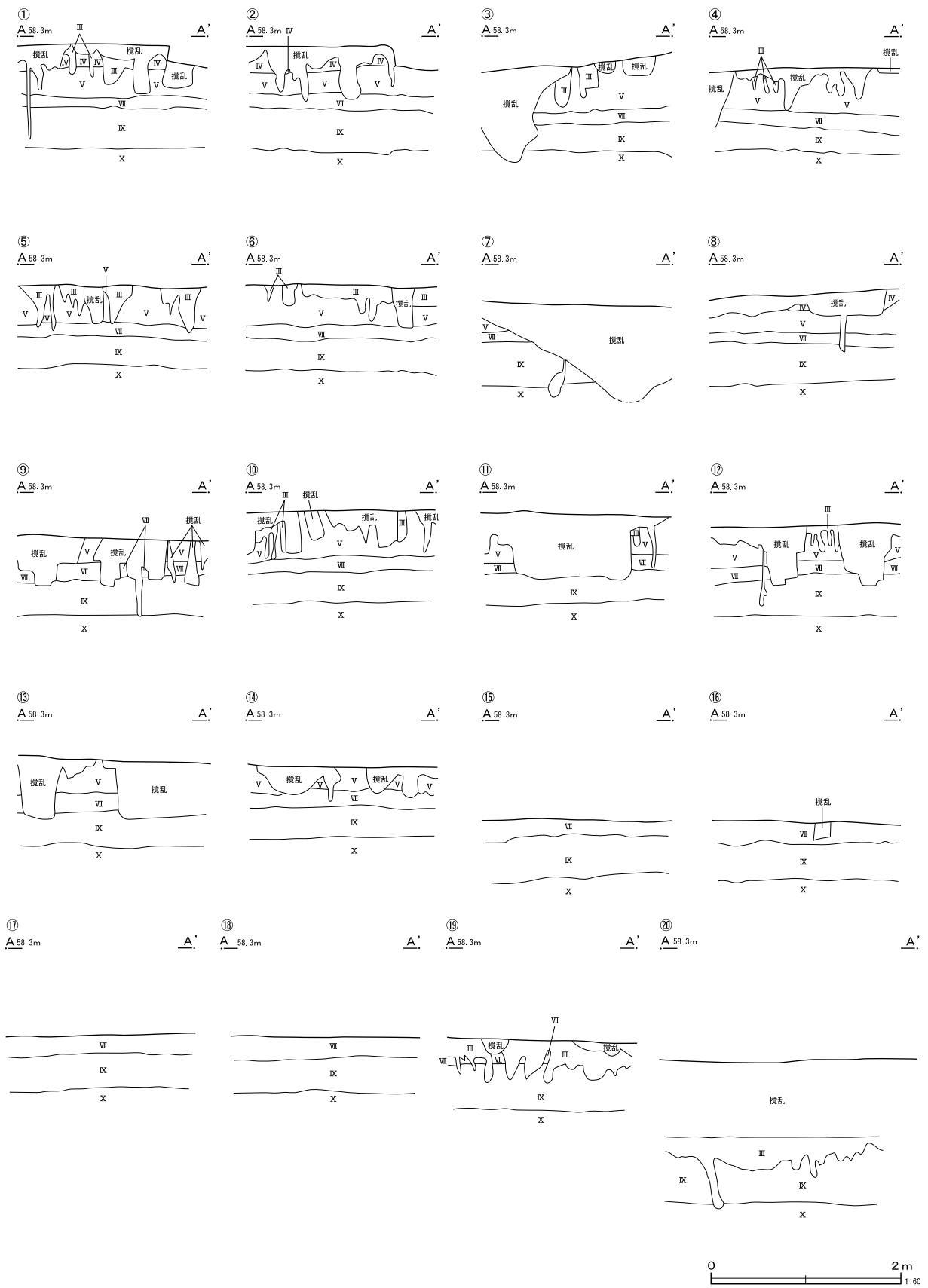
第4図 遺跡位置図



第5図 遺跡調査範囲



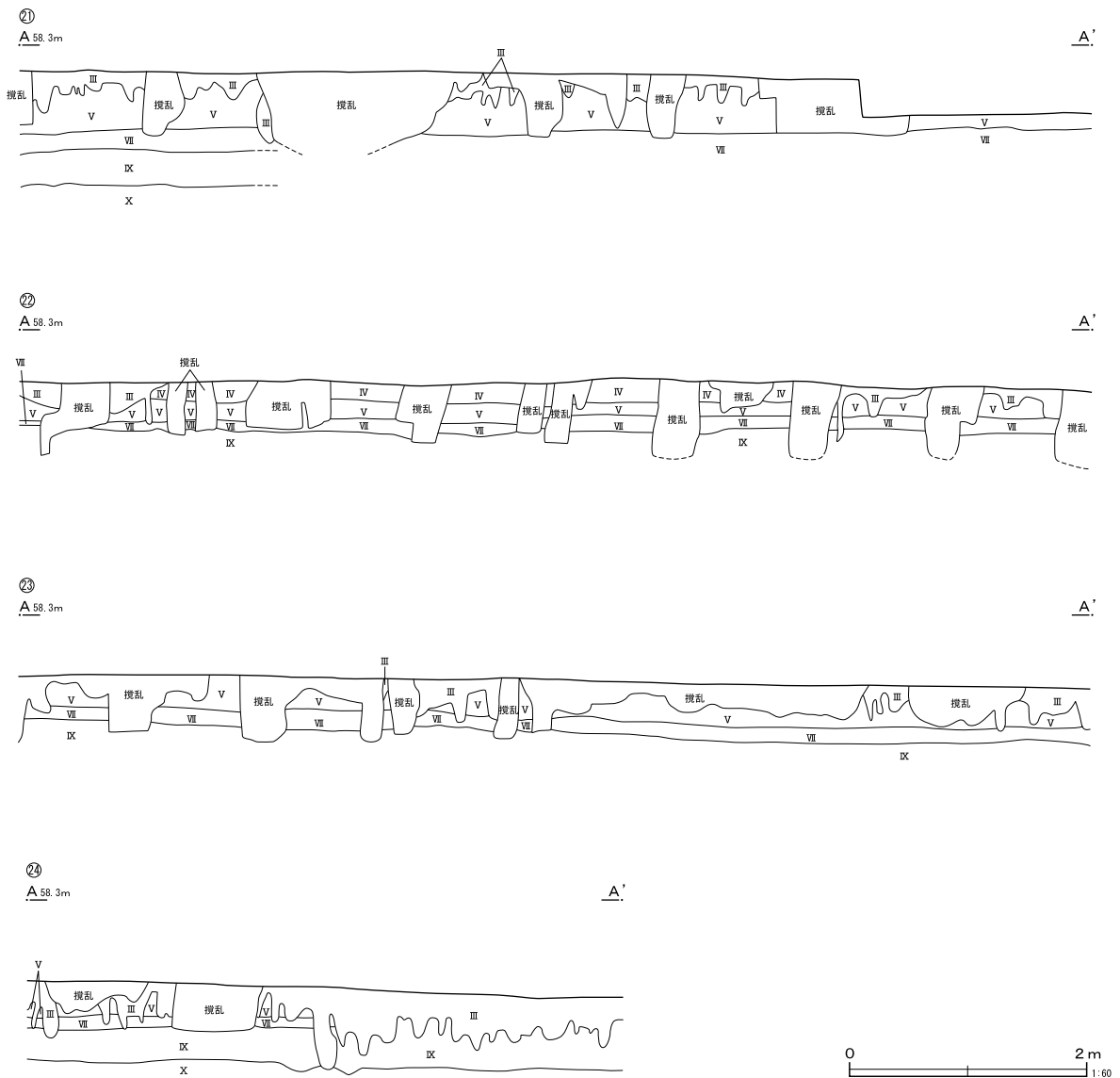
第 6 图 土層断面配置图



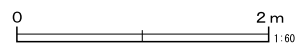
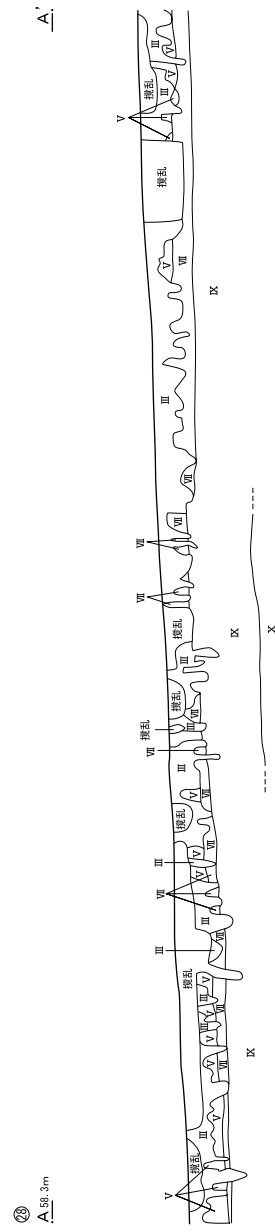
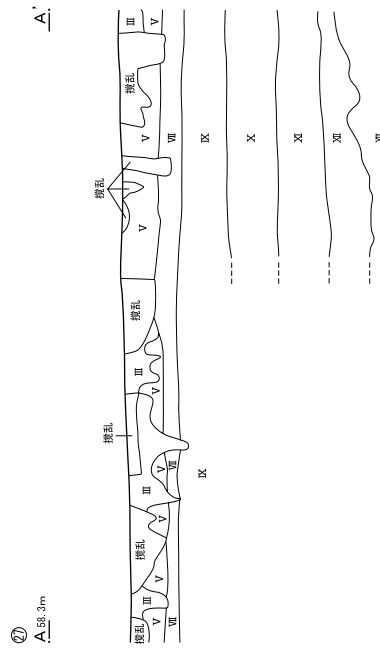
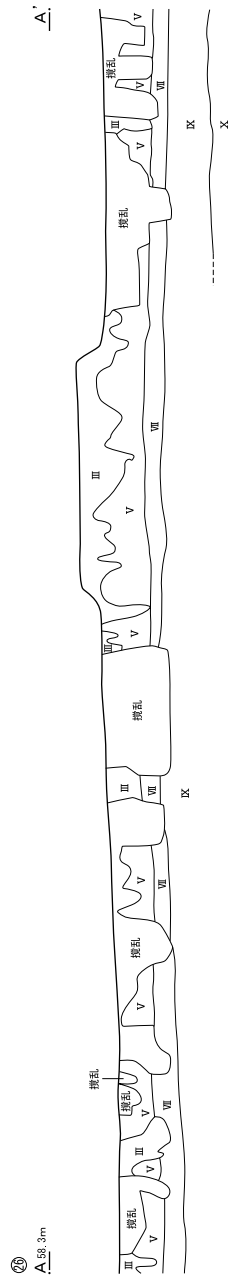
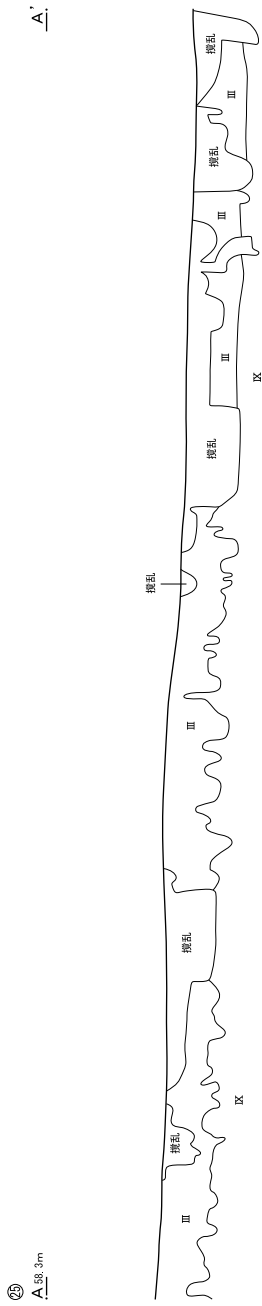
第7図 土層断面図(1)

- リアを多量に含む。色調はIV層より僅かに暗い。
- Ⅶ層 暗褐色ローム層。第2黒色帯上部。黄褐色ロームがブロック状に含まれる。
- Ⅸ層 暗褐色ローム層。第2黒色帯下部。
- Ⅹ層 黄褐色土。立川ローム最下底部。白色に近い黄褐色土。赤色スコリアを多量に含む。
- Ⅺ層 明褐色土。赤色スコリアを多量に含む。

- 黒色スコリアを少量に含む。
- Ⅻ層 暗褐色土。色調はⅨ層より暗くなる。第3黒色帯と思われる。黒色スコリアを多量に含む。
- Ⅼ層 暗褐色土。色調はⅫ層に近い。Ⅻ層との間是不整合で波状である。地下水の影響のためか粘性は強い。
- なお、Ⅲ～Ⅹ層は立川ロームに、Ⅺ～Ⅼ層は武蔵野ロームに対応する。

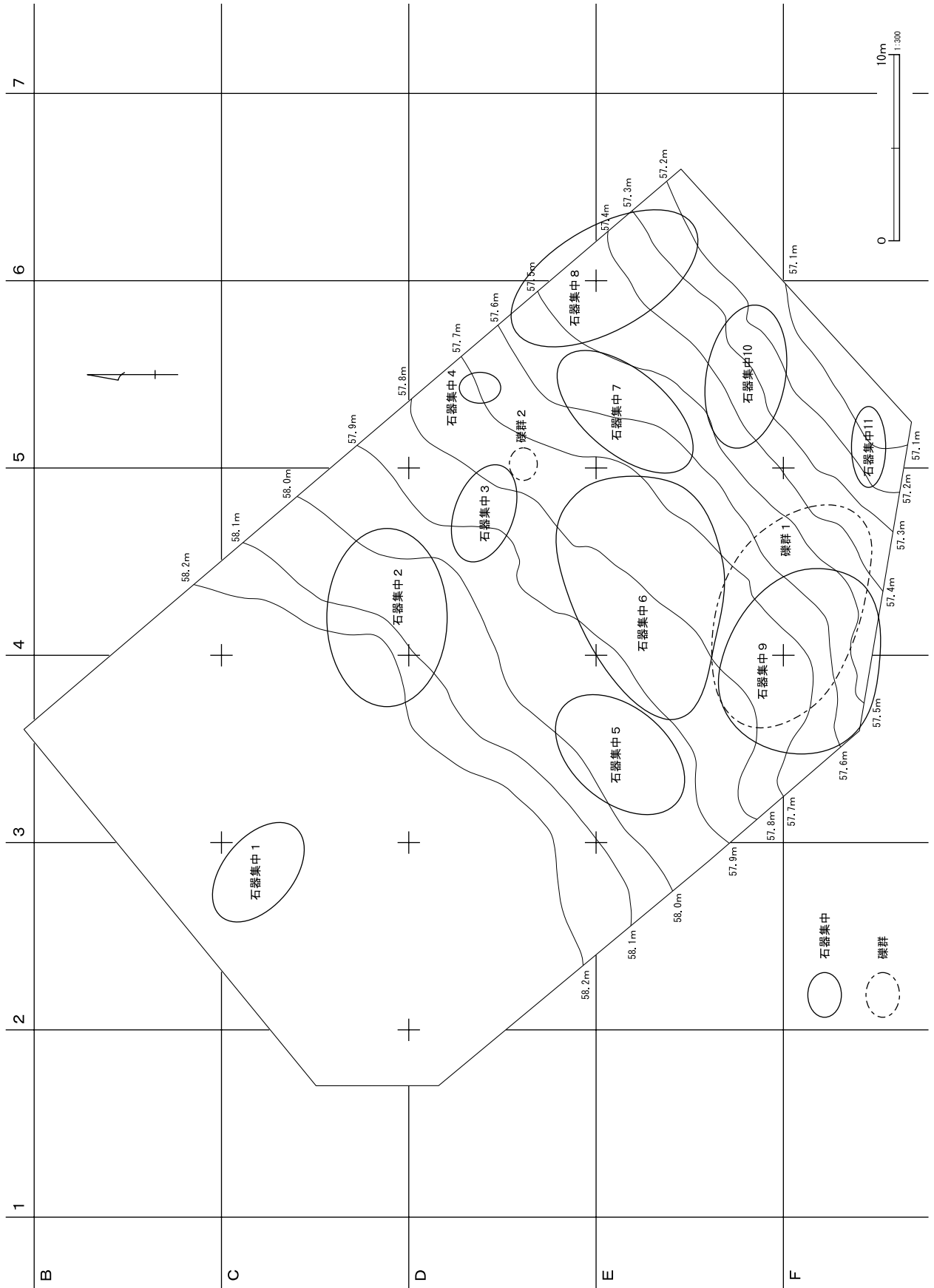


第8図 土層断面図(2)

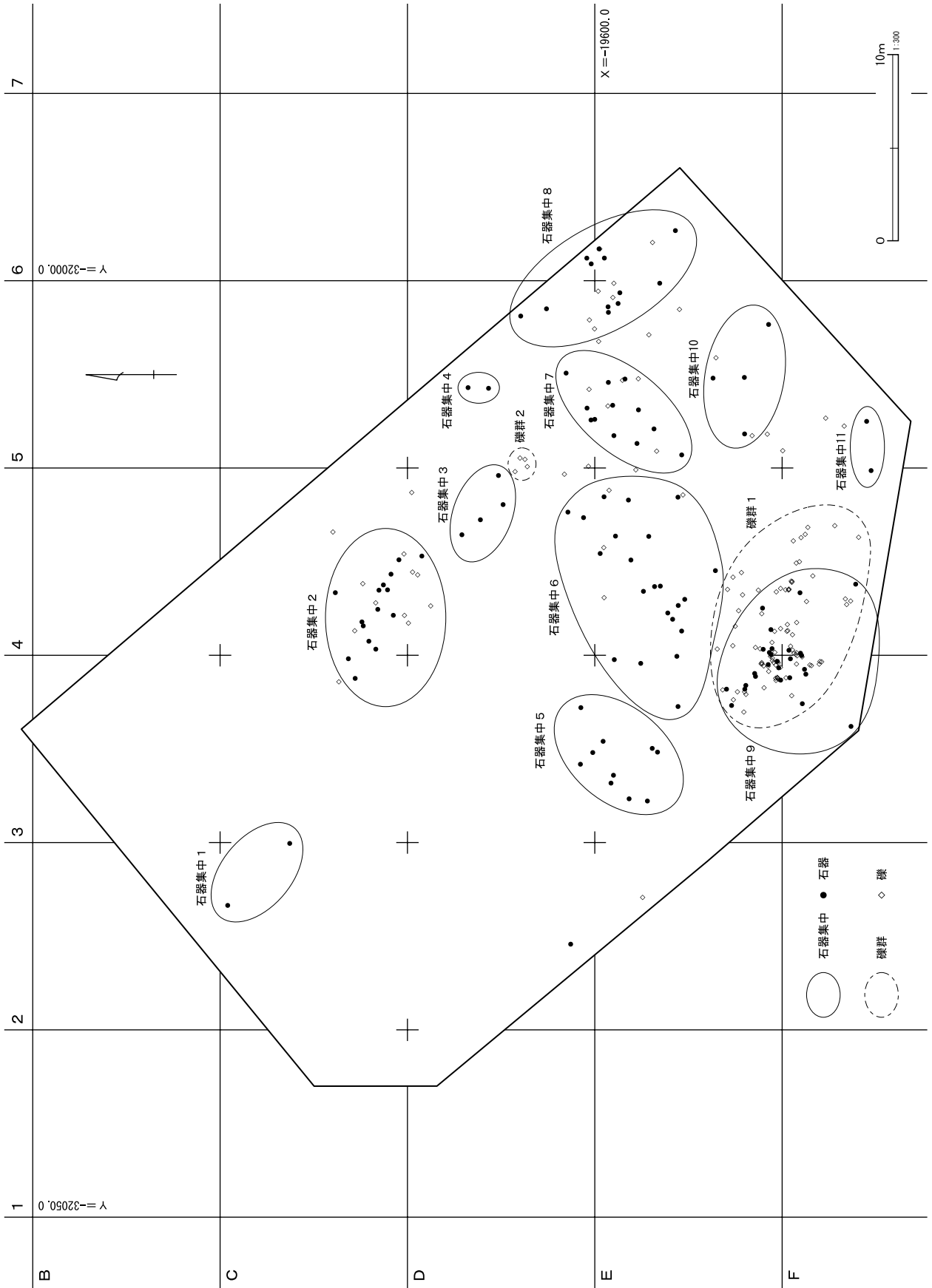


第9図 土層断面図(3)

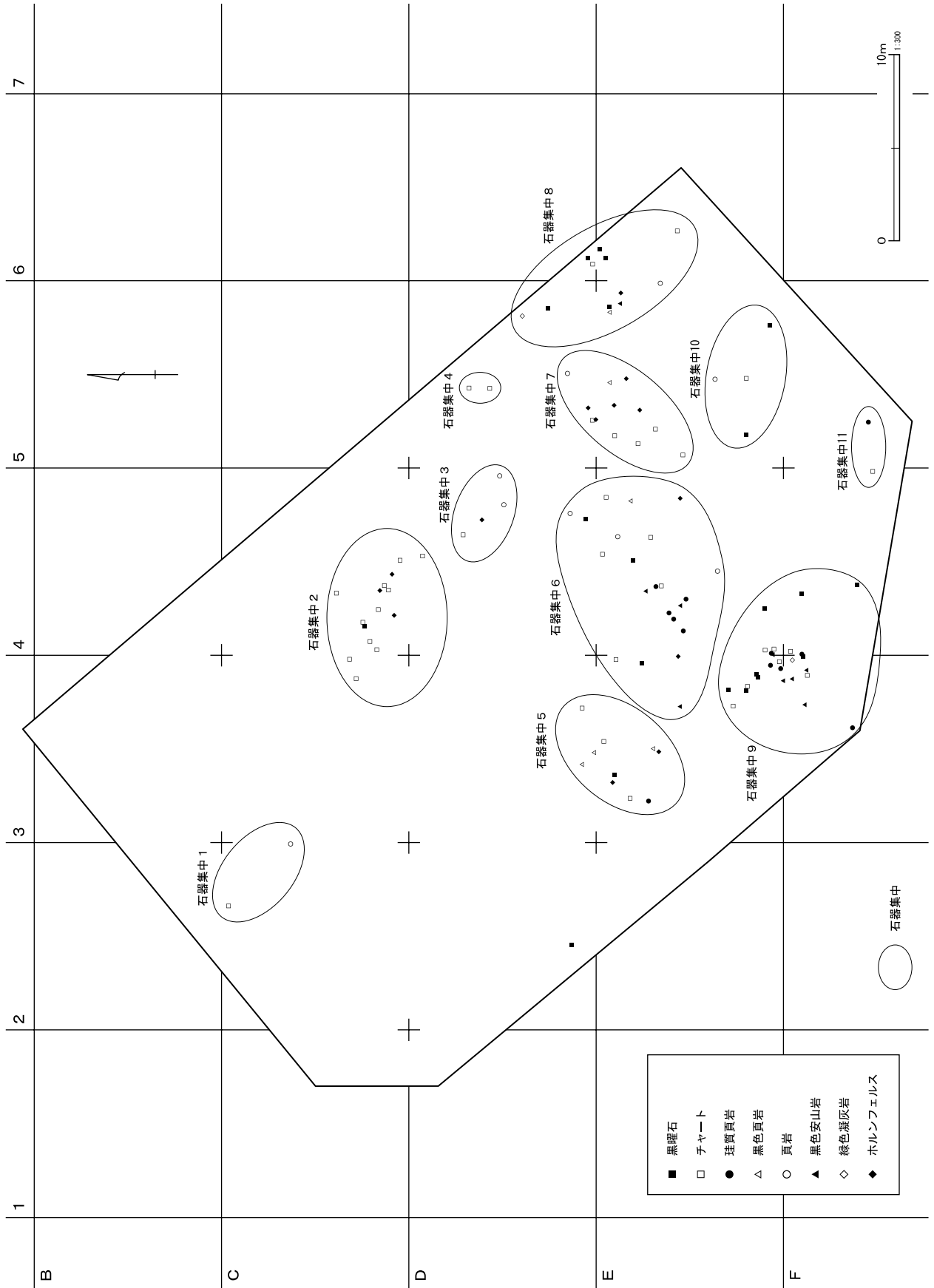




第10図 駿河台遺跡全体図 (1)



第11図 駿河台遺跡全体図(2)



第12図 石器集中分布図

# IV 旧石器時代の遺構と遺物

## 1. 石器集中

### 石器集中1 (第13図)

C2グリッドに位置する。石器は2点と少なく、チャートと頁岩の碎片である。

### 石器集中2 (第14・15図)

C3・4、D4グリッドに位置する。石器の分布は東西約7.5m、南北約4.0mの範囲に広がっ

第1表 石器組成表(1)

#### 石器集中1

石 材	ナイフ形石器	スクレイパー	二次加工のある剥片	剥片	碎片	石核	原石	合計
チャート					1			1
頁岩					1			1
合計					2			2

#### 石器集中2

石 材	ナイフ形石器	スクレイパー	二次加工のある剥片	剥片	碎片	石核	原石	合計
黒曜石							1	1
チャート			1	7	3			11
ホルンフェルス				2	1			3
合計			1	9	4		1	15

#### 石器集中3

石 材	ナイフ形石器	スクレイパー	二次加工のある剥片	剥片	碎片	石核	原石	合計
チャート					1			1
頁岩				2				2
ホルンフェルス				1				1
合計				3	1			4

#### 石器集中4

石 材	ナイフ形石器	スクレイパー	二次加工のある剥片	剥片	碎片	石核	原石	合計
チャート				2				2
合計				2				2

#### 石器集中5

石 材	ナイフ形石器	スクレイパー	二次加工のある剥片	剥片	碎片	石核	原石	合計
黒曜石				1				1
チャート			1	2				3
珪質頁岩				1				1
黒色頁岩				3				3
ホルンフェルス				1	1			2
合計			1	8	1			10

#### 石器集中6

石 材	ナイフ形石器	スクレイパー	二次加工のある剥片	剥片	碎片	石核	原石	合計
黒曜石			1	1	1			3
チャート			1	4				5
珪質頁岩				4	1			5
黒色頁岩				1				1
頁岩				3				3
黒色安山岩				2		1		3
ホルンフェルス				2				2
合計			2	17	2	1		22

#### 石器集中7

石 材	ナイフ形石器	スクレイパー	二次加工のある剥片	剥片	碎片	石核	原石	合計
チャート				5				5
黒色頁岩				1				1
頁岩				1				1
ホルンフェルス				5				5
合計				12				12

第2表 石器組成表(2)

石器集中8

石 材	ナイフ形石器	スクレイパー	二次加工のある剥片	剥片	碎片	石核	原石	合計
黒曜石	1	1		3				5
チャート				2				2
黒色頁岩				1				1
頁岩				1				1
黒色安山岩				1				1
緑色凝灰岩				1				1
ホルンフェルス				1				1
合計	1	1		10				12

石器集中9

石 材	ナイフ形石器	スクレイパー	二次加工のある剥片	剥片	碎片	石核	原石	合計
黒曜石		1	1	4	2			8
チャート				7				7
珪質頁岩				4		1		5
黒色安山岩				5				5
緑色凝灰岩				1				1
合計		1	1	21	2	1		26

石器集中10

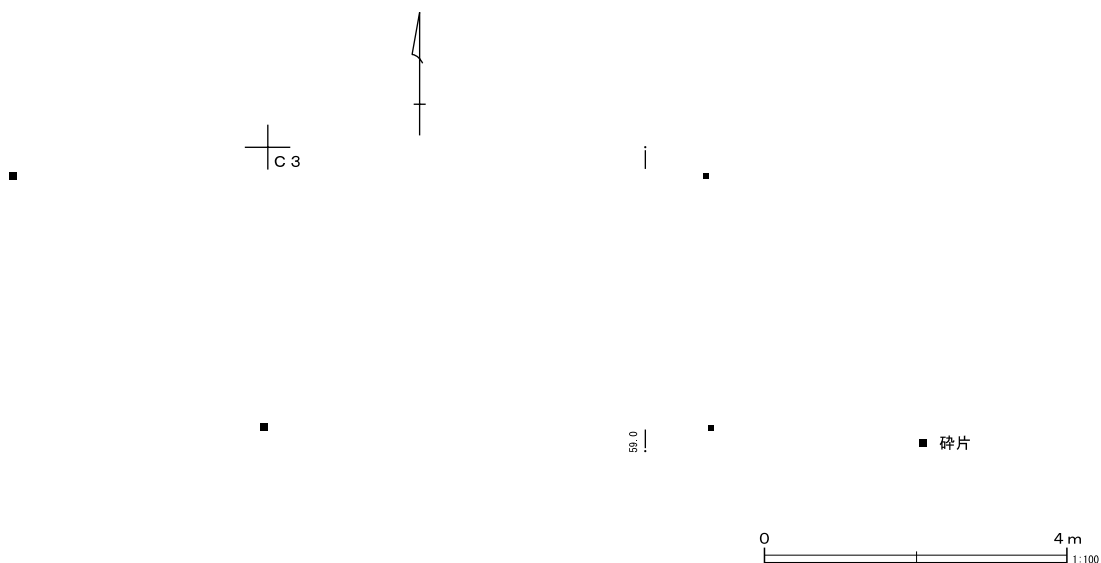
石 材	ナイフ形石器	スクレイパー	二次加工のある剥片	剥片	碎片	石核	原石	合計
黒曜石				2				2
チャート				1				1
頁岩				1				1
合計				4				4

石器集中11

石 材	ナイフ形石器	スクレイパー	二次加工のある剥片	剥片	碎片	石核	原石	合計
チャート		1						1
珪質頁岩				1				1
合計		1		1				2

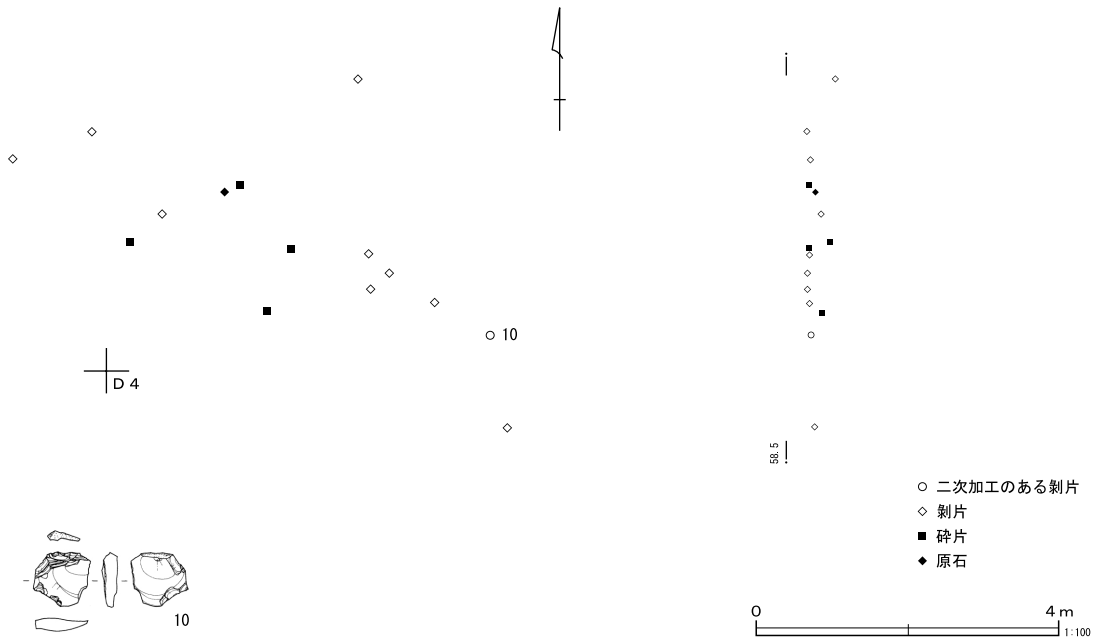
	ナイフ形石器	スクレイパー	二次加工のある剥片	剥片	碎片	石核	原石	合計
総計	1	3	5	87	12	2	1	111

器種別



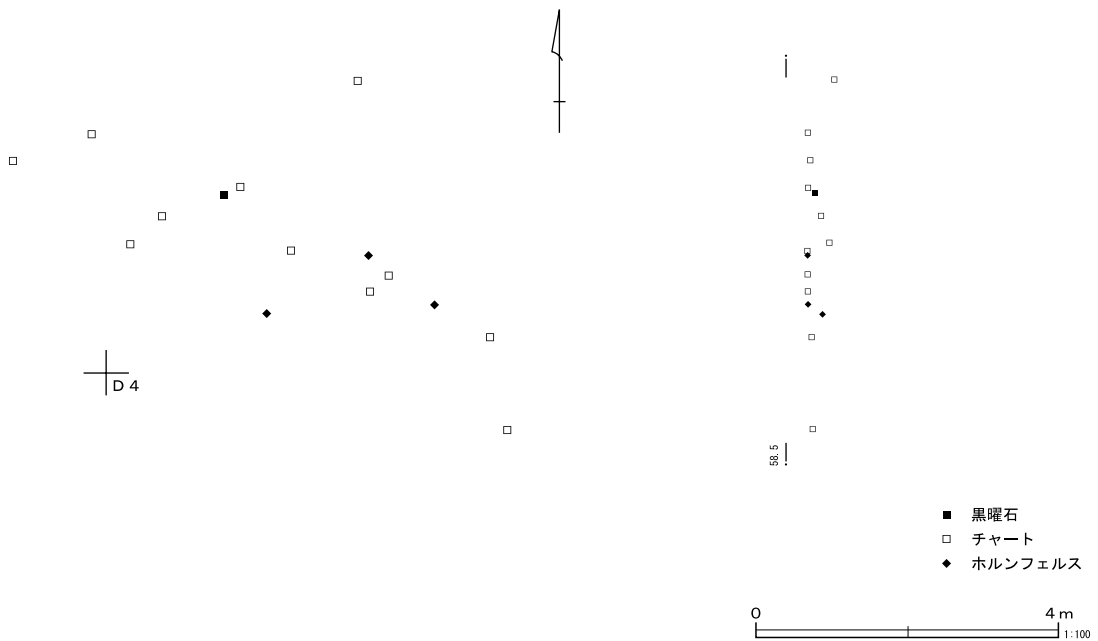
第13図 石器集中1

器種別



第14図 石器集中2 (1)

石材別



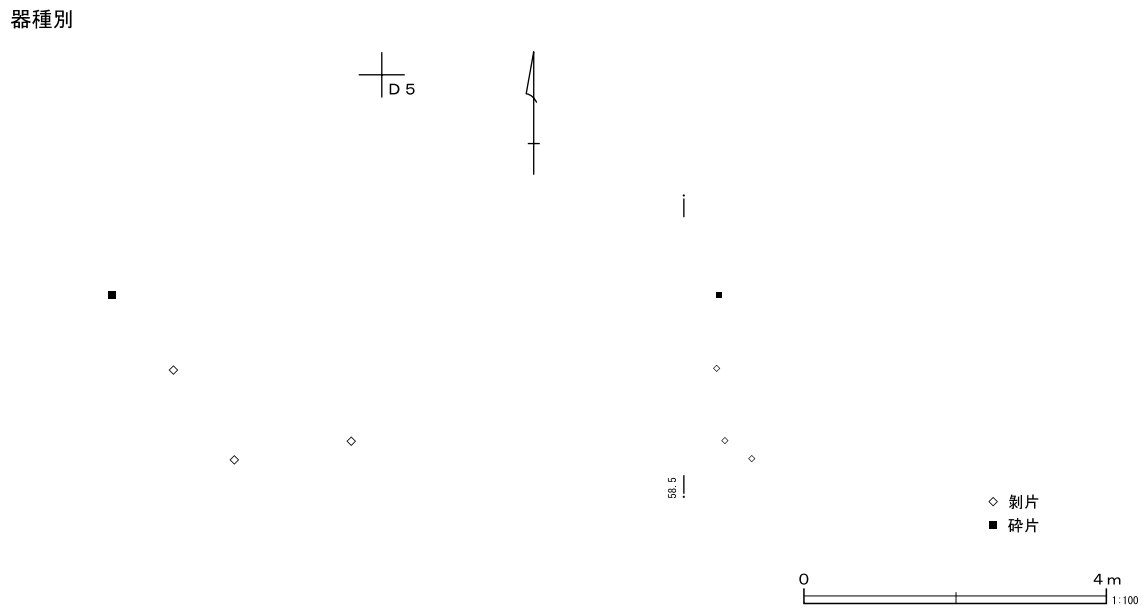
第15図 石器集中2 (2)

ている。分布の密度は非常に散漫である。石器の点数は15点である。器種組成は二次加工のある剥片1点、剥片9点、碎片4点、原石1点である。石器石材は黒曜石1点、チャート11点、ホルンフェルス3点が用いられている。チャートが主体を

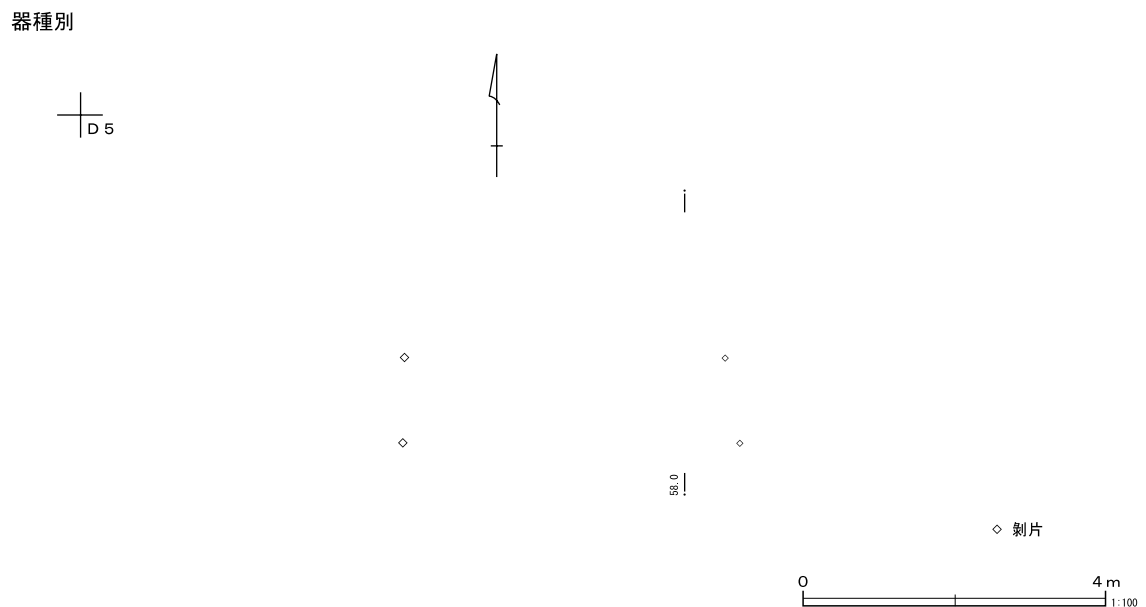
占めている。

### 石器集中3 (第16図)

D4グリッドに位置する。石器の分布は散漫に広がっている。石器の点数は4点で、器種組成は

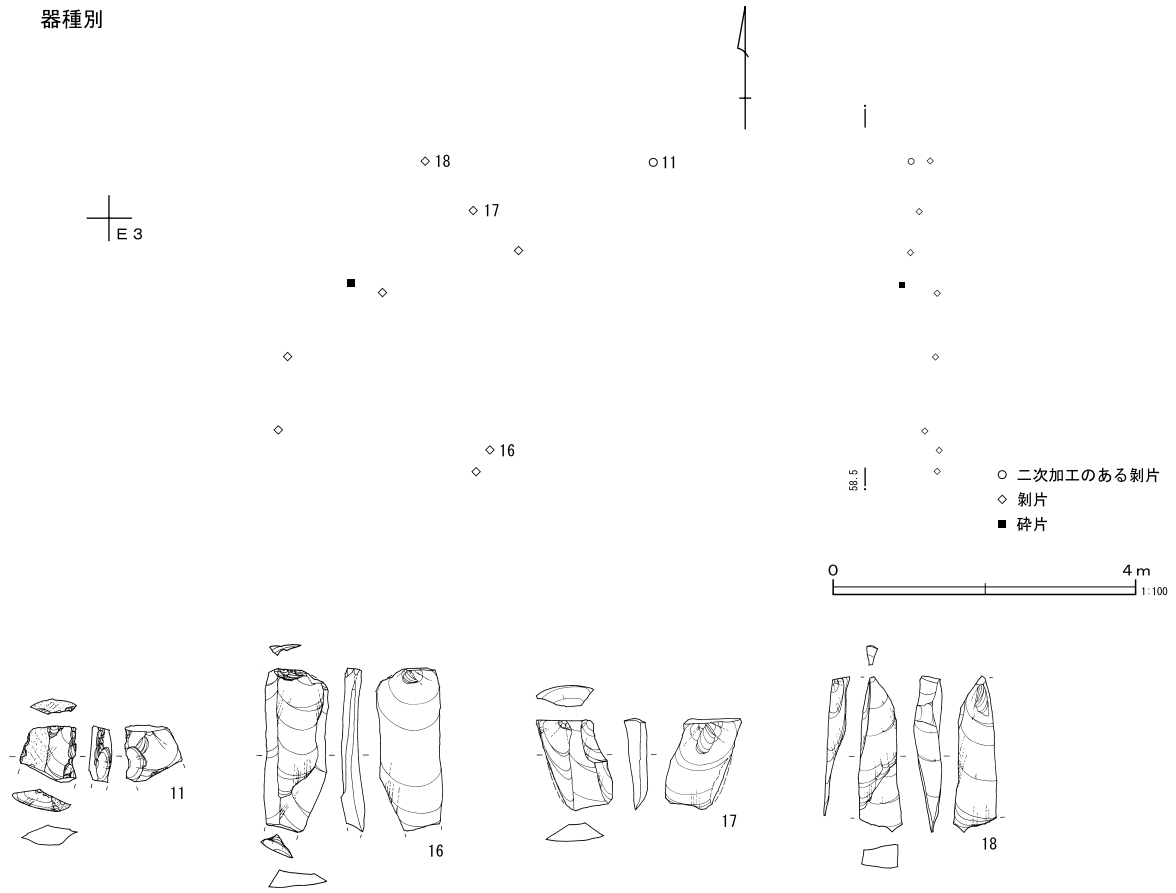


第16図 石器集中3



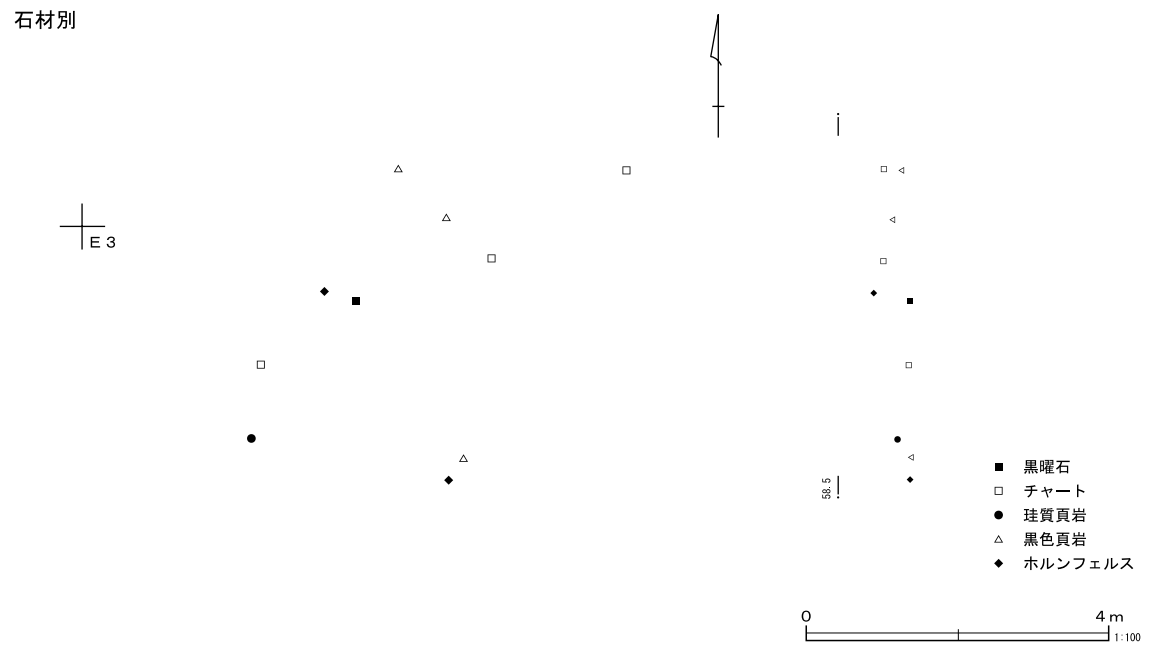
第17図 石器集中4

器種別



第18図 石器集中5 (1)

石材別



第19図 石器集中5 (2)



剥片3点、碎片1点である。石器石材はチャート1点、頁岩2点、ホルンフェルス1点が用いられている。

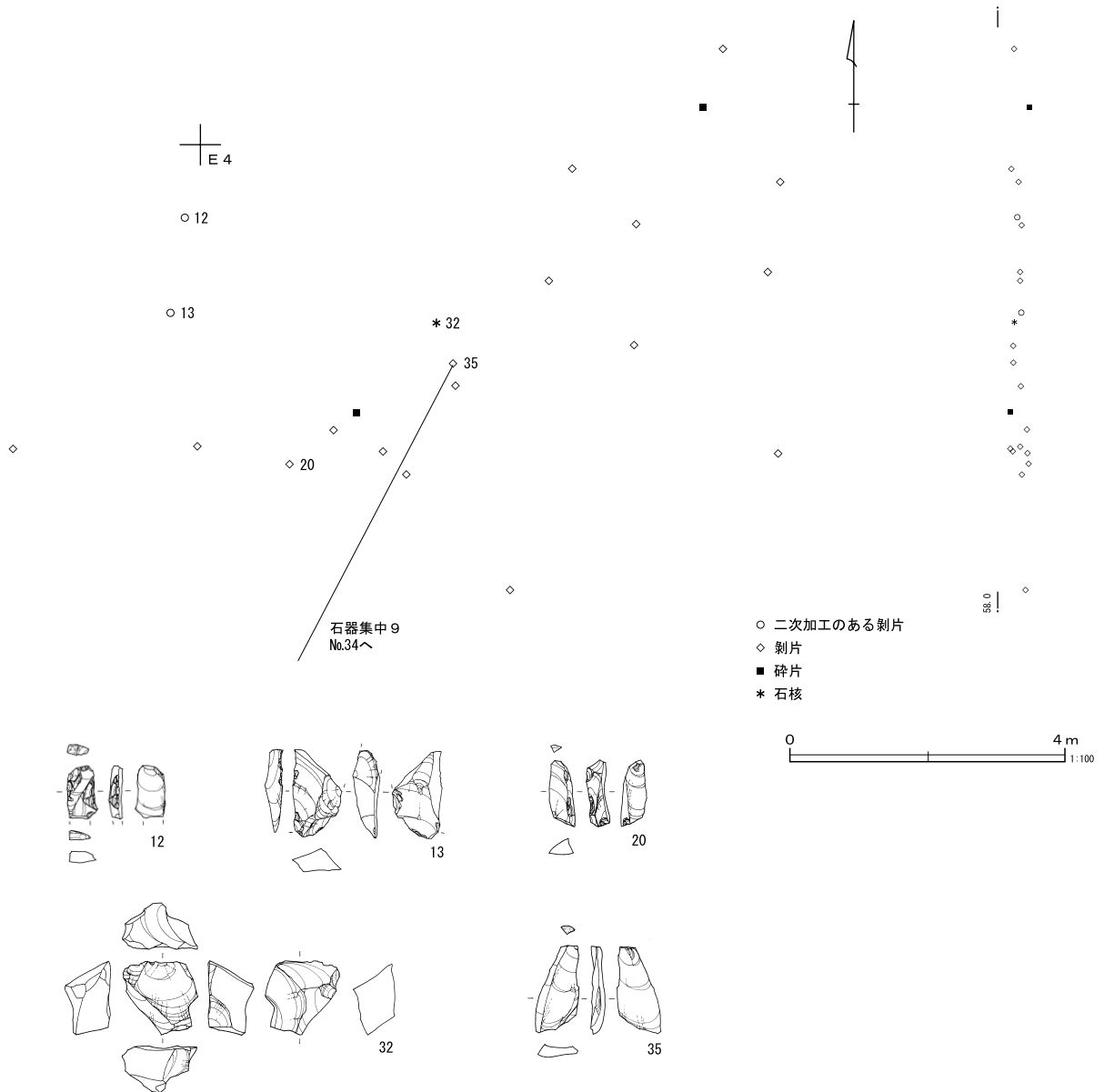
**石器集中4 (第17図)**

D5グリッドに位置する。石器は2点と少なく、チャートの剥片である。

**石器集中5 (第18・19図)**

D・E3グリッドに位置する。石器の分布は約5.0mの範囲に広がっている。非常に散漫である。石器の点数は10点で、二次加工のある剥片1点、剥片8点、碎片1点である。石器石材は黒曜石1点、チャート3点、珪質頁岩1点、黒色頁岩3点、ホルンフェルス2点が用いられている。

器種別



第20図 石器集中6 (1)

**石器集中6 (第20・21図)**

D4、E3・4グリッドに位置する。石器の分布は南北約8.5m、東西約11.5mの範囲に広がっている。石器の点数は22点である。器種組成は二次加工のある剥片2点、剥片17点、碎片2点、石核1点である。石器石材は黒曜石3点、チャート5点、珪質頁岩5点、黒色頁岩1点、頁岩3点、黒色安山岩3点、ホルンフェルス2点が用いられている。珪質頁岩の剥片(第34図35)は、石器集中9の剥片(第34図34)と接合する。

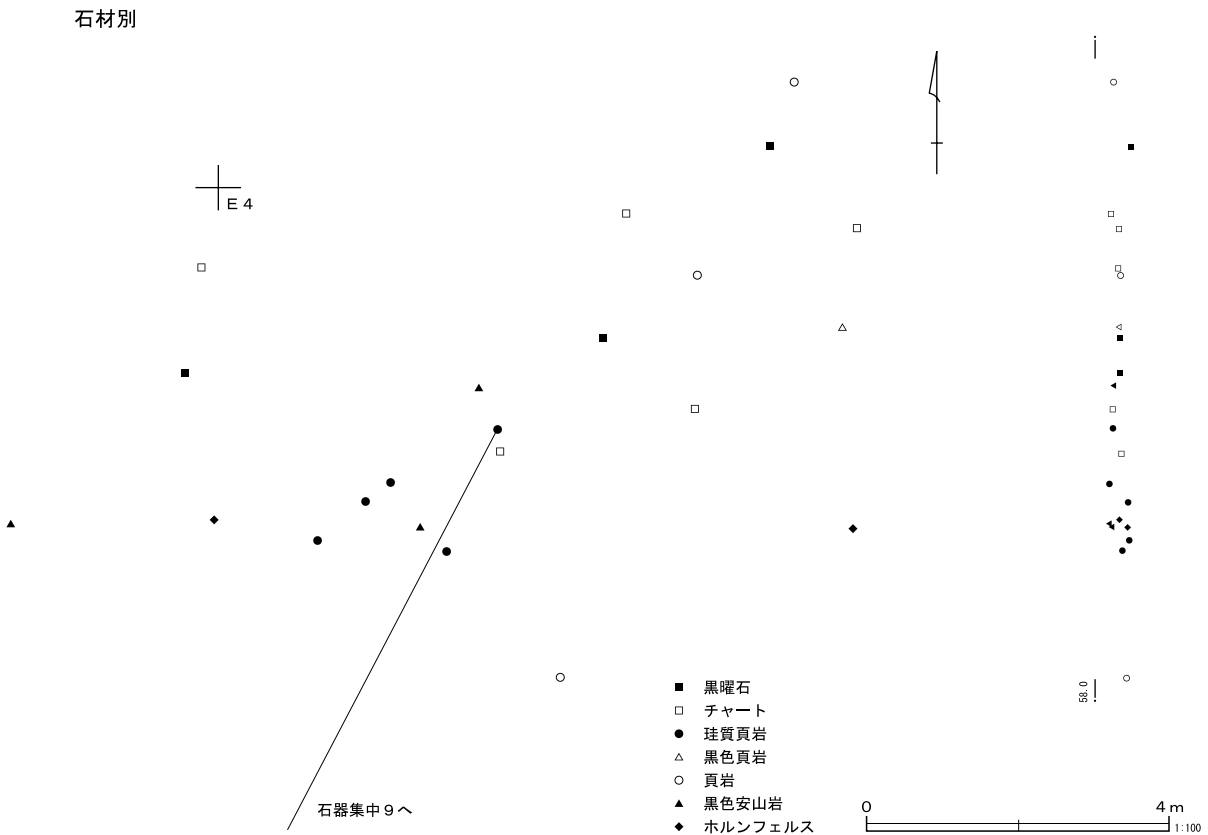
**石器集中7 (第22・23図)**

D・E5グリッドに位置する。石器の分布は南北約6.0m、東西約4.5mの範囲に広がっている。密度は非常に散漫である。石器の点数は12点で、

全て剥片である。石器石材はチャート5点、頁岩1点、黒色頁岩1点、ホルンフェルス5点が用いられている。チャートとホルンフェルスが主体を占めている。

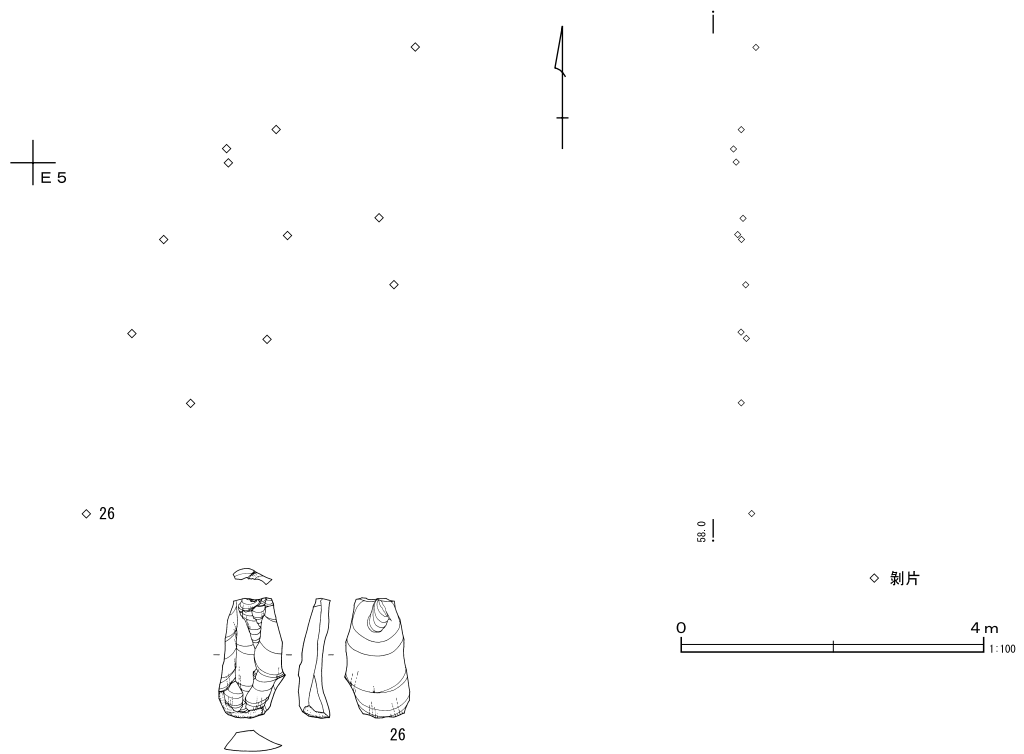
**石器集中8 (第24・25図)**

D5・6、E5・6グリッドに位置する。石器の分布はE6グリッド北西コーナーを中心に南北約9.0m、東西約5.0mの範囲に広がっている。石器の点数は12点である。器種組成はナイフ形石器1点、スクレイパー1点、剥片10点である。石器石材は黒曜石5点、チャート2点、黒色頁岩1点、頁岩1点、黒色安山岩1点、ホルンフェルス1点、緑色凝灰岩1点が用いられている。黒曜石が主体を占めている。



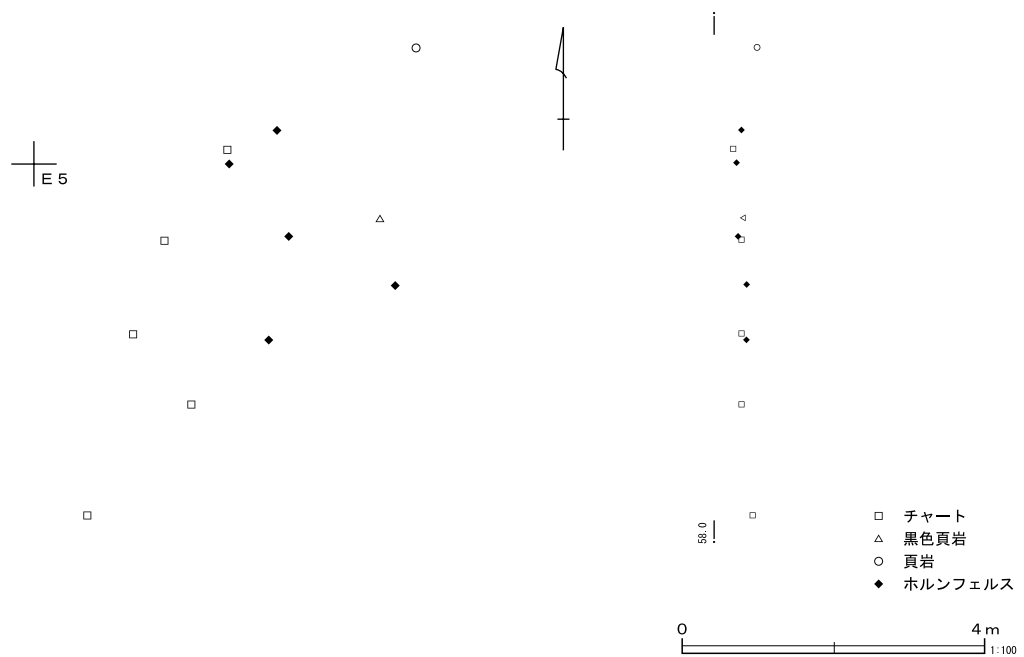
第21図 石器集中6 (2)

器種別



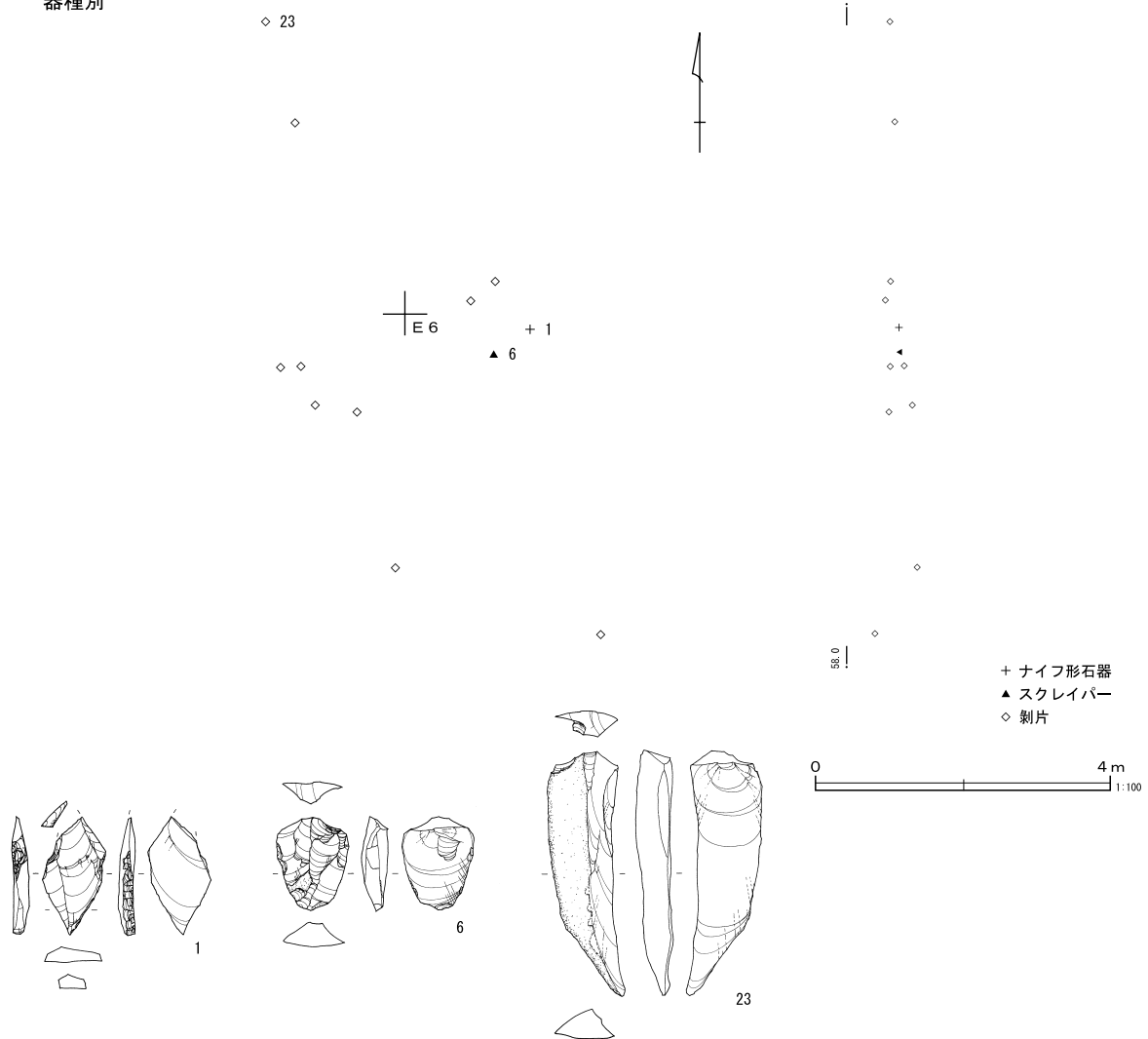
第22図 石器集中7 (1)

石材別



第23図 石器集中7 (2)

器種別



第24図 石器集中8 (1)

### 石器集中9 (第26・27図)

E3・4、F3・4グリッドに位置する。石器の分布はF4グリッド北西コーナーを中心に南北約7.0m、東西約8.0mの範囲に広がっている。本遺跡の中で最も石器が密集する。礫群1とは分布がほぼ重なる。石器の点数は26点である。器種組成はスクレイパー1点、二次加工のある剥片1点、剥片21点、碎片2点、石核1点である。石器石材は黒曜石8点、チャート7点、珪質頁岩5点、黒色安山岩5点、緑色凝灰岩1点が用いられている。黒色頁岩の剥片が2点接合し(第34図36・37)、珪質頁岩の剥片(第34図34)が、石器集中6の剥

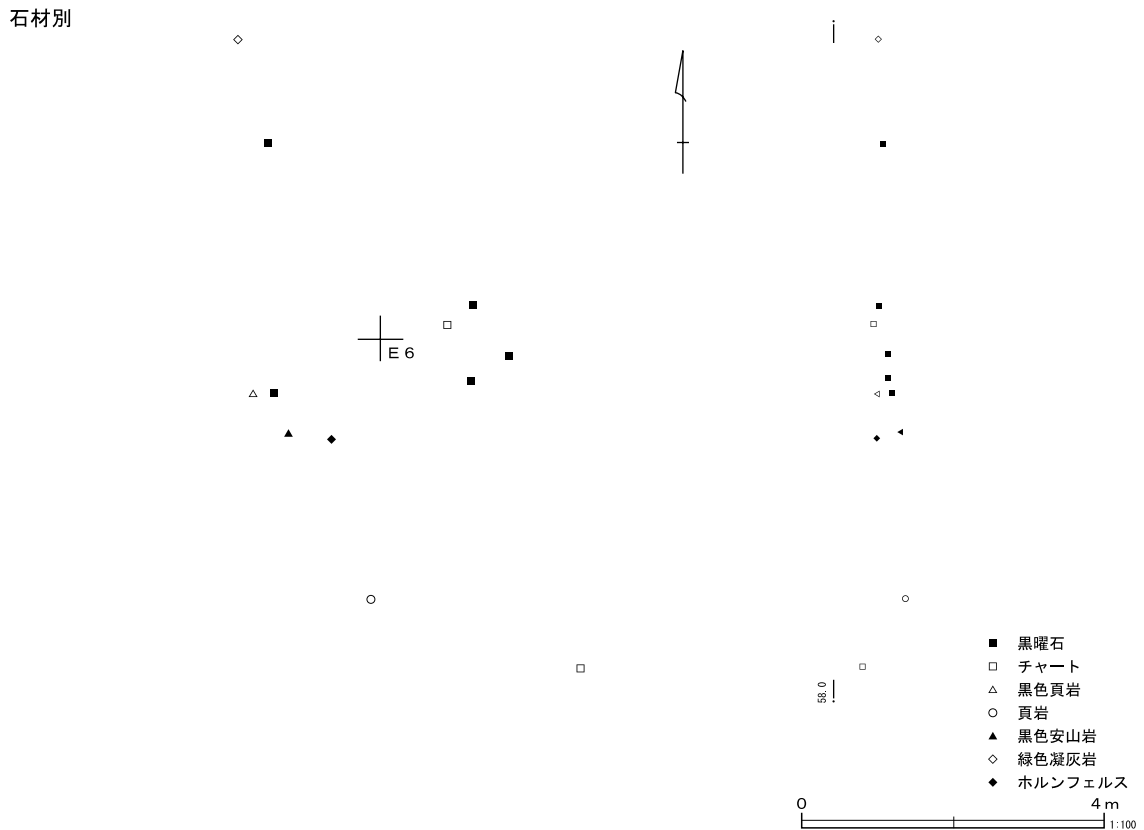
片(第34図35)と接合する。

### 石器集中10 (第28図)

E5グリッドに位置する。石器の分布は散漫である。石器の点数は4点で、全て剥片である。石器石材は黒曜石2点、チャート1点、頁岩1点が用いられている。

### 石器集中11 (第29図)

F4・5グリッドに位置する。石器は2点と少なく、スクレイパーと剥片である。石器石材は珪質頁岩とチャートが用いられている。



第25図 石器集中8 (2)

## 出土遺物

### ナイフ形石器 (第30図1～5)

1は石器集中8より出土した。先端が欠損する。縦長剥片を素材とし、右側縁と左側縁の先端に急角度な調整加工が施されている。形状はやや幅広の平行四辺形である。石器石材は不純物が若干残された漆黒の黒曜石が用いられている。

2はD3グリッド出土である。縦長剥片を素材とし、左側縁と右側縁の基部に急角度な調整加工が施されている。左側縁加工の先端部分には対向剥離が観察される。形状は細身の平行四辺形である。石器石材は透明度の高い黒曜石が用いられている。

3はE4グリッド出土である。小形の横長剥片を素材とし、その打面部分と末端に調整加工が施されている。石器石材は緑色のチャートが用いら

れている。

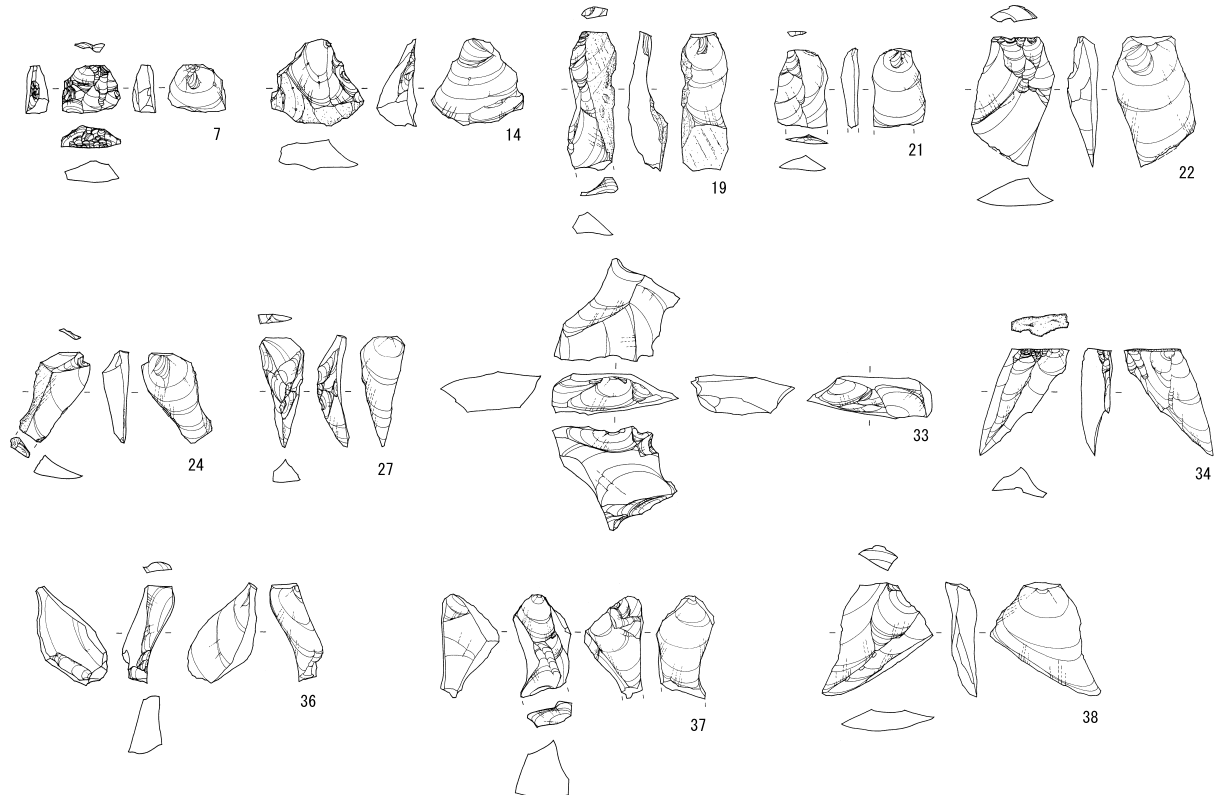
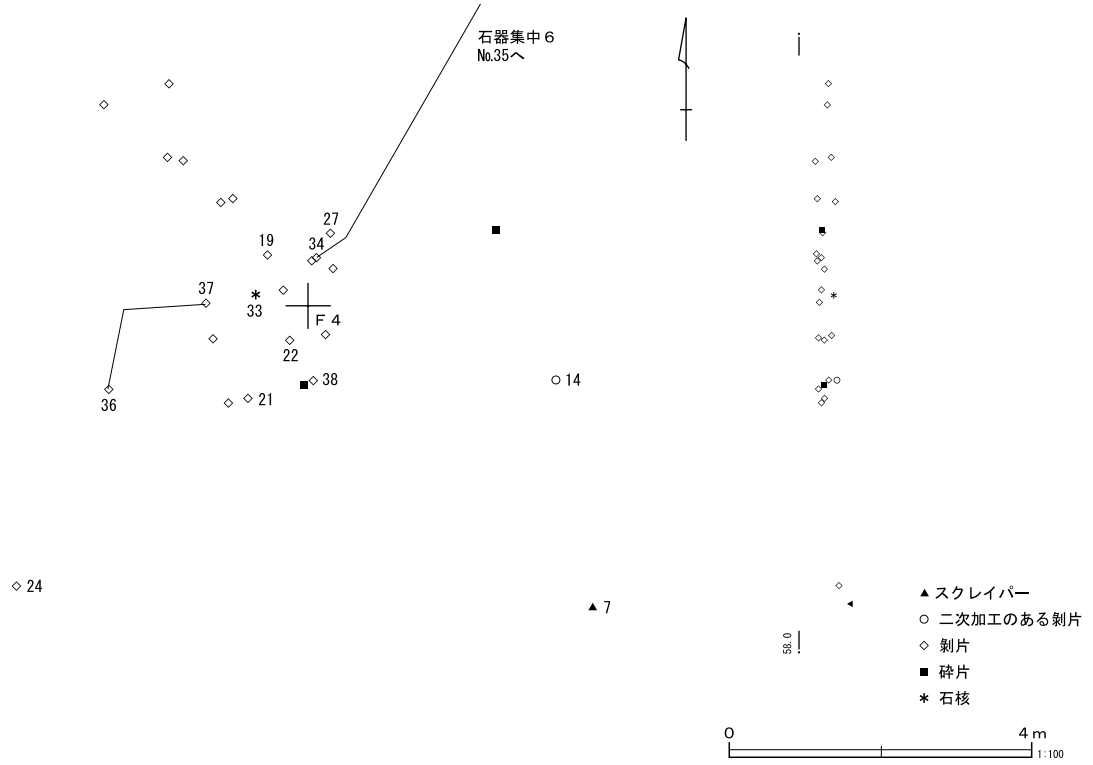
4は表面採集である。先端は欠損する。小形の剥片を素材とし、打面を一部残して、左側縁と右側縁の基部に急角度な調整加工が施されている。左側縁の基部の調整は、剥離面が新しいため、この部分を再生した可能性がある。石器石材は不純物が多く混じった黒曜石が用いられている。

5はE5グリッド出土である。縦長剥片を素材とし、打面を一部残して、左側縁と右側縁の基部に急角度な調整加工が施されている。石器石材は珪質頁岩が用いられている。

### スクレイパー (第30図6～第31図9)

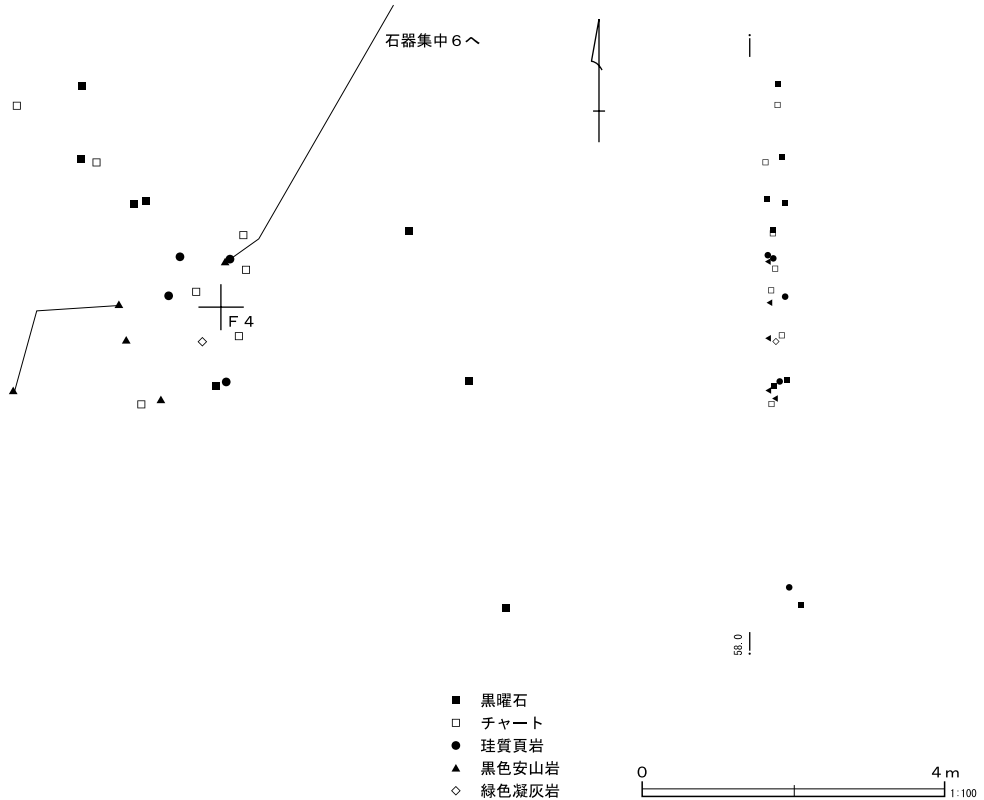
6は石器集中8より出土した。両側縁を刃部に利用したいわゆる削器と考えられる。剥片の側縁をそのまま利用するため、刃部はあまり顕著に加

器種別



第26図 石器集中9 (1)

石材別



第27図 石器集中9 (2)

工されていない。両側縁に微細剥離痕が観察される。石器石材は透明度の高い黒曜石が用いられている。

7は石器集中9より出土した。剥片の末端を刃部に利用したいわゆる搔器と考えられる。刃部は急角度でかなり顕著に加工されている。左側縁にみられる調整加工のような剥離面は主要剥離面より古いいため、刃部加工ではなく、打面調整の一部と考えられる。石器石材は白くにごった黒曜石が用いられている。

8は石器集中11より出土した。剥片の右側縁を刃部に利用した削器と考えられる。石器石材はチャートが用いられている。

9はD5グリッド出土である。剥片の両側縁を刃部に利用した削器と考えられる。石器石材は頁岩が用いられている。

二次加工のある剥片 (第31図10~15)

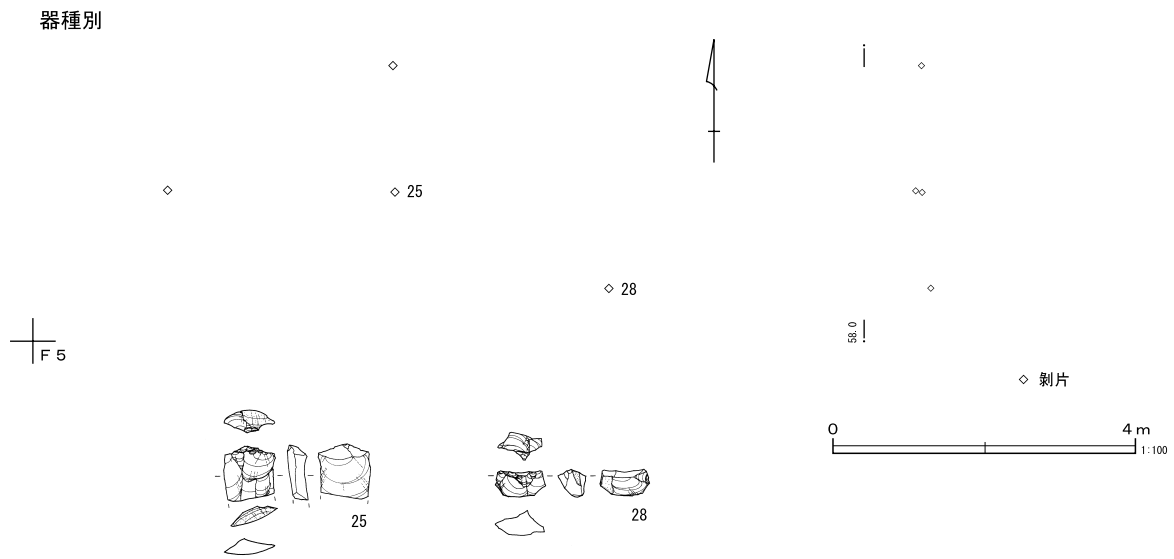
10は石器集中2より出土した。礫面を打面として剥離された小形な剥片である。その末端に二次加工が施されている。石器石材はチャートが用いられている。

11は石器集中5より出土した。下半部は欠損する。両側縁に調整加工が施されている。石器石材はチャートが用いられている。

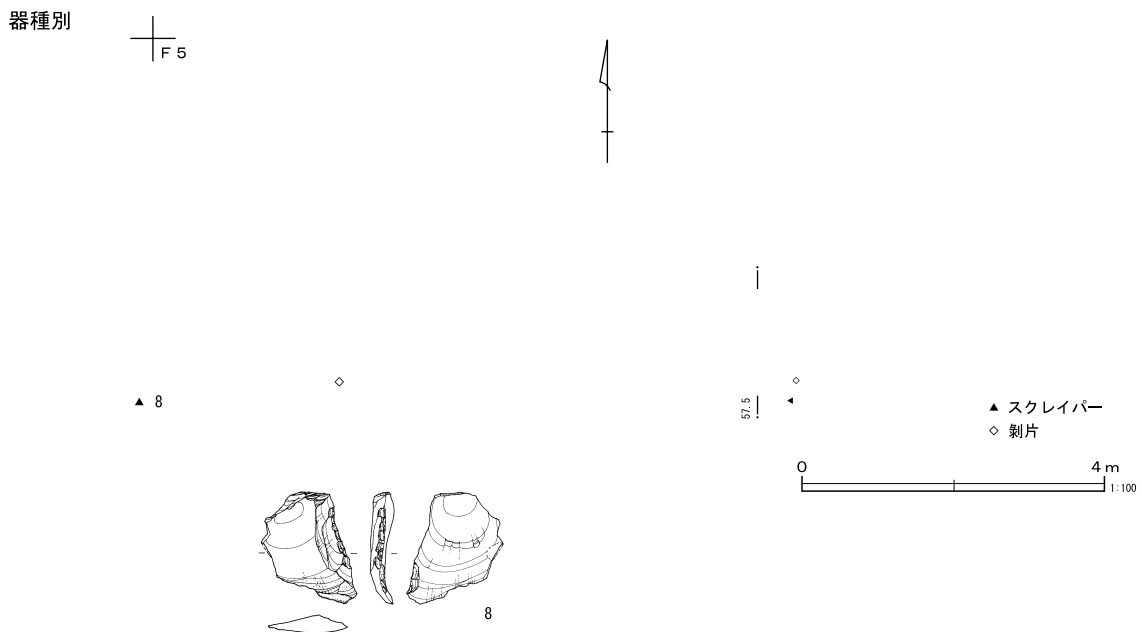
12は石器集中6より出土した。小形な剥片の右側縁に調整加工が施されている。石器石材はチャートが用いられている。

13は石器集中6より出土した。上半部と左側縁部が欠損する。剥片の末端と左側面の折面に調整加工が施されている。石器石材は不純物が多く混じった黒曜石が用いられている。

14は石器集中9より出土した。右側縁に調整加



第28図 石器集中10



第29図 石器集中11

工が施されている。石器石材は不純物が多く混じった黒曜石が用いられている。

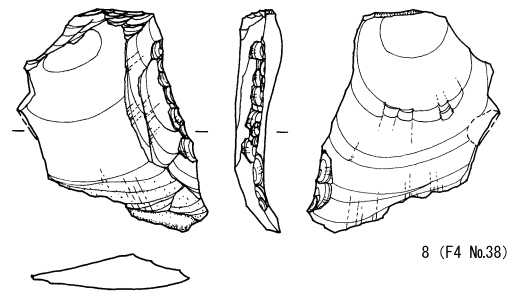
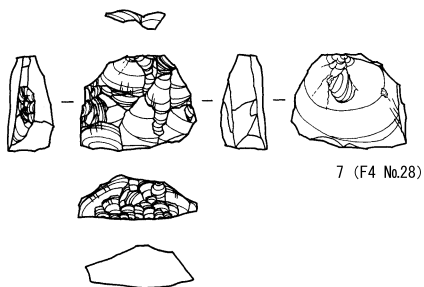
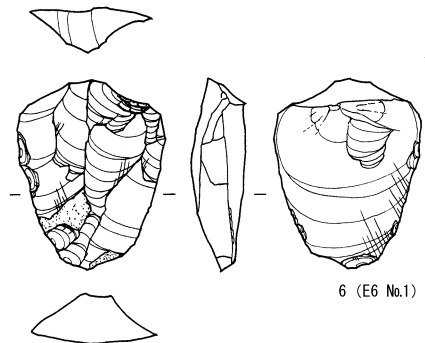
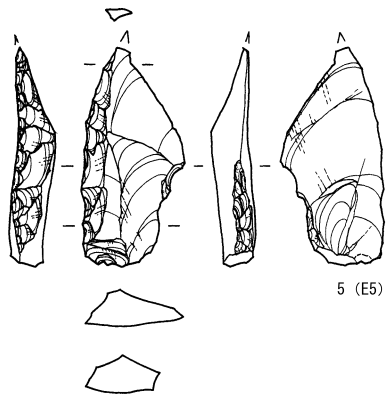
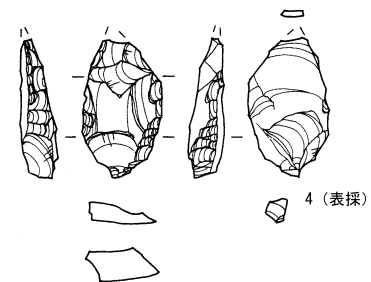
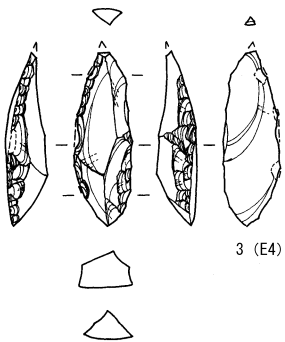
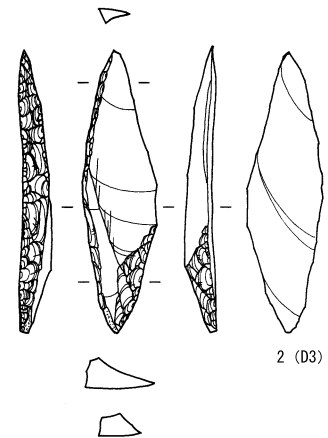
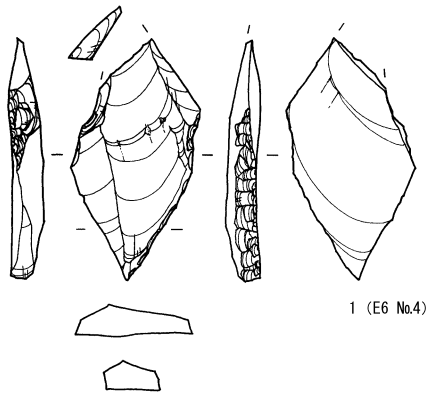
15はE4グリッド出土である。縦長剥片であり、打面に近い両側縁に調整加工が施されており、基部加工のナイフ形石器の可能性もある。剥片の末端を調査時にかなり欠損する。石器石材はチャートが用いられている。

### 剥片 (第31図16～第33図30)

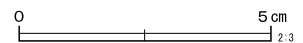
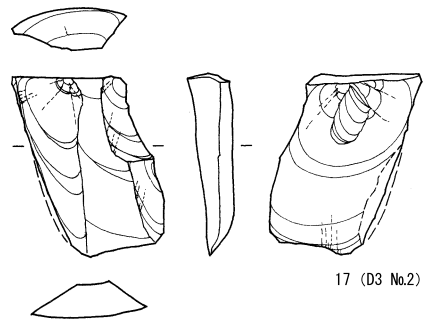
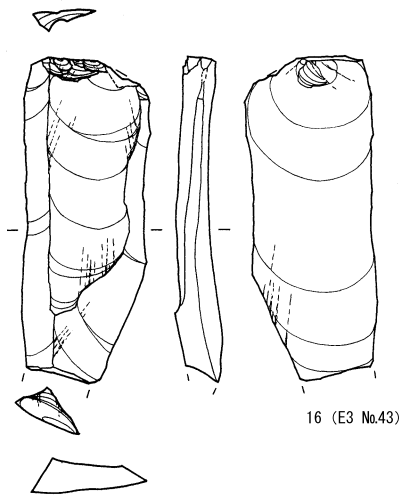
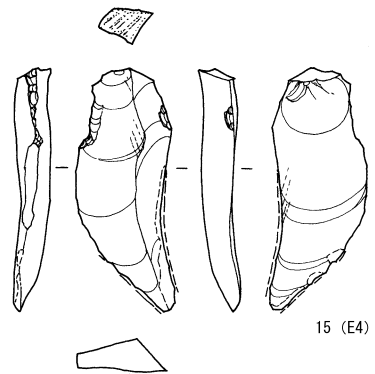
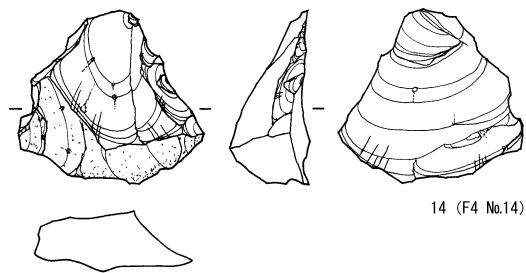
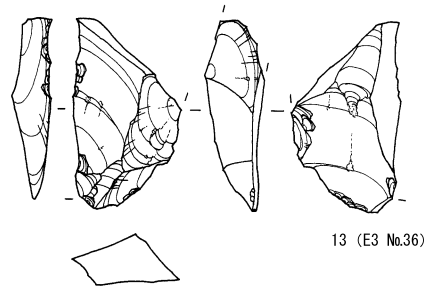
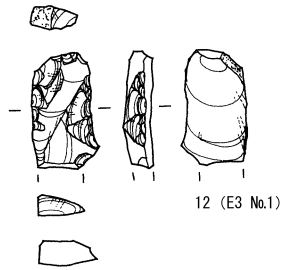
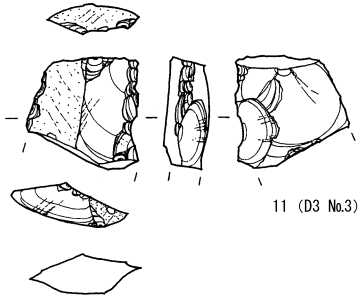
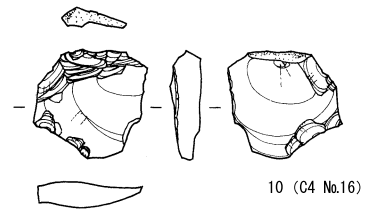
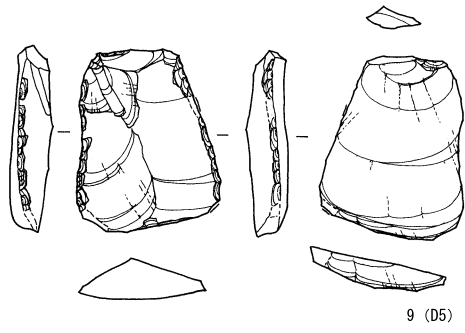
16は石器集中5より出土した。末端が欠損する。両側縁と正面の稜が並行しており縦長剥片と考えられる。正面に打面調整の痕跡が残されていた。石器石材は黒色頁岩が用いられている。

17は石器集中5より出土した。石器石材は黒色頁岩が用いられている。

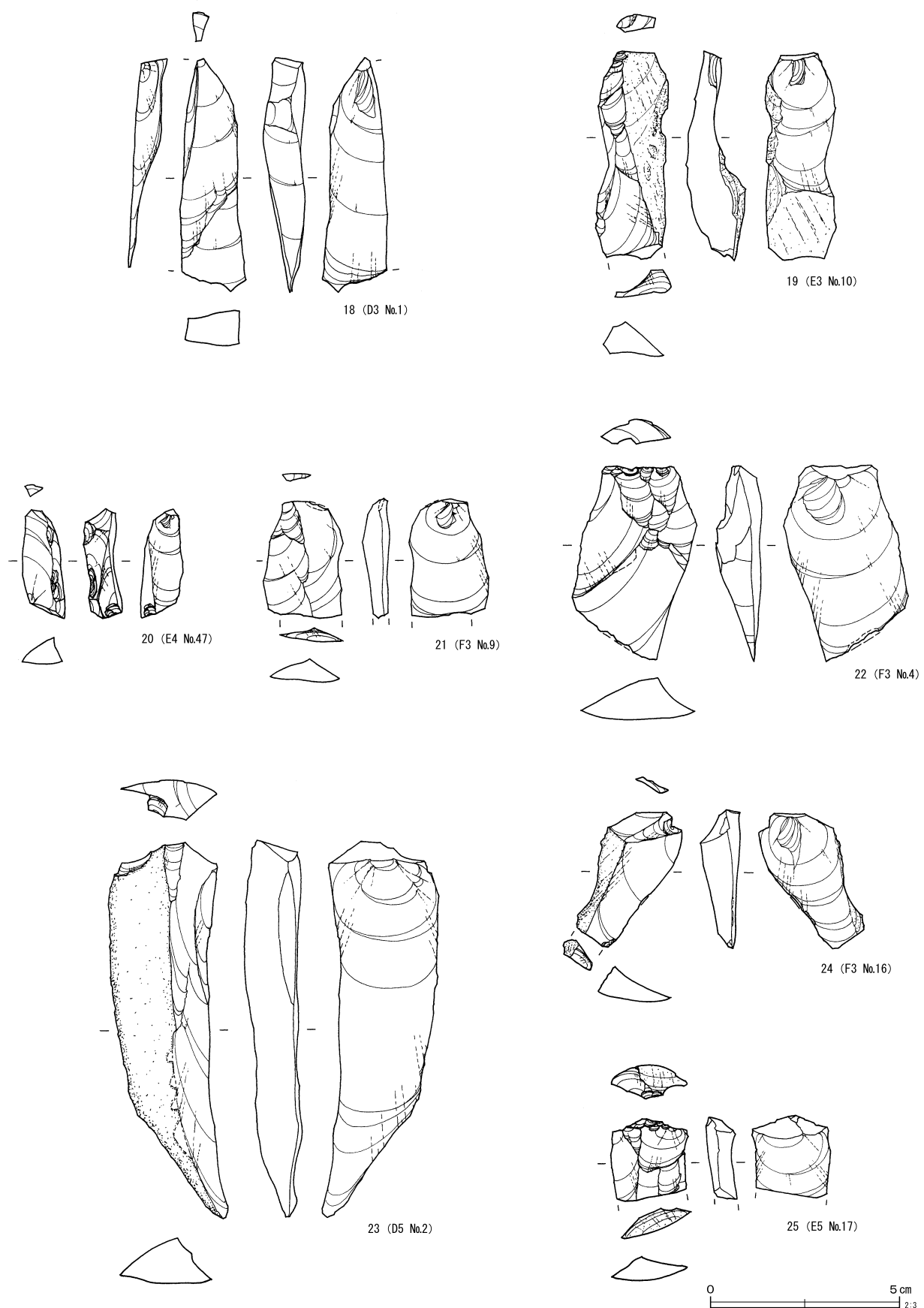




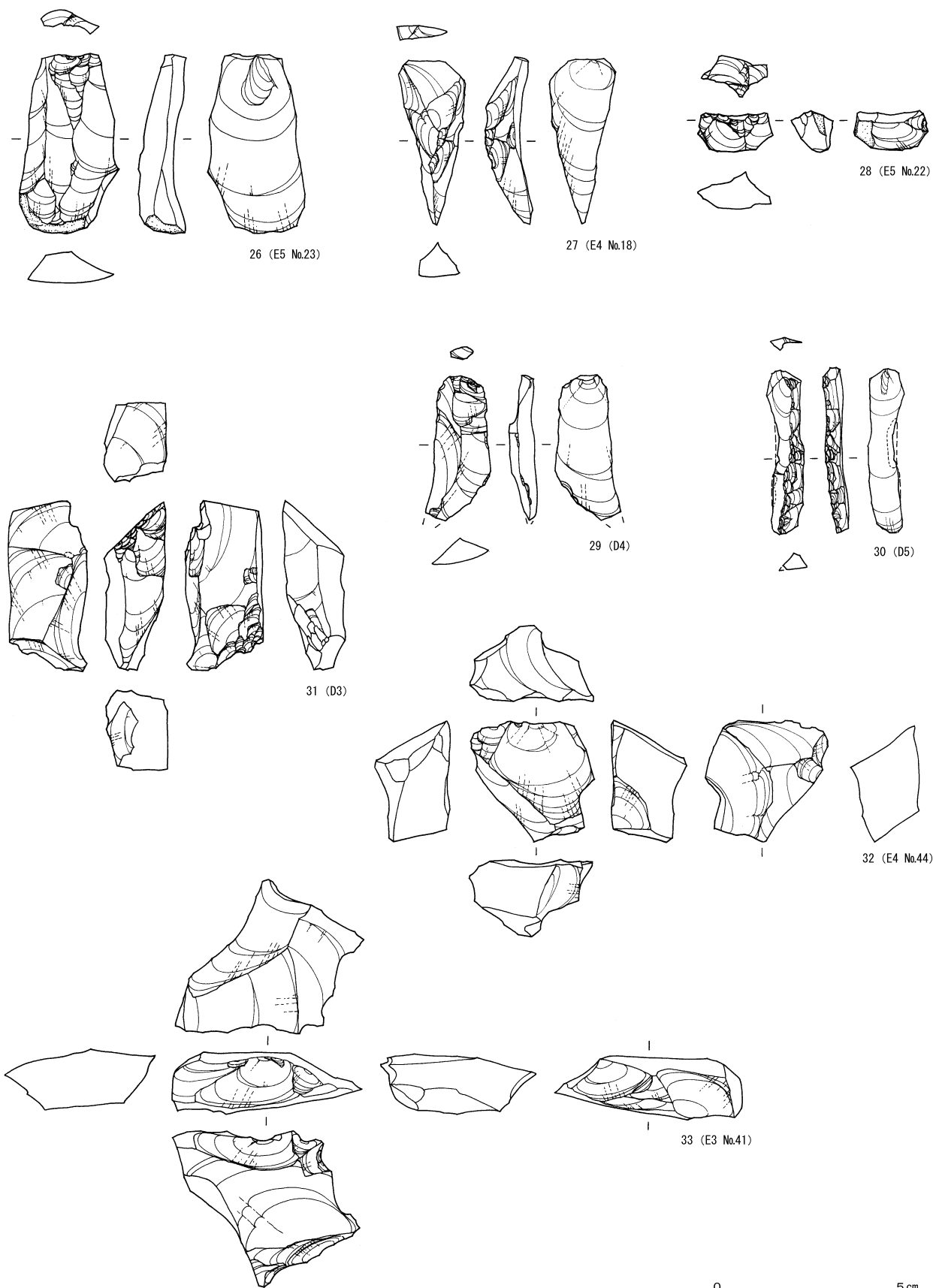
第30图 出土石器 (1)



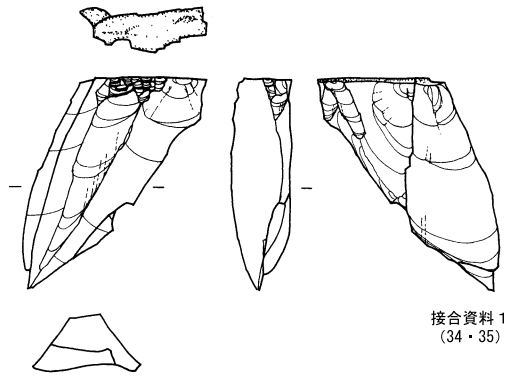
第31图 出土石器(2)



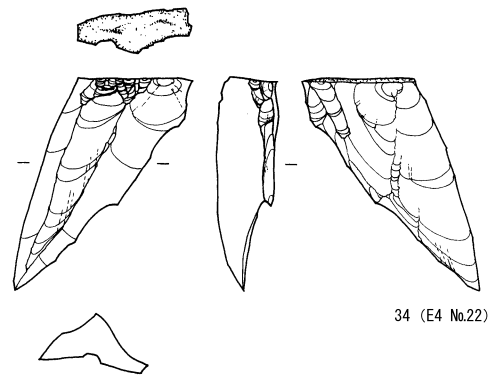
第32图 出土石器 (3)



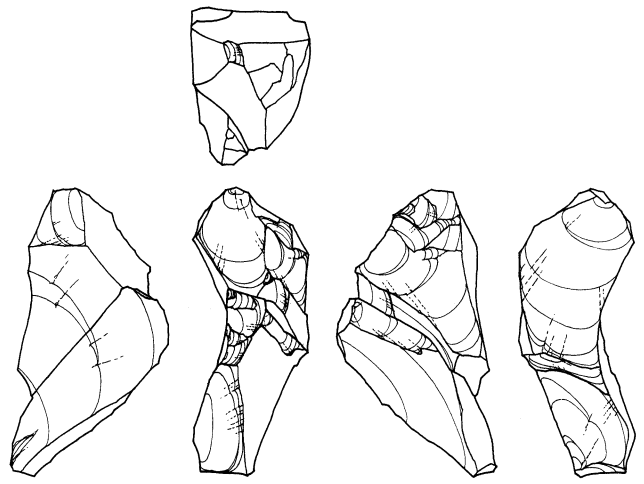
第33图 出土石器(4)



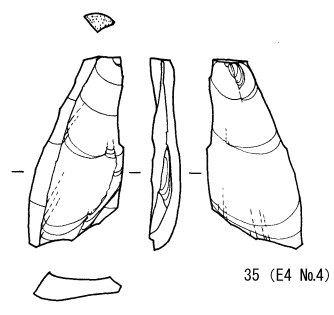
接合資料 1  
(34・35)



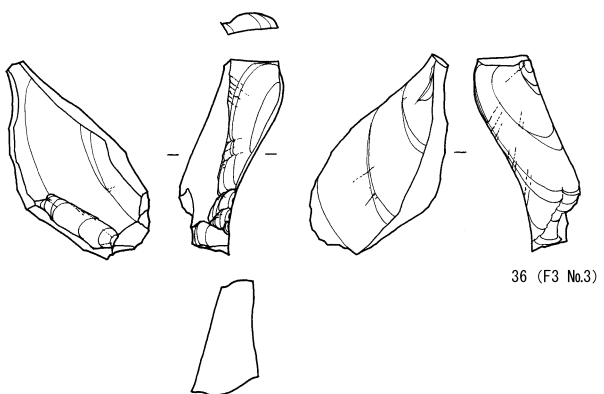
34 (E4 No.22)



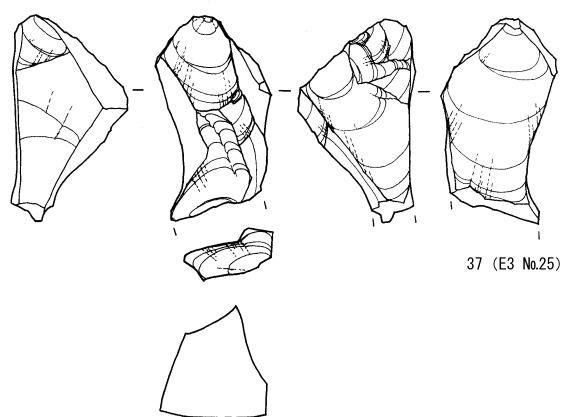
接合資料 2  
(36・37)



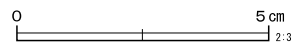
35 (E4 No.4)



36 (F3 No.3)



37 (E3 No.25)



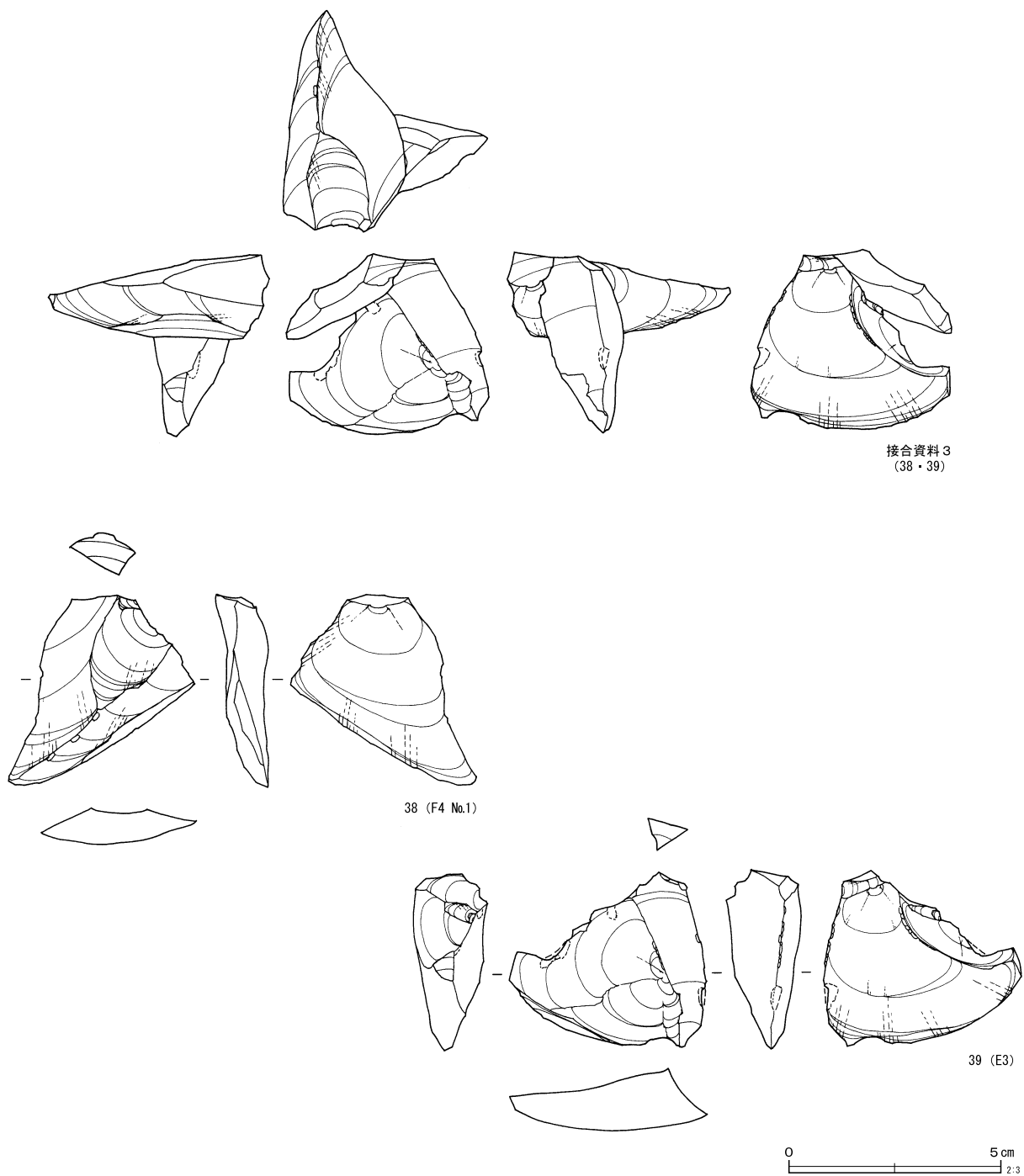
第34図 接合資料 (1)

18は石器集中5より出土した。左半分が欠損するが、長幅比から縦長剥片と考えられる。石器石材は黒色頁岩が用いられている。

19は石器集中9より出土した。正面に礫面を残し、末端は大きく湾曲して節理面を巻き込んでいる。石器石材は珪質頁岩が用いられている。

20は石器集中6より出土した。剥片の側面に稜状調整を行った後、剥片が剥離されている。石器石材は珪質頁岩が用いられている。

21は石器集中9より出土した。末端が欠損する。石器石材は黒色安山岩が用いられている。接合資料2と同一母岩と考えられる。



第35図 接合資料(2)

22は石器集中9より出土した。石器石材は緑色凝灰岩が用いられている。

23は石器集中8より出土した。石器石材は緑色凝灰岩が用いられている。大形の縦長剥片である。

24は石器集中9より出土した。末端が欠損する。右側縁に微細剥離痕が観察される。石器石材は珪質頁岩が用いられている。

25は石器集中10より出土した。下半部が節理のため欠損するが、両側縁と稜が並行するため、縦長剥片を目的としたようである。石器石材はチャートが用いられている。

26は石器集中7より出土した。末端がやや内湾し肉厚になるが、両側縁が並行しており縦長剥片と考えられる。石器石材はチャートが用いられている。

27は石器集中9より出土した。あまり顕著ではないが、正面に稜状調整が観察される。石器石材はチャートが用いられている。

28は石器集中10より出土した。かなり小形であるが、背面に打面調整の痕跡が残されている。石器石材は漆黒の黒曜石が用いられている。

29はD4グリッド出土である。縦長剥片である。左側縁に微細剥離痕が観察される。石器石材は珪質頁岩が用いられている。

30はD5グリッド出土である。稜状調整がかなり顕著に観察される。石器石材はチャートが用いられている。

### 石核 (第33図31~33)

31はD3グリッド出土である。最終作業面は正面方向である。大形の剥片を素材としている。打面を作出し、右側面の下方向から数度の剥片剥離作業が行われている。その後、180度に打面転移し、正面の上方向から数度の剥片剥離作業が行われている。石核調整はほとんど観察されない。石器石材は珪質頁岩が用いられている。接合資料1・3と同一母岩と考えられる。

32は石器集中6より出土した。剥片を素材としている。作業面の観察からほぼ1回のみ剥片剥離作業であり、作出された剥片はやや幅広な剥片と想定される。石核調整はほとんど観察されない。石器石材は黒色安山岩が用いられている。

33は石器集中9より出土した。大形の剥片を素材としてその厚みを利用した盤状石核と考えられる。作出された剥片は小形で幅広な剥片と想定される。石器石材は珪質頁岩が用いられている。

### 接合資料 (第34図34~第35図39)

接合資料1は、石器集中6から出土した35と石器集中9から出土した34の接合資料である。剥片同士の接合で、34・35ともに礫面を打面として剥離された剥片である。打撃時に同時に割れた可能性がある。石器石材は珪質頁岩が用いられている。31や接合資料3と同一母岩と考えられる。

接合資料2は石器集中9より出土した36・37の接合資料である。剥片同士の接合で、素材は接合資料の左側面にみられるような肉厚で大形の剥片であったようである。その末端に片面から調整を行なわれている。この調整はその後の剥離作業から稜状調整と考えられる。素材となる剥片を分割するように36が剥離されている。接合面は、一見すると折面のようにもみえる。稜状調整に沿って剥片が剥離され、さらに37が剥離されている。石器石材は黒色安山岩が用いられている。21と同一母岩と考えられる。

接合資料3は石器集中9より出土した38とE3グリッド出土の39の接合資料である。剥片同士の接合で、38の打面と39の正面が約90度で接合しており、打面転移が行われた資料である。38と同一打面から数度の剥片剥離されたことが伺え、また39が肉厚で末端が大きく外反するため、打面再生剥片と考えられる。石器石材は珪質頁岩が用いられている。31や接合資料1と同一母岩と考えられる。

第3表 石器観察表(1)

	グリッド	番号	北-南 (cm)	西-東 (cm)	標高 (m)	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石器 集中	接合	備考
1	C-2-4	1	39	63	58.200	碎片	チャート	0.96	1.03	0.18	0.2	1		
2	C-2-10	2	170	194	58.144	碎片	頁岩	1.03	2.32	0.20	0.6	1		
3	C-3-20	2	120	75	58.180	剥片	チャート	1.60	0.92	0.26	0.6	2		
4	C-3-20	3	83	180	58.220	剥片	チャート	2.33	2.12	1.20	5.6	2		
5	C-4-16	1	193	73	58.055	剥片	チャート	2.77	1.01	0.86	2.7	2		
6	C-4-16	3	163	155	58.120	原石	黒曜石	2.60	2.26	1.35	8.3	2		分析No1
7	C-4-16	4	156	177	58.205	碎片	チャート	0.91	0.83	0.25	0.2	2		
8	C-4-17	5	14	132	57.860	剥片	チャート	1.61	2.33	0.36	1.6	2		
9	C-4-21	6	30	31	57.925	碎片	チャート	0.76	1.03	1.11	0.1	2		
10	C-4-22	7	92	148	58.220	碎片	チャート	1.01	1.63	0.39	0.5	2		
11	C-4-22	8	70	173	58.220	剥片	チャート	1.96	1.33	0.63	1.3	2		
12	C-4-22	9	46	146	58.200	剥片	ホルンフェルス	1.20	1.53	0.20	0.5	2		
13	C-4-22	11	39	43	58.200	剥片	チャート	1.75	2.15	1.62	2.0	2		
14	C-4-22	12	123	12	58.020	碎片	ホルンフェルス	1.13	1.14	0.23	0.4	2		
15	C-4-23	14	110	32	58.205	剥片	ホルンフェルス	4.90	2.13	0.85	6.5	2		
16	C-4-23	16	153	107	58.165	二次加工の ある剥片	チャート	2.11	2.30	0.45	2.3	2		第31図10
17	D-4-3	11	75	130	58.135	剥片	チャート	1.28	1.08	0.18	0.1	2		
18	D-4-9	6	190	123	58.055	剥片	ホルンフェルス	3.58	4.60	0.80	16.8	3		
19	D-4-15	8	85	158	57.955	剥片	頁岩	1.58	2.34	0.53	2.2	3		
20	D-4-9	14	91	43	58.040	碎片	チャート	0.55	1.53	0.38	0.3	3		
21	D-4-15	15	109	3	57.600	剥片	頁岩	(1.11)	1.94	0.40	0.5	3		
22	D-5-8	6	121	28	57.470	剥片	チャート	(3.31)	3.91	1.34	24.3	4		
23	D-5-13	7	33	25	57.290	剥片	チャート	2.48	2.41	0.39	1.3	4		
24	E-3-2	45	88	120	58.025	碎片	ホルンフェルス	1.13	1.18	0.23	0.3	5		
25	D-3-23	1	125	18	57.645	剥片	黒色頁岩	6.15	1.39	0.88	11.6	5		第32図18
26	D-3-23	2	190	81	57.785	剥片	黒色頁岩	3.50	2.93	0.74	7.7	5		第31図17
27	D-3-24	3	126	119	57.875	二次加工の ある剥片	チャート	(2.22)	2.17	0.79	4.3	5		第31図11
28	E-3-8	42	135	85	57.550	剥片	ホルンフェルス	5.25	3.80	0.96	18.1	5		
29	E-3-8	43	106	103	57.535	剥片	黒色頁岩	6.38	2.42	0.91	13.5	5		第31図16
30	E-3-2	46	98	161	57.545	剥片	黒曜石	(2.15)	2.10	0.99	3.6	5		分析No11
31	E-3-2	47	184	35	57.575	剥片	チャート	(6.20)	3.12	1.78	34.7	5		
32	E-3-3	48	44	141	57.915	剥片	チャート	1.47	2.21	0.24	1.4	5		
33	E-3-7	49	80	23	57.725	剥片	珪質頁岩	(2.77)	(1.71)	0.53	2.2	5		
34	D-4-24	10	61	158	57.755	剥片	頁岩	1.86	4.04	1.04	7.9	6		



第4表 石器観察表(2)

	グリッド	番号	北-南 (cm)	西-東 (cm)	標高 (m)	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石器 集中	接合	備考
35	D-4-24	16	146	130	57.530	碎片	黒曜石	0.99	0.89	0.08	0.1	6		分析No.3
36	E-3-5	1	106	177	57.710	二次加工の ある剥片	チャート	2.30	1.28	0.50	2.2	6		第31図12
37	E-3-10	36	45	157	57.650	二次加工の ある剥片	黒曜石	(3.50)	2.94	1.03	7.0	6		第31図13 分析No.9
38	E-3-14	39	43	127	57.810	剥片	黒色安山岩	2.78	1.94	0.71	4.3	6		
39	E-3-15	44	39	194	57.670	剥片	ホルンフェルス	4.41	5.15	0.98	24.1	6		
40	E-4-3	1	35	139	57.800	剥片	チャート	(1.51)	2.22	0.65	2.1	6		
41	E-4-7	3	190	26	57.810	碎片	珪質頁岩	0.80	2.15	0.33	0.5	6		
42	E-4-7	4	118	167	57.770	剥片	珪質頁岩	3.88	1.77	0.47	3.6	6	1	第34図35
43	E-4-9	5	92	30	57.765	剥片	チャート	(1.39)	1.96	0.51	1.6	6		
44	E-4-12	6	46	65	57.775	剥片	黒色安山岩	2.03	1.31	0.33	0.9	6		
45	E-4-21	22	136	10	57.700	剥片	珪質頁岩	4.12	2.37	1.00	8.5	9	1	第34図34
46	E-4-5	30	54	43	57.690	剥片	チャート	3.99	1.55	0.85	5.1	6		
47	E-4-5	32	185	24	57.670	剥片	黒色頁岩	4.08	5.80	1.20	25.5	6		
48	E-4-18	35	48	49	57.585	剥片	頁岩	2.08	1.62	0.35	1.4	6		
49	E-4-15	38	49	39	57.560	剥片	ホルンフェルス	1.54	1.72	0.35	1.4	6		
50	E-4-3	42	198	106	57.665	剥片	黒曜石	3.20	2.70	1.00	6.5	6		分析No.13
51	E-4-4	43	116	33	57.650	剥片	頁岩	2.89	2.38	0.62	5.1	6		
52	E-4-7	44	60	142	57.745	石核	黒色安山岩	2.90	3.20	1.90	16.6	6		第33図32
53	E-4-7	45	151	170	57.655	剥片	チャート	2.22	1.42	0.45	1.5	6		
54	E-4-11	46	15	193	57.570	剥片	珪質頁岩	(3.01)	2.48	1.75	5.6	6		
55	E-4-11	47	65	130	57.545	剥片	珪質頁岩	2.76	1.04	0.74	2.2	6		第32図20
56	E-4-12	48	80	99	57.640	剥片	珪質頁岩	3.42	3.22	1.14	11.4	6		
57	F-4-2	14-1	98	128	57.500	二次加工の ある剥片	黒曜石	3.52	3.43	1.42	11.7	9		第31図14 分析No.20
58	D-5-23	8	47	105	57.435	剥片	頁岩	1.70	2.40	0.46	1.9	7		
59	D-5-22	11	181	55	57.730	剥片	チャート	1.72	1.66	0.29	0.5	7		
60	D-5-22	12	199	58	57.690	剥片	ホルンフェルス	2.83	(3.23)	0.55	7.7	7		
61	D-5-22	16	157	121	57.625	剥片	ホルンフェルス	3.65	4.54	1.80	29.1	7		
62	E-5-3	2	161	76	57.570	剥片	ホルンフェルス	3.30	2.24	0.64	6.3	7		
63	E-5-7	7	118	8	57.630	剥片	チャート	1.56	1.00	1.22	0.3	7		
64	E-5-3	8	73	57	57.605	剥片	黒色頁岩	1.92	1.53	0.37	1.4	7		
65	E-5-11	23	65	70	57.485	剥片	チャート	4.72	2.56	0.92	12.3	7		第33図26
66	E-5-1	24	101	172	57.620	剥片	チャート	2.33	2.51	1.32	7.0	7		
67	E-5-6	25	25	130	57.630	剥片	チャート	2.93	3.38	1.71	16.3	7		
68	E-5-2	35	96	135	57.675	剥片	ホルンフェルス	3.98	1.99	0.76	4.7	7		

第5表 石器観察表(3)

	グリッド	番号	北-南 (cm)	西-東 (cm)	標高 (m)	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石器 集中	接合	備考
69	E-5-7	36	33	109	57.555	剥片	ホルンフェルス	1.83	2.61	0.40	2.1	7		
70	D-5-20	2	4	10	57.410	剥片	緑色凝灰岩	9.83	2.77	1.33	32.4	8		第32図23
71	D-5-20	3	141	50	57.345	剥片	黒曜石	(2.76)	1.45	0.79	1.8	8		分析No.4
72	E-6-12	5	35	65	57.615	剥片	チャート	2.13	0.93	0.70	3.2	8		
73	D-6-21	2	156	121	57.410	剥片	黒曜石	2.63	1.37	0.18	0.6	8		分析No.5
74	D-6-21	3	182	88	57.470	剥片	チャート	3.20	1.97	0.43	2.2	8		
75	E-5-5	3	73	31	57.420	剥片	黒色頁岩	2.14	1.68	0.43	1.6	8		
76	E-5-5	5	133	134	57.425	剥片	ホルンフェルス	1.22	1.54	0.16	0.6	8		
77	E-5-5	30	71	59	57.230	剥片	黒曜石	1.30	1.70	0.36	0.5	8		分析No.16
78	E-5-5	31	124	78	57.115	剥片	黒色安山岩	0.95	1.36	0.20	0.3	8		
79	E-5-10	32	145	186	57.055	剥片	頁岩	1.48	2.25	0.50	1.6	8		
80	E-6-1	1	52	120	57.290	スクレイパー	黒曜石	3.74	2.96	1.09	10.1	8		第30図6 分析No.17
81	E-6-1	4	21	169	57.290	ナイフ形石器	黒曜石	4.78	2.62	0.70	5.7	8		第30図1 分析No.18
82	E-3-20	4	106	16	57.615	剥片	黒曜石	1.61	1.18	0.24	0.5	9		分析No.6
83	E-3-25	8	9	34	57.780	剥片	チャート	(3.90)	2.76	1.50	16.0	9		
84	E-3-25	9	58	99	57.765	剥片	黒曜石	1.12	0.66	0.20	0.1	9		分析No.7
85	E-3-25	10	132	146	57.770	剥片	珪質頁岩	5.40	1.81	1.50	11.8	9		第32図19
86	E-3-25	13	3	13	57.575	剥片	黒曜石	(1.06)	1.58	0.50	0.5	9		分析No.8
87	E-3-25	15	179	166	57.710	剥片	チャート	2.45	2.40	0.74	4.1	9		
88	E-3-25	25	196	64	57.725	剥片	黒色安山岩	4.01	2.10	2.30	17.4	9	2	第34図37
89	E-3-25	37	63	84	57.530	剥片	黒曜石	(1.02)	1.36	0.33	0.6	9		分析No.10
90	E-3-19	38	134	129	57.635	剥片	チャート	1.25	1.20	0.22	0.4	9		
91	E-3-25	41	186	130	57.540	石核	珪質頁岩	5.00	1.15	1.37	27.6	9		第33図33
92	E-4-21	14	141	4	57.755	剥片	黒色安山岩	3.76	2.18	1.29	7.3	9		
93	E-4-21	18	104	28	57.690	剥片	チャート	4.31	1.70	0.96	5.1	9		第33図27 稜状調整有
94	E-4-21	19	151	32	57.660	剥片	チャート	3.08	3.00	0.69	7.6	9		
95	E-4-22	26	100	48	57.700	碎片	黒曜石	0.93	0.53	(0.12)	0.1	9		分析No.12
96	F-3-4	3	110	135	57.740	剥片	黒色安山岩	4.28	2.35	1.25	12.2	9	2	第34図36
97	F-3-5	4	46	175	57.660	剥片	緑色凝灰岩	5.06	2.85	1.02	15.8	9		第32図22
98	F-3-5	6	43	74	57.740	剥片	黒色安山岩	4.30	4.50	1.35	21.9	9		
99	F-3-5	9	122	120	57.660	剥片	黒色安山岩	3.15	2.08	0.64	4.1	9		第32図21
100	F-3-5	10	128	93	57.710	剥片	チャート	2.15	2.87	0.75	4.5	9		
101	F-3-5	14-2	105	193	57.675	碎片	黒曜石	0.88	0.70	0.06	0.1	9		分析No.19
102	F-3-9	16	170	14	57.480	剥片	珪質頁岩	3.60	3.15	1.08	5.7	9		第32図24

第6表 石器観察表(4)

	グリッド	番号	北-南 (cm)	西-東 (cm)	標高 (m)	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石器 集中	接合	備考
103	F-4-1	1	99	6	57.610	剥片	珪質頁岩	4.56	4.37	0.83	13.4	9	3	第35図38
104	F-4-1	9	39	22	57.575	剥片	チャート	3.13	2.60	1.83	7.9	9		
105	F-4-7	28	195	175	57.310	スクレイパー	黒曜石	1.87	2.20	0.88	3.7	9		第30図7 分析No.21
106	E-5-18	15	36	75	57.250	剥片	頁岩	2.08	1.46	0.66	1.9	10		
107	E-5-23	17	3	78	57.240	剥片	チャート	(2.10)	1.90	0.52	2.8	10		第32図25
108	E-5-24	22	130	161	57.120	剥片	黒曜石	(1.04)	1.92	0.92	1.4	10		第33図28 分析No.14
109	E-5-21	27	1	177	57.315	剥片	黒曜石	1.69	(1.10)	1.27	0.7	10		分析No.15
110	F-4-15	38	78	181	57.065	スクレイパー	チャート	4.38	3.18	0.71	11.1	11		第30図8
111	F-5-12	4	54	45	56.980	剥片	珪質頁岩	3.01	1.01	0.82	2.8	11		
112	D-2-23	1	69	55	57.950	剥片	黒曜石	1.27	1.89	0.54	2.0			分析No.2
113	D-3					石核	珪質頁岩	4.50	1.43	2.06	17.3			第33図31
114	D-3					ナイフ形石器	黒曜石	5.55	1.47	0.56	3.7			第30図2 分析No.22
115	D-5					スクレイパー	頁岩	(3.58)	2.90	0.77	9.0			第31図9
116	D-5					剥片	チャート	4.30	0.76	0.43	1.9			第33図30 稜状調整有
117	E-3					剥片	珪質頁岩	4.22	4.69	1.80	24.4		3	第35図39
118	E-4					二次加工の ある剥片	チャート	4.59	1.85	0.61	5.6			第31図15
119	E-4					ナイフ形石器	チャート	3.40	1.17	0.77	2.8			第30図3
120	E-5					ナイフ形石器	珪質頁岩	4.30	2.20	0.80	6.5			第30図5
121	表採					ナイフ形石器	黒曜石	2.71	1.51	0.70	2.7			第30図4 分析No.23
122	D-4					剥片	珪質頁岩	3.79	1.45	0.58	3.1			第33図29

## 2. 礫群

### 礫群1 (第36・37図)

E3・4、F3・4グリッドに位置する。石器集中9とは分布がほぼ重なるようである。分布は南北9m、東西10mの範囲で、視覚的にはF4グリッド北西コーナーを中心に密集する。点数は87点で、総重量は3724.2gである。石材は、チャート、砂岩、頁岩、ホルンフェルス、安山岩が使われているが、ほとんどが砂岩で構成される。礫の1/4以下の破碎礫が69点で全体の約80%と多い。赤化礫は23点に観察される。付着物は、スス状付着物のみ3点に観察され、被熱の痕跡が伺える。

### 礫群2 (第38図)

D4・5グリッドに位置する。石器集中3の南東に位置する。分布は径1mの範囲と非常に狭く、点数も4点と少ない。総重量は560.3gである。石材は、砂岩のみで、礫表面には被熱の痕跡はあまり残されていない。

これら以外にも礫が分布していたが、調査時に礫群と確認されず、また、小礫が多く、分布も散漫なため、礫群とはしなかった。

第7表 礫属性表

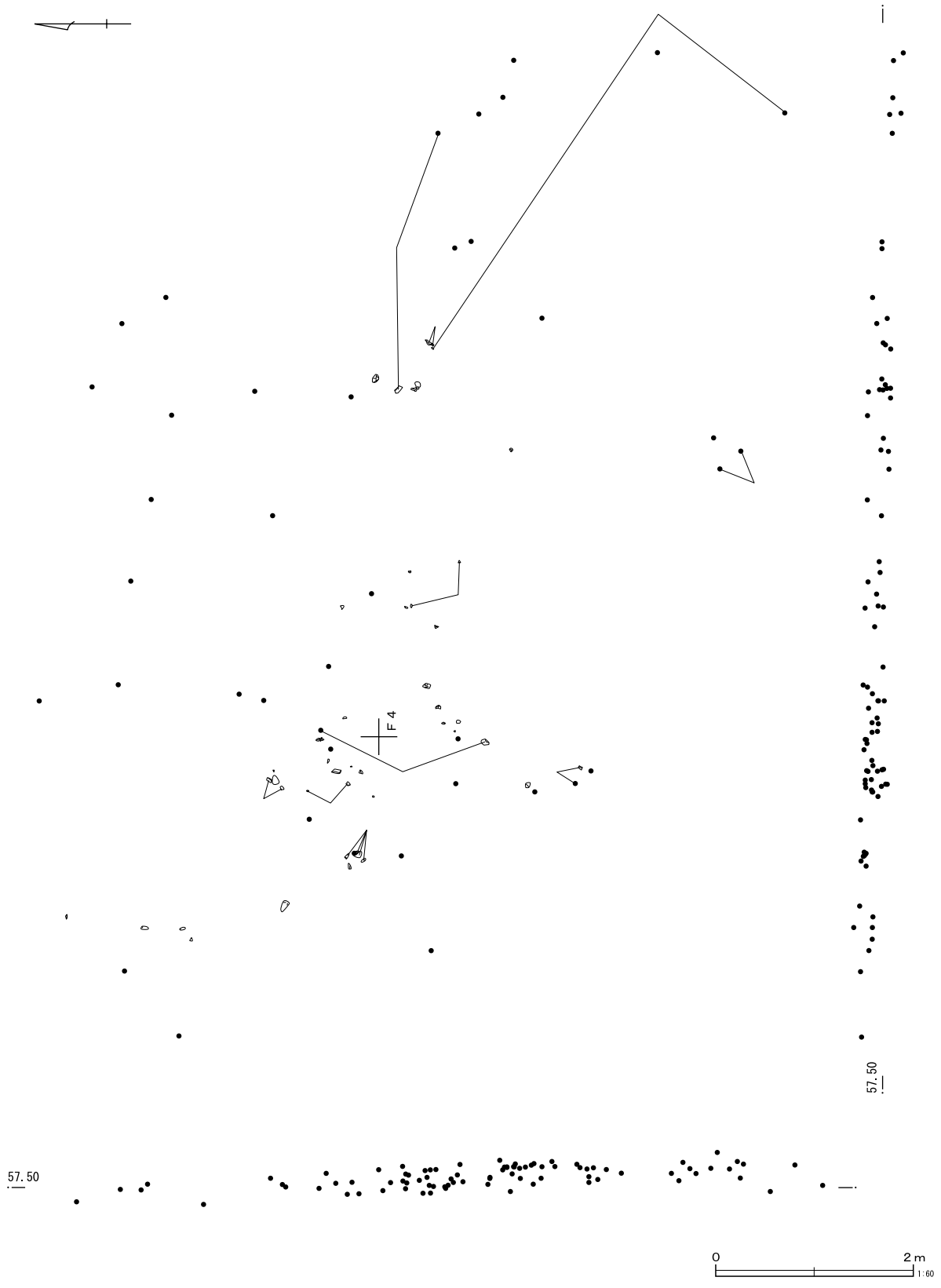
#### 礫群1

石材	赤化		付着物		残存			合計
	有	無	スス	無	完形	1/2	1/4	
チャート	1/14.5	9/147.2	0/0.0	10/161.7	0/0.0	0/0.0	10/161.7	10/161.7
砂岩	18/699.7	51/2484.7	3/309.9	66/2874.5	13/1703.4	4/297.7	52/1183.3	69/3184.4
頁岩	3/126.4	3/13.0	0/0.0	6/139.4	0/0.0	0/0.0	6/139.4	6/139.4
ホルンフェルス	1/237.2	0/0.0	0/0.0	1/237.2	0/0.0	1/237.2	0/0.0	1/237.2
安山岩	0/0.0	1/1.5	0/0.0	1/1.5	0/0.0	0/0.0	1/1.5	1/1.5
合計(個/g)	23/1077.8	64/2646.4	3/309.9	84/3414.3	13/1703.4	5/534.9	69/1485.9	87/3724.2

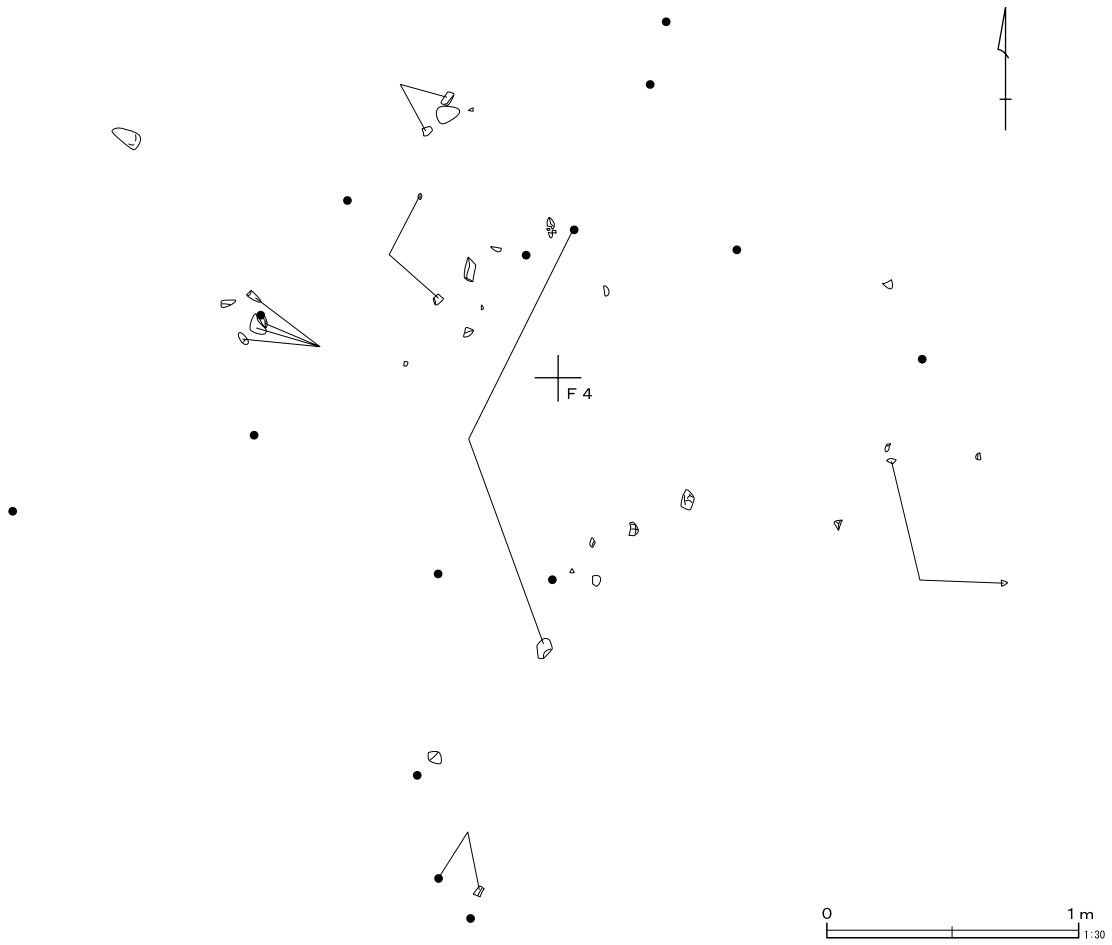
#### 礫群2

石材	赤化		付着物		残存			合計
	有	無	スス	無	完形	1/2	1/4	
砂岩	1/62.7	3/497.6	0/0.0	4/560.3	0/0.0	0/0.0	4/560.3	4/560.3
合計(個/g)	1/62.7	3/497.6	0/0.0	4/560.3	0/0.0	0/0.0	4/560.3	4/560.3

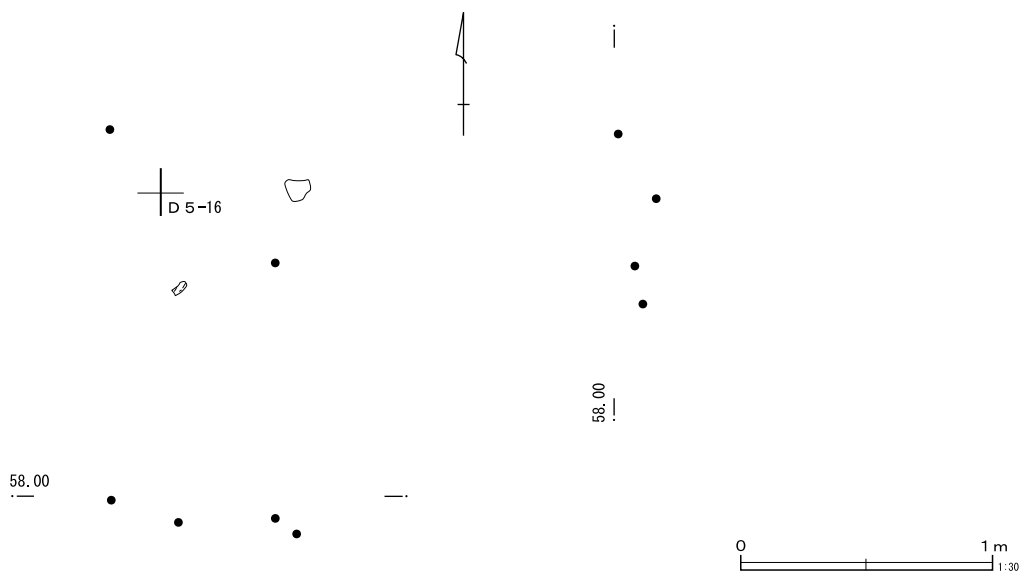
	赤化		付着物		残存			合計
	有	無	スス	無	完形	1/2	1/4	
総計(個/g)	24/1140.5	67/3144.0	3/309.9	88/3974.6	13/1703.4	5/534.9	73/2046.2	91/4284.5



第36図 礫群 1 (1)



第37図 礫群1 (2)



第38図 礫群2

第8表 礫観察表(1)

	グリッド	番号	北-南 (cm)	西-東 (cm)	標高 (m)	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	礫 群	接 合	遺存度	備考
1	E-3-25	30	178	80	57.705	砂岩	6.36	8.48	3.44	195.3	1	1	完形	
2	E-3-19	2	143	164	57.760	砂岩	6.50	4.44	2.10	73.9	1		完形	
3	E-3-19	3	198	98	57.750	砂岩	4.68	2.78	3.56	37.8	1		1/4以下	赤化有
4	E-3-20	5	85	18	57.725	砂岩	4.85	3.03	1.78	20.4	1		1/4以下	赤化有
5	E-3-20	6	163	8	57.850	砂岩	6.82	4.04	2.09	62.9	1		完形	赤化有
6	E-3-24	7	10	195	57.640	砂岩	4.91	4.09	1.52	28.7	1		1/4以下	赤化有
7	E-3-25	11	130	117	57.760	砂岩	3.54	2.25	1.36	10.1	1		1/4以下	
8	E-3-25	12	151	188	57.725	砂岩	2.36	1.90	0.92	3.3	1		1/4以下	
9	E-3-25	16	2	6	57.570	砂岩	7.42	2.98	1.91	56.7	1		1/2	赤化有
10	E-3-25	17	88	155	57.700	砂岩	7.14	5.12	4.78	270.8	1	2	完形	
11	E-3-25	18	102	147	57.700	砂岩	5.54	3.65	2.43	51.6	1	2	完形	
12	E-3-25	19	93	164	57.610	砂岩	2.26	1.15	0.90	2.4	1		完形	
13	E-3-25	20	148	174	57.740	砂岩	3.65	2.62	1.28	16.3	1		1/4以下	
14	E-3-25	21	157	164	57.700	砂岩	7.75	2.90	2.95	44.5	1		1/4以下	赤化有
15	E-3-25	22	140	196	57.710	チャート	3.88	2.38	1.15	9.2	1		1/4以下	
16	E-3-25	23	170	169	57.640	砂岩	1.84	1.26	0.77	2.3	1		1/4以下	
17	E-3-25	24	193	139	57.590	頁岩	1.80	1.64	1.11	3.3	1		1/4以下	
18	E-3-25	26	105	30	57.735	砂岩	12.37	7.78	7.20	894.9	1		完形	
19	E-3-25	27	169	69	57.710	砂岩	5.27	2.62	1.88	18.7	1		1/4以下	
20	E-3-25	28	167	79	57.735	砂岩	4.70	2.54	1.56	18.0	1	1	完形	
21	E-3-25	29	183	75	57.770	砂岩	3.87	2.81	1.90	14.4	1	1	完形	
22	E-3-25	31	95	155	57.685	ホルンフェルス	9.40	6.01	3.35	237.2	1		1/2	赤化有
23	E-3-25	32	127	144	57.710	砂岩	2.00	1.99	1.64	2.1	1	3	1/4以下	赤化有
24	E-3-25	33	168	151	57.705	砂岩	4.10	3.22	2.95	20.4	1	3	1/4以下	赤化有
25	E-3-25	34	180	163	57.680	砂岩	4.61	3.26	1.87	16.6	1		1/4以下	
26	E-3-25	35	176	83	57.710	砂岩	6.55	3.50	2.35	61.0	1	1	完形	
27	E-3-25	40	176	83	57.705	砂岩	4.32	2.97	1.54	14.0	1		1/4以下	
28	E-4-16	7	137	53	57.735	砂岩	4.92	1.71	0.69	7.2	1		1/4以下	
29	E-4-16	8	57	37	57.520	砂岩	4.04	2.78	2.13	22.2	1		1/4以下	赤化有
30	E-4-16	9	151	157	57.685	砂岩	6.17	2.50	1.90	35.0	1		完形	
31	E-4-17	11	170	40	57.690	砂岩	2.73	2.51	1.73	13.4	1		1/4以下	
32	E-4-17	12	191	125	57.690	砂岩	1.54	0.88	0.93	2.3	1		1/4以下	
33	E-4-17	13	110	153	57.460	砂岩	4.16	2.53	0.97	11.5	1		1/4以下	
34	E-4-21	16	60	44	57.640	砂岩	4.33	3.03	2.05	28.0	1		1/4以下	

第9表 礫観察表(2)

	グリッド	番号	北-南 (cm)	西-東 (cm)	標高 (m)	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	礫 群	接 合	遺存度	備考
35	E-4-21	17-1	84	37	57.580	砂岩	4.00	3.23	1.78	20.3	1		1/4以下	
36	E-4-21	17-2	84	37	57.580	砂岩	2.70	2.51	1.66	13.6	1		完形	
37	E-4-21	20	149	71	57.535	砂岩	5.64	2.55	1.01	18.9	1		1/4以下	
38	E-4-21	21	193	145	57.600	砂岩	3.55	2.60	2.02	15.4	1		1/4以下	
39	E-4-21	24	163	18	57.690	砂岩	5.30	4.45	2.78	62.6	1		1/4以下	
40	E-4-21	25	162	130	57.590	チャート	3.84	2.47	2.26	25.5	1		1/4以下	
41	E-4-22	27	75	149	57.680	チャート	0.71	0.68	0.33	0.1	1		1/4以下	
42	E-4-22	28	93	24	57.550	安山岩	2.26	1.46	1.23	1.5	1		1/4以下	
43	E-4-22	29	172	143	57.460	砂岩	2.88	2.39	1.67	9.6	1		1/4以下	
44	E-4-22	33	195	160	57.530	砂岩	8.44	6.01	4.54	203.9	1		1/4以下	赤化有
45	E-4-21	34	141	6	57.590	砂岩	3.85	2.16	1.00	8.9	1	4	1/2	スス状付着物
46	E-4-18	36	140	18	57.595	砂岩	2.60	1.99	1.06	4.9	1		1/4以下	
47	E-4-18	37	185	44	57.640	砂岩	4.62	2.65	2.79	21.2	1		1/4以下	
48	F-3-4	1	53	185	57.675	砂岩	2.29	1.85	0.83	6.2	1		1/4以下	
49	F-3-5	5	23	80	57.730	チャート	5.00	4.64	2.82	58.7	1		1/4以下	
50	F-3-5	7	81	198	57.710	砂岩	3.94	2.74	2.03	15.0	1		1/4以下	
51	F-3-5	8	78	153	57.490	砂岩	2.49	2.43	1.47	7.7	1		1/4以下	
52	F-3-5	11	158	145	57.640	砂岩	4.65	4.45	2.00	20.0	1		1/4以下	
53	F-3-5	13	199	153	57.505	砂岩	3.78	2.51	1.85	15.4	1	5	1/4以下	
54	F-3-5	14-1	105	193	57.675	砂岩	7.10	4.54	3.38	163.3	1	4	1/2	
55	F-3-5	15	148	149	57.540	砂岩	6.56	4.03	3.27	68.8	1		1/2	
56	F-3-10	17	14	166	57.590	砂岩	2.50	1.69	1.20	4.9	1		1/4以下	
57	F-3-10	18	2	167	57.530	砂岩	4.13	3.22	1.84	22.3	1	5	1/4以下	
58	F-4-7	25	138	102	57.530	チャート	1.60	1.72	0.72	2.7	1		1/4以下	
59	F-4-1	2	30	165	57.550	砂岩	2.28	2.00	1.05	3.8	1		1/4以下	
60	F-4-1	3	26	129	57.625	チャート	3.99	2.19	2.00	24.0	1		1/4以下	
61	F-4-1	4	32	131	57.585	砂岩	3.70	2.51	1.08	7.7	1	6	1/4以下	赤化有
62	F-4-1	5	56	110	57.600	砂岩	3.89	3.61	2.18	22.1	1		1/4以下	
63	F-4-1	6	47	50	57.680	砂岩	6.75	5.23	2.75	76.7	1		1/4以下	赤化有
64	F-4-1	7	58	28	57.670	砂岩	4.10	3.65	2.50	30.0	1		1/4以下	スス状付着物 赤化有
65	F-4-1	8	64	12	57.570	チャート	3.92	2.82	1.43	14.5	1		1/4以下	赤化有
66	F-4-1	10	80	175	57.565	砂岩	2.72	1.65	1.07	4.6	1	6	1/4以下	赤化有
67	F-4-1	12	78	14	57.635	砂岩	4.12	2.85	2.40	29.3	1		1/4以下	赤化有
68	F-4-1	13	75	4	57.625	砂岩	2.01	1.81	1.41	6.4	1		1/4以下	スス状付着物



第10表 礫観察表(3)

	グリッド	番号	北-南 (cm)	西-東 (cm)	標高 (m)	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	礫 群	接 合	遺存度	備考
69	F-4-2	15	20	150	57.560	砂岩	5.36	2.66	1.64	126.6	1	7	1/4以下	
70	F-4-2	16	35	149	57.520	砂岩	8.38	4.51	2.30	25.3	1		1/4以下	
71	F-4-2	17	38	153	57.490	砂岩	0.03	0.07	0.28	0.3	1		1/4以下	
72	F-4-2	18	38	150	57.505	砂岩	3.44	2.19	1.31	8.0	1		1/4以下	
73	F-4-2	19	50	196	57.510	頁岩	7.88	4.56	2.90	90.4	1	8	1/4以下	赤化有
74	F-4-2	20	54	194	57.520	頁岩	5.70	1.40	1.10	8.1	1	8	1/4以下	赤化有
75	F-4-2	21	53	190	57.445	砂岩	3.90	2.15	1.84	15.4	1	9	1/4以下	
76	F-4-2	22	132	88	57.550	頁岩	2.42	2.36	1.38	6.9	1		1/4以下	
77	F-4-3	23	77	93	57.545	頁岩	3.99	3.56	2.28	27.9	1		1/4以下	赤化有
78	F-4-3	24	93	100	57.545	頁岩	2.45	1.56	0.78	2.8	1		1/4以下	
79	F-4-7	26	145	71	57.475	チャート	2.18	1.18	1.25	5.3	1	10	1/4以下	
80	F-4-7	27	166	89	57.480	チャート	2.32	2.54	2.98	17.9	1	10	1/4以下	
81	F-4-3	29	165	23	57.490	チャート	3.05	1.67	0.84	3.8	1		1/4以下	
82	F-4-4	30	60	10	57.440	砂岩	3.26	2.61	1.15	8.5	1	7	1/4以下	赤化有
83	F-4-4	31	101	29	57.465	砂岩	2.68	1.91	1.68	9.6	1		完形	
84	F-4-4	32	125	46	57.435	砂岩	4.23	3.01	1.99	24.8	1		1/4以下	赤化有
85	F-4-4	33	137	83	57.430	砂岩	2.34	2.14	0.93	4.5	1		1/4以下	
86	F-4-9	34	82	91	57.330	砂岩	2.43	0.99	0.94	2.7	1		1/4以下	
87	F-4-14	36	10	30	57.355	砂岩	3.72	3.34	1.70	18.5	1	9	1/4以下	赤化有
88	D-4-15	7	176	182	57.990	砂岩	4.87	3.34	3.73	63.0	2		1/4以下	
89	D-5-16	9	29	47	57.920	砂岩	3.40	2.85	2.08	11.6	2		1/4以下	
90	D-5-16	13	2	54	57.830	砂岩	10.11	8.01	5.04	423.0	2		1/4以下	
91	D-5-16	14	43	7	57.890	砂岩	6.44	3.57	2.36	62.7	2		1/4以下	赤化有

## V 縄文時代の遺物

駿河台遺跡では、グリッド出土や表面採集によって縄文時代の土器、石器が出土している。これらの出土遺物は遺構に伴ったものではなく、周辺にも該期の遺跡は見当たらない。

以下、これらの縄文時代の出土遺物について記しておく。

### 土器 (第39図)

駿河台遺跡では、表面採集も含め、128点の縄文土器が出土した。中期末から後期初頭に帰属する2点を除き、126点が撚糸文系東山式期の所産と判定した。このうち36点を図示したが、口縁部片の特徴を見るかぎり、ごく限られた時期のものと考えられる。これらは、淡褐色から赤褐色をし、胎土には角閃石がもれなく含まれ、さらに半数近くでは火山軽石らしき乳白色粒が混じり込んでいる。上半の器厚は一様に薄く、下位は丸底気味の砲弾形になるようである。

1～13は口縁部片であるが、このうち1～8までは口縁下に沈線がめぐらされている。ほとんどは、直立する器形の成形後に線が引かれているが、1のみは前代の名残をとどめる器形屈曲を口唇部整形の際に意識している。これに対し、9～13は沈線や凹線が加えられないもので、9はやや外反し、11・12は内湾するなど、沈線土器に比べて偏差が大きい。後者は碗形に近い小型土器の可能性もある。

一方、14～36は胴部から底部で、小型土器の破片は見あたらない。14は唯一撚糸文Rが浅く縦位施文されたものだが、胎土等に他と大きく異なる特徴は認められない。また、36は丸底部の破片である。

### 石器 (第40図)

1は石鏃である。D3グリッド出土である。凹基無茎鏃で、二等辺三角形に近く、基部の挟りは浅いが弧を描くように湾曲する。石器石材はチャートである。

2は石鏃である。F3グリッド出土である。凹基無茎鏃で、二等辺三角形に近く、基部の挟りは浅いが鈍角を持つような調整が施されている。素材剥片が薄く、周辺にのみ調整加工が施されている。石器石材はチャートである。

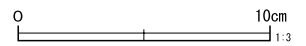
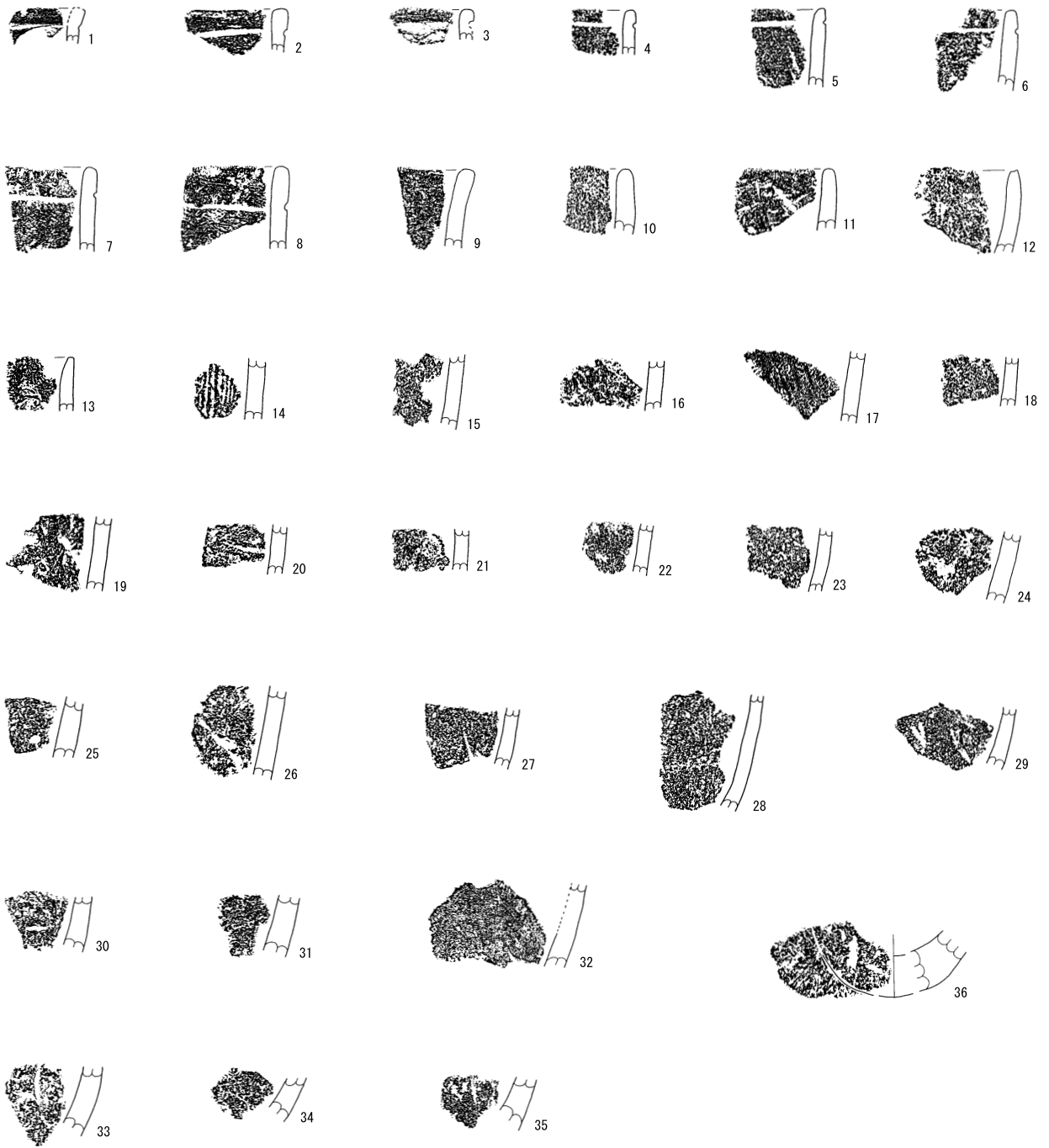
3は石鏃である。表面採集である。石器石材は黒曜石である。凹基無茎鏃で、基部の挟りは深い。脚部が一部欠損する。

4は石鏃である。D5グリッドのローム層中より出土した。凹基無茎鏃で、基部の挟りは浅く、湾曲する。先端部は欠損するが、調整加工が粗く、製作途中に折れた可能性がある。石器石材は黒曜石である。

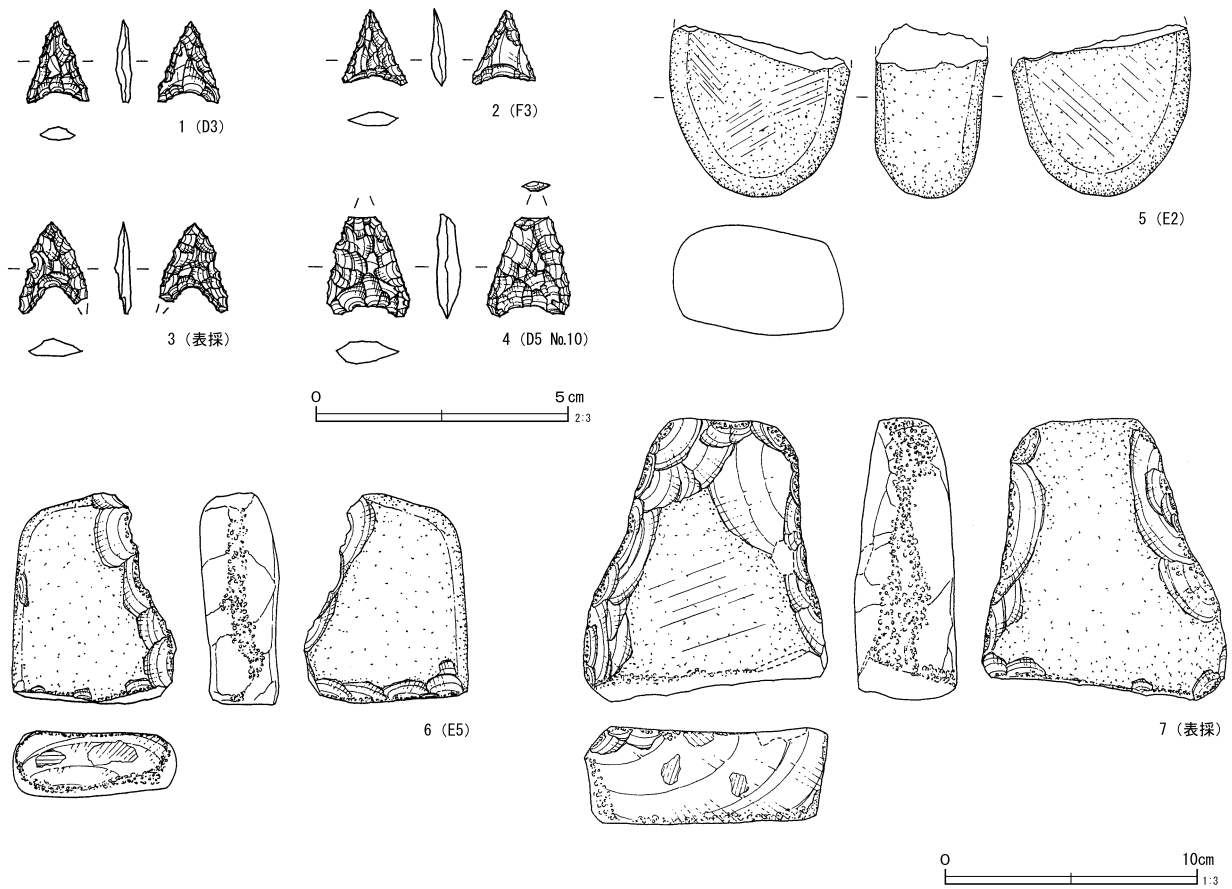
5は磨石である。E2グリッド出土である。扁平な楕円礫を用い、正面に磨跡がみられる。上半分が欠損する。石器石材は閃緑岩である。

6はスタンプ形石器である。E5グリッド出土である。扁平な楕円礫を用い、右側縁に敲打による剥離が見られる。下面の平坦部には若干の磨耗痕が見られ、敲打によって縁辺が摩滅している。石器石材は砂岩である。

7はスタンプ形石器である。表面採集である。扁平な楕円礫を用い、両側縁に入念な敲打による剥離が観察される。さらに下面の平坦部には若干の磨耗痕と敲打の痕跡が伺える。石器石材は砂岩である。



第39図 縄文土器拓影図



第40図 縄文時代石器

第11表 縄文時代石器観察表

No.	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
1	石鏃	チャート	1.58	1.20	0.33	0.4	D-3
2	石鏃	チャート	1.44	1.26	0.23	0.3	F-3
3	石鏃	黒曜石	1.78	1.37	0.28	0.4	表採
4	石鏃	黒曜石	2.00	1.66	0.43	1.3	D-5No.10
5	磨石	閃緑岩	(5.91)	7.09	4.48	294.6	E-2
6	スタンプ形石器	砂岩	8.38	6.41	2.96	234.3	E-5
7	スタンプ形石器	砂岩	10.56	9.46	3.50	610.2	表採

## Ⅵ 黒曜石の蛍光 X 線分析

駿河台遺跡出土の黒曜石23点について、蛍光 X 線による産地推定を行った。

分析資料の出土地点は、石器集中2が1点、石器集中5が1点、石器集中6が3点、石器集中8が5点、石器集中9が8点、石器集中10が2点と、石器集中に含まれないもの、D2グリッド出土、D3グリッド一括、表面採集が各1点の合計23点である。石器集中から出土した黒曜石は全て分析の資料とし、それら以外の3点を加えた。

分析の結果は、第12表に示したとおりである。資料23点のうち、産地が推定できたものが12点、

不明となったものが11点である。12点の内訳は、箱根系の畑宿群が5点、信州系の和田峠群3点、冷山群2点、星ヶ台群、男女倉群が各1点で、箱根系5点、信州系7点となった。資料数が少なく、半数近くの資料は産地推定ができなかった点など詳細な検討をするには無理があるが、箱根系と信州系が混在することは黒曜石の流通を考える上で貴重な分析結果と考えられる。

なお、分析の詳細は埼玉県埋蔵文化財調査事業団『研究紀要』に掲載する予定である。

第12表 黒曜石産地推定表

分析番号	グリッド	番号	石器集中	図版番号	器種	推定産地	誤差の目安	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
1	C-4-16	3	2	非掲載	原石	不明		2.60	2.26	1.35	8.3
2	D-2-23	1		非掲載	剥片	畑宿群	m-m ±3σ	1.27	1.89	0.54	2.0
3	D-4-24	16	6	非掲載	碎片	不明		0.99	0.89	0.08	0.1
4	D-5-20	3	8	非掲載	剥片	不明		(2.76)	1.45	0.79	1.8
5	D-6-21	2	8	非掲載	剥片	和田峠群	m-m ±4σ	2.63	1.37	0.18	0.6
6	E-3-20	4	9	非掲載	剥片	畑宿群	m-m ±2σ	1.61	1.18	0.24	0.5
7	E-3-25	9	9	非掲載	剥片	不明		1.12	0.66	0.20	0.1
8	E-3-25	13	9	非掲載	剥片	不明		(1.06)	1.58	0.50	0.5
9	E-3-10	36	6	第31図13	二次加工のある剥片	畑宿群	m-m ±2σ	(3.50)	2.94	1.03	7.0
10	E-3-25	37	9	非掲載	剥片	不明		(1.02)	1.36	0.33	0.6
11	E-3-2	46	5	非掲載	剥片	冷山群	m-m ±1σ	(2.15)	2.10	0.99	3.6
12	E-4-22	26	9	非掲載	碎片	不明		0.93	0.53	(0.12)	0.1
13	E-4-3	42	6	非掲載	剥片	畑宿群	m-m ±5σ	3.20	2.70	1.00	6.5
14	E-5-24	22	10	第32図28	剥片	和田峠群	m-m ±5σ	(1.04)	1.92	0.92	1.4
15	E-5-21	27	10	非掲載	剥片	不明		1.69	(1.10)	1.27	0.7
16	E-5-5	30	8	非掲載	剥片	不明		1.30	1.70	0.36	0.5
17	E-6-1	1	8	第30図6	スクレイパー	和田峠群	m-m ±0σ	3.74	2.96	1.09	10.1
18	E-6-1	4	8	第30図1	ナイフ形石器	男女倉群	m-m ±3σ	4.78	2.62	1.53	5.7
19	F-3-5	14-2	9	非掲載	碎片	不明		0.88	0.70	0.06	0.1
20	F-4-2	14-1	9	第31図14	二次加工のある剥片	畑宿群	m-m ±2σ	3.52	3.43	1.42	11.7
21	F-4-7	28	9	第30図7	スクレイパー	不明		1.87	2.20	0.88	3.7
22	D-3	一括		第30図2	ナイフ形石器	星ヶ台群	m-m ±1σ	5.55	1.47	0.56	3.7
23	表採	一括		第30図4	ナイフ形石器	冷山群	m-m ±2σ	2.71	1.51	0.70	2.7

## Ⅶ 調査のまとめ

武蔵野台地北部は、古多摩川の扇状地地形を良く残しており、駿河台遺跡の立地する扇状地は狭山丘陵と加治丘陵との間を流れた際に形成されている。遺跡は扇状地の扇央部に位置している。かつて扇央部では河川が伏流し、水の便が極めて悪く、遺跡はないと考えられていた。しかし、森野譲氏の分布調査によってこの扇央部にも多くの旧石器時代の遺跡が発見された（森野1993）。砂川中流域の駿河台遺跡もそのひとつである。砂川は、狭山丘陵を水源とし、扇状地中央部を流れる河川である。現在は人工的な河川となり、一般に「砂川堀」と呼ばれているが、もともとは扇央部で伏流する河川であったと考えられている。砂川上流域には砂川遺跡、中砂遺跡等の旧石器時代の遺跡が多く知られるが、中流域には少ない。標高約90m地点の中砂遺跡から標高約60mの駿河台遺跡までは遺跡が見つかっていない。そして、標高約30mの下流域にあたる扇端部では遺跡が集中する。このように駿河台遺跡は、砂川流域の旧石器時代を考える上で重要な位置にあり、今後、遺構や遺物の検討を深める必要がある。

平成9年度に実施された所沢市教育委員会の発掘調査（以下、市教委調査）では旧石器時代以外にも縄文時代の集石土坑や炉跡が検出され、加曽利E式期の土器が出土している（所沢市埋蔵文化財調査センター1999）。また、今回の調査（以下、事業団調査）でも遺構は検出されなかったが、縄文時代早期の土器片が出土している。これは、現在旧石器時代の遺跡とされている遺跡が、縄文時代あるいはそれ以降の時代との複合遺跡となる可能性を示しているのではないかと。

次に発掘調査で検出された遺構の分布について、事業団調査と市教委調査とを含めて取り上げてみたい（註1）。

事業団調査は面積が1,480㎡、遺跡範囲のほぼ

中央にあたる。市教委調査はそこから約200m南西に延びて、遺跡範囲の西端に達している。調査面積は3,780㎡である。両調査区は北側が高く、南側が低くなっており、調査区の南側はさらに低くなっている。事業団調査では、調査区の南側約2/3の緩やかな斜面に大半の石器集中や礫群等の遺構が分布する。市教委調査は事業団調査の西側から農道で区画された畑ごとに1区から4区に分けられ、各区で石器集中や礫群が検出されている（第41図）。

遺構の検出された箇所を現在の等高線と合わせてみると、ほぼ標高57m～59mの範囲となっている。また、事業団調査の北西側と南東側には遺構は確認されていない。市教育委員会の試掘調査では、市教委調査の1区の北西側や4区の南西側から南東側にかけての畑地でも遺構は確認されなかった。遺構は限られた標高の範囲で、等高線の間隔が比較的狭いところで検出されている。このことを駿河台遺跡の遺跡範囲内で当てはめると、事業団調査の北東側に認められるが、極めて狭い範囲になってしまう。但し、標高を55mまで下げると、さらにその北東側に広がる可能性がある。一方この条件では、調査区の北側の平坦な地形には、遺構が検出される可能性は低いと言わざるを得ない。

今回の調査では畑作による多くの攪乱が見られた。このことが遺跡の範囲や遺構の存在を分かりにくくしている大きな原因と思える。

今回の駿河台遺跡の発掘調査で出土した黒曜石に対し、産地を推定するための蛍光X線分析を当事業団で行った。黒曜石の蛍光X線分析では、所沢市に隣接する東京都東村山市の市史編さん事業にともなって、周辺市町村を含めた分析が行われている（東村山市2001）。この際に所沢市の資料も分析が行われ、所沢市教育委員会が平成9年

度を実施した駿河台遺跡の発掘調査時に出土した資料や、森野氏が駿河台遺跡の遺跡範囲内で表面採集した資料も含まれている。東村山市の分析は、国立沼津工業高等専門学校の望月明彦氏に依頼して行われたものであり、当事業団の分析は、同工業高等専門学校の望月研究室から原石の提供を受けて2005年度から実施しているものである。今後の検討材料とするため、分析結果の概略を記しておく（第13表）。

事業団調査区の黒曜石は、石器集中から出土したものを中心に23点を資料とし、箱根系が5点、信州系が7点、不明が11点という結果が得られた。箱根系は5点全てが畑宿群で、信州系は和田峠群3点、冷山群2点と星ヶ台群、男女倉群各1点である。詳細は第Ⅵ章に記載している。

東村山市が分析した中で、所沢市教育委員会調査区出土の黒曜石は、ナイフ形石器2点、スクレイパー1点、槍先形尖頭器2点の合計5点が分析されている。分析の結果は、諏訪星ヶ台2点、和

田小深沢群、和田土屋橋北群、和田鷹山群各1点で、全て信州系である。森野氏表面採集の黒曜石は、ナイフ形石器11点、スクレイパー、槍先形尖頭器各4点、楔形石器、二次加工のある剥片各1点の合計21点である。分析の結果は、蓼科冷山群9点、和田鷹山群2点、和田ぶどう沢群、和田土屋橋西群、諏訪星ヶ台群各1点、天城柏峠群2点、箱根畑宿群1点で、不可（不明）が4点となっている。信州系14点、箱根系が3点である。

これら分析結果を集計すると、資料数は49点、このうち産地推定ができたものが34点で、不明が15点である。産地は信州系が26点と約76%を占め、残りが箱根系である。信州系と箱根系が混在する点に意味があるのではないかと考える。

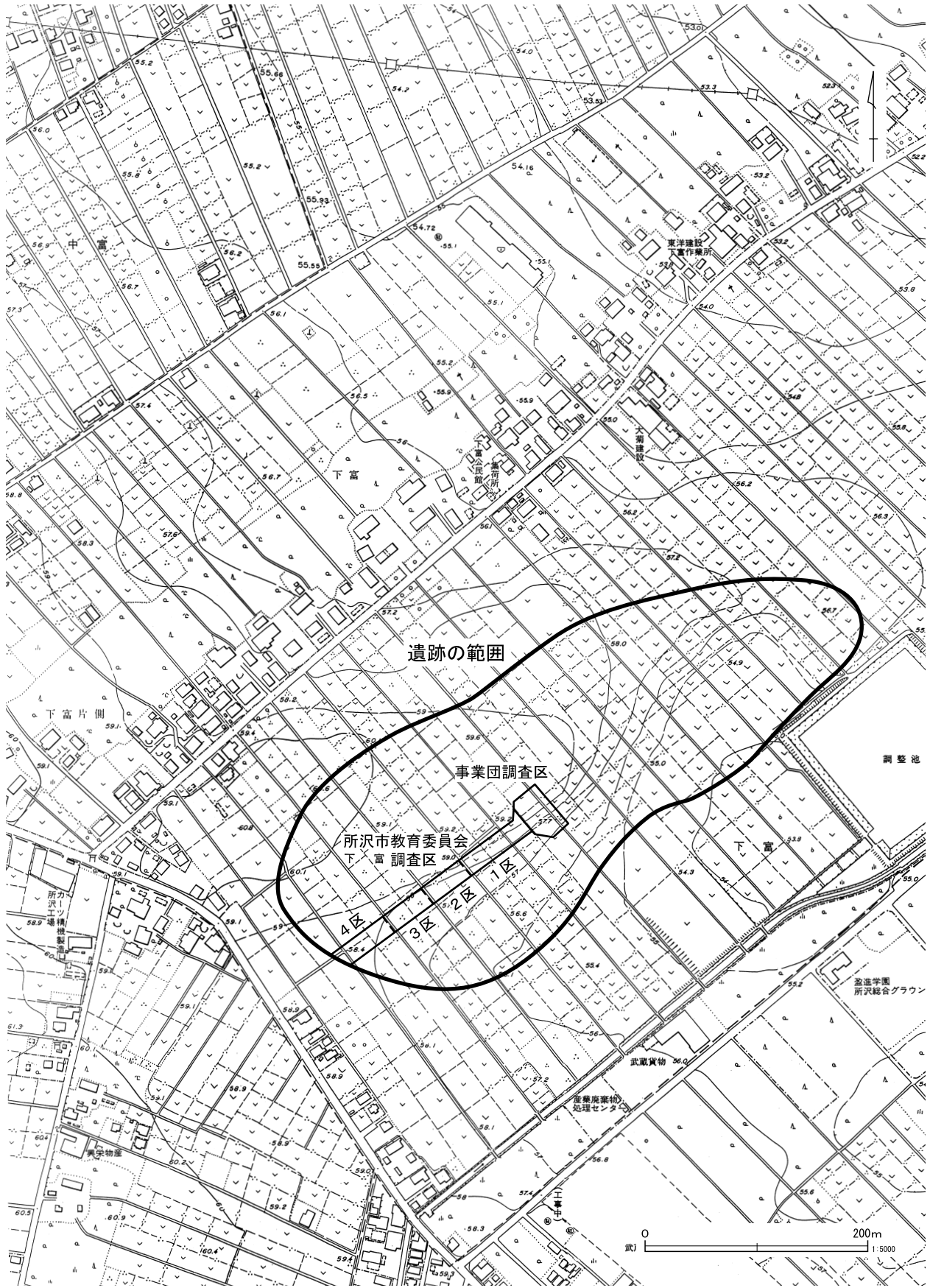
註

- 1 所沢市教育委員会の調査に関しては同市立埋蔵文化財調査センター年報4をもとにし、同センター中島岐視生・古谷芳貴両氏からも多くのご教示をいただいた。

第13表 駿河台遺跡黒曜石産地推定集計表

資料	器種	産地推定結果	資料	*	器種	産地推定結果
1 事業団調査資料	原石	不明	24 所沢市教委調査資料	152	スクレイパー	諏訪星ヶ台群
2	剥片	畑宿群	25	153	槍先形尖頭器	諏訪星ヶ台群
3	碎片	不明	26	154	ナイフ形石器	和田小深沢群
4	剥片	不明	27	155	ナイフ形石器	和田土屋橋北群
5	剥片	和田峠群	28	156	槍先形尖頭器	和田鷹山群
6	剥片	畑宿群	29 森野譲氏表面採集資料	14	ナイフ形石器	蓼科冷山群
7	剥片	不明	30	15	ナイフ形石器	蓼科冷山群
8	剥片	不明	31	16	ナイフ形石器	蓼科冷山群
9	二次加工のある剥片	畑宿群	32	17	ナイフ形石器	蓼科冷山群
10	剥片	不明	33	18	ナイフ形石器	蓼科冷山群
11	剥片	冷山群	34	19	ナイフ形石器	蓼科冷山群
12	碎片	不明	35	20	槍先形尖頭器	蓼科冷山群
13	剥片	畑宿群	36	21	スクレイパー	蓼科冷山群
14	剥片	和田峠群	37	22	スクレイパー	蓼科冷山群
15	剥片	不明	38	23	ナイフ形石器	和田鷹山群
16	剥片	不明	39	24	槍先形尖頭器	和田鷹山群
17	スクレイパー	和田峠群	40	25	ナイフ形石器	箱根畑宿群
18	ナイフ形石器	男女倉群	41	26	スクレイパー	天城柏峠群
19	碎片	不明	42	27	スクレイパー	天城柏峠群
20	二次加工のある剥片	畑宿群	43	28	ナイフ形石器	和田ぶどう沢群
21	スクレイパー	不明	44	29	二次加工のある剥片	諏訪星ヶ台群
22	ナイフ形石器	星ヶ台群	45	30	楔形石器	和田土屋橋西群
23	ナイフ形石器	冷山群	46	31	ナイフ形石器	不可
			47	32	ナイフ形石器	不可
			48	33	槍先形尖頭器	不可
			49	34	槍先形尖頭器	不可

\*の番号は東村山市史の原産地推定分析のNoである。



第41図 駿河台遺跡発掘調査位置図



## 引用・参考文献

- 上野真由美 1998『下向沢／中原』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第213集
- 上野真由美 1999『膳棚東遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第215集
- 大屋道則 1999『戸張／中原』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第237集
- 加藤秀之 2007「武蔵野台地北部の旧石器時代遺跡－「野水遺跡群」を中心にして－」『考古学リーダー11 野川流域の旧石器時代 明治大学校地内遺跡調査団編』六一書房
- 加藤秀之 2008「武蔵野台地北部における後期旧石器時代遺跡の立地環境」『考古学リーダー14 後期旧石器時代の成立と古環境復元 多摩川流域の考古学的遺跡の成立と古環境復元研究会編』六一書房
- 狭山市 1986『狭山市史 原始・古代資料編』
- 新藤 健 2007『西上遺跡第1次調査・遺物編』所沢市埋蔵文化財報告書第41集
- 砂川遺跡調査団 1997『砂川旧石器時代遺跡－範囲確認調査および砂川流域旧石器時代遺跡群分布調査報告書－』所沢市教育委員会
- 石器文化研究会 2006『第11回石器文化交流会発表要旨』第11回石器文化研究会埼玉実行委員会
- 所沢市 1991『所沢市史 上』
- 所沢市 1987『所沢市史 原始・古代史料』
- 所沢市埋蔵文化財センター 1999『所沢市埋蔵文化財調査センター年報4』
- 西井幸雄 1986『中砂遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第60集
- 西井幸雄 2000「多摩川流域と武蔵野台地の遺跡立地と地形環境 武蔵野台地北西部」『多摩川流域の段丘形成と考古学的遺跡の立地環境 比田井民子編』財団法人とうきゅう環境浄化財団
- 西井幸雄 2006「武蔵野台地北部扇状地の微地形と遺跡」『第11回石器文化交流会発表要旨』石器文化研究会
- 西井幸雄 2006「遺跡報告 駿河台遺跡」『第11回石器文化交流会発表要旨』石器文化研究会
- 野口 淳 2006「武蔵野台地北部の地形－谷・凹地の段丘形成モデル－」『第11回石器文化交流会発表要旨』石器文化研究会
- 東村山市 2001『東村山市史5 資料編 考古』
- 昼間孝志 2000『村中遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第261集
- 平田一乗・古谷芳貴・田中 淳 2007『市内遺跡調査報告13』所沢市埋蔵文化財報告書第40集
- 松本富雄 2006「武蔵野台地北部の埋没谷と旧石器時代遺跡－埋没谷の形成と遺跡の分布」『第11回石器文化交流会発表要旨』石器文化研究会
- 村田健二・山本 禎・大谷 徹 2006『膳棚東Ⅱ／東内出／北久米』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第325集
- 森野 譲 1993「埼玉県駿河台遺跡の発見について」『明日への文化財33号』文化財保存全国協議会編集
- 森野 譲 2006「武蔵野台地北部の遺跡分布と野水遺跡群」『第11回石器文化交流会発表要旨』石器文化研究会
- 柳田敏司ほか 1973『七曲井－復元発掘の記録－』狭山市文化財調査報告Ⅱ